

穂乃果「王様ゲームだよ！！」

naonakki

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

みんなが王様ゲームするだけの話です。（19話まで）キャラ崩壊激しいです。

20話からは、みんなで沖縄旅行を楽しんでもらっているお話です。

# 目次

穂乃果「王様ゲームだよ!!」	1
第2話	14
第3話	21
第4話	26
第5話	32
第6話	37
第7話	42
第8話 千歌「アクアも乱入するよ!」	49
第9話 千歌「とうとう合流!」	55
第10話	60
第11話 千歌「ごはん休憩!1」	66
第12話 千歌「ごはん休憩!2」	72
第13話 穂乃果「王様ゲーム再開!」	79
第14話	85
第15話 千歌「アクア全員集合!」	92
第16話 「恐怖のレスモンスター」	98
第17話 「ピンクの悪魔」	105
第18話 「寺娘の命令」	112
ことり 「いよいよラストです♪」	119
第1話 ことり「沖縄旅行編スタートです♪」	125
第2話 千歌「沖縄に出発だよ!!」	130
第3話 悪夢の幕開け	135
第4話 恐怖のバスツアー開始	141
第5話 恐怖のバスツアー PART2	146

第6話	恐怖のバスツアー	PART 3	151
第7話	レズ&カリスマフロント嬢登場		156
第8話	カリスマフロント嬢PART 2		162
第9話	部屋にて・・・PART 1		167
第10話	部屋にて・・・PART 2		172
第11話	部屋にて・・・PART 3		179
第12話	部屋にて・・・PART 4		186
第13話	部屋にて・・・PART 5	引き出しネタ終了	
191			
第14話	海未「まだまだこれからです！」		196
第15話	恋バナ		201
第16話	昼食争奪戦	替え歌選手権	その1
第17話	昼食争奪戦	替え歌選手権	その2
第18話	鬼ごっこ開始		218

穂乃果 「王様ゲームだよ!!」

穂乃果 ・ 「よし、じゃあ……王様ゲームは始めるよー！！！！」

全員 ・ 「「いえええwwwwww~~~~いいいいwwwwww!!!」」

穂乃果 ・ 「じゃあ簡単にルール説明するよ！」

!!!!

穂乃果 ・ 「①まず、全員がこのくじを引いてもらいます。これに王様もしくは1から8までのどれかの文字が書いてあります。」

穂乃果 ・ 「②そして王様の紙を引いた人は、1から8の好きな数字の人に何か一つだけ命令をすることができます。」

穂乃果 ・ 「③そして……王様の命令は~~~~」

全員 ・ 「「絶対!!!」」

絵里 ・ 「ふふふ!!このKKEことかしかわいいエリーチカの実力を思う存分味わうがいいわ……。」

凜 ・ 「いやいや、王様ゲームはただの運ゲーだにやwww」

希 ・ 「見えるで、うちが王様になる未来が……」

海未 ・ 「絶対にババ抜きの際の借りを返します……。」

ことり ・ 「ふふふ、どんな命令しよつかなく」

真姫 ・ 「……。」ワクワク↑王様ゲームするのは初めて

にこ ・ 「(真姫ちゃんめちやくちやくわくわくしてるwww)」

花陽 ・ 「(お腹減ったな……ご飯食べたい)」

穂乃果 ・ 「じゃあ早速始めるよ!!!」

穂乃果 ・ 「せ〜の……」

全員 ・ 「「王様だーれだ!!!」」

穂乃果 ・ 「あっ、私だ!!!」

他 ・ 「……。」

穂乃果 ・ 「ふふふ、じゃあどうしようかな〜???

穂乃果 ・ 「じゃあ……一番が全力で希ちゃんの物真似する、

で!!」

希 ・ 「!？」

海未 ・ 「……私ですね」

海未以外・「ふwwwwww」希・「……………」

海未・「では……………」

海未・「……………」

他・「？」

海未・「九人や!!!!うちを入れて!!!!」ドヤツ↑滅茶苦茶似てる

他・「wwwwww!!!!」希「」

穂乃果・「あは、あはははははwwwww、なんでそんなに似てるのさwww」

凜・「に、似すぎにゃwwwwww」

ことり・「~~~~~~~~」バンバン↑ツボにはまりすぎて机たたいている

にこ・「ふww見事な滑り出しねwww」

絵里・「やるわねww海未www」

真姫・「ふふwww(おもしろいけど、私もこんなことしなければならぬのかしら……)」

希・「いやいやいやいやいやいや、絶対こんなんちやうかつたつて!?!?!何が似てるやねん!!あんなドヤ顔してへんわ!!あと、ことりちゃん笑いすぎや!!」

海未・「……………さあ、はやく次いきますよ。」

希・「無視かい」

穂乃果・「ふww、そうだね、よーしじゃあせーの!!」

全員・「「王様だーれだ!!!」」

真姫・「あ、私だわ!!!」

凜・「(真姫ちゃん、すごい嬉しそう……ww)」

にこ・「(真姫ちゃん、すごい嬉しそうねw)」

真姫・「え、えーと、それじゃあ、二番が四番に全力でピンタでことり・「ふwww、結構ハードだねww」

絵里・「二番と四番は誰？」

海未・「二番ですね」・穂乃果・「……………四番じゃん」

他・「wwwwww」

にこ・「まwwwまさかのwww」

ことり・「~~~~~」バンバン↑またツボに入ってた  
たたいている

絵里・「こ、ことり笑いすぎwww」

希・「あんな命令した罰やwww」

凜・「ほ、穂乃果ちゃん、頑張つてwww」

花陽・「……私も誰かのこと全力でビンタしてみたいな」

海未・「では、穂乃果？行きますよ？」

穂乃果・「え？ちよつと待って、優しくだよね？ゲームだよ？ね？

あの時みたいに全力でビンタしないよね??」

ことり・「wwwwwwほ、ほのwほのかちゃん、あの時wwとw  
かwww言わないでwww死んじゃうwww。」

花陽・「(なんでことりちゃんこんなに笑つてるんだろ……)」

にこ・「ふwww、だめよ穂乃果！命令は全力でなんだから!!全力  
でビンタされなさい!ww」

穂乃果・「嫌だよ!!!他人事だと思つて!!海未ちゃんの力知らないの  
???穂乃果の首飛んで行っちゃうよ!?!」

凜・「wwwそんなわけないにやwww」

絵里・「そうよwwwいいから早く終わらせちやいなさい、そのほう  
が楽よ?w」

海未・「そういうわけです。行きますよ!!穂乃果!!」

穂乃果・「どういうわけさ!!ちよ、ちよつと暴力系はよくないよ!!  
ちよ、ほんとに!」

にこ・「往生際わるいわよwwwビンタされるだけじゃないww  
穂乃果・「だけつてぬあああにさーーー!!!じゃあ変わつて  
よおおおー!!!」

他・「wwwwww」

ことり・「wwwwwwひつwwwし、wwwしぬwwwわwwwわ  
いすwwwぎwwwでwww」

花陽・「(ことりちゃんってこんなキャラだっけww)」

凜・「穂乃果ちゃん、荒れすぎにやwwwなんでそんなにwww」

真姫・「(私の命令つてそんなにきついものだったのかしら?)」





他・「ｗｗｗｗｗｗ」

凜・「まｗｗｗｗまだｗｗ言つてたにやｗｗｗｗ」

にこ・「折れてるわけないでしょｗｗｗｗｗｗｗｗ」

ことり・「・・・・・・・・・・・・・・・・」びくんびくん↑まだ痙攣して  
てる

花陽・「なんだか今のことりちゃん顔真っ赤で汗ばんで・・・すごい  
エロい・・・・・・・・。」

絵里・「でもちよつと穂乃果がかわいそうに見えてきたわｗｗ」

海未・「私がそんなハマするわけないでしょう。」

希・「よし、次や！次いこｗｗｗｗ」

穂乃果・「・・・・・・・・・・まだヒリヒリしてる。」

にこ・「それじゃあいくわよ??せーのの!!!」

全員・「王様だーれだ!!!」

希・「おっしやー!!!うちやー!!!」

ちっ・・・・・・・・

希・「誰や!?今舌打ちしたん!?!?!?まあええわ、ほなどうす  
るか・・・・・・・・。」

希・「よし、じゃあ五番がアライズのツバサさんに告白する、で。

あ、もちろんおふざけなしな」

にこ・「ちよｗｗそれはｗｗ」

凜・「何気に一番きつそうにやｗｗ」

真姫・「で、肝心の五番は誰なの?」

穂乃果・「・・・・・・・・穂乃果だよ。」

絵里・「また穂乃果?ｗｗ」

海未・「・・・・・・・・ふｗｗ」

ことり・「穂乃果ちゃんｗｗｗｗ踏んだり蹴つたりだねｗｗ」↑な  
んとか復活した

希・「はい、じゃあ今コール中やから、頑張つて」つまホ

穂乃果・「・・・・・・・・どうなつても知らないからね?」

(もちろんスピーカー)

ツバサ・「はい、もしも?希さん? 珍しいわね、何か用かしら

？」

穂乃果「あくえつと、私高坂穂乃果です、お久しぶりですツバサさん。」

ツバサ「穂乃果さん？ええ、お久しぶりね、それでどうしたのかしら？」

穂乃果「……えと、少し伝えたいことがあって……」  
他「……」

ツバサ「そうだったの、それで伝えたいことは何かしら？」

穂乃果「……実は、ツバサさんのことが好きです。それを伝えたく電話しました。」

穂乃果「(どうせ、すぐ断って終わるよね？はあくでもツバサさんに今後会いづらいな……)」

他「……」

穂乃果「(まさか穂乃果の初告白がこんな形になるとは……。てか周りうるさい……)」

ツバサ「……それは本気かしら？」

穂乃果「……」チラツ↑希のほうを見る

希「当然」↑カンペ

穂乃果「……はい、本気です。冗談なんかじゃありません。」

他「……」ゴクリ

ツバサ「……そう、穂乃果さんの気持ちはわかったわ。……それじゃあ……?」  
それじゃあ……?」  
それじゃあ……?」  
それじゃあ……?」  
それじゃあ……?」

全員「……」穂乃果「……」

ツバサ「!!」  
ツバサ「!!」  
ツバサ「!!」  
ツバサ「!!」  
ツバサ「!!」

わ。私も穂乃果さん事が好きって……」

穂乃果「……」

ツバサ「……」  
ツバサ「……」  
ツバサ「……」  
ツバサ「……」  
ツバサ「……」

穂乃果「……」ツーツー

他・「……………」

希・「…………よつしや、次いくで!!!」

穂乃果・「いやいやいやいやいやいやいや。…………どうするのさ!?!」

希・「何のこと??!」

穂乃果・「今まさにこの状況のことだよ!?!?!」

希・「…………まああれやな。恋人<sup>出!</sup>来ておめでと。」

穂乃果・「怒るよ?希ちゃん?」

希・「じよ、冗談やつて穂乃果ちゃん。悪いと思ってるよ。まさかこうなるとは…………。」

穂乃果・「うう、いつたいツバサさんにどう説明すればいいのさく、下手したら殺されちゃうよ…………。」

希・「いやあく、さすがに殺されへんやろ…………たぶん。」

穂乃果・「んもうっ!!!希ちゃんが変な命令するからだよ!!!」

穂乃果・「ああ、穂乃果どうすれば…………死ぬのは嫌だよ…………。」

希・「…………穂乃果ちゃんはツバサさんと付き合おうの嫌なん?」

穂乃果・「…………いや、別に嫌ってわけでもないけど…………でもこんなのでてて!」

花陽・「(これ結構すごいことなんじゃ…………)」

希・「さて、穂乃果ちゃんの照れた顔も見れたことやし、ええで入っ  
てくれて!」

ツバサ・「はくい、ミューズの皆さん!」↑部屋のドアからツバサ

登場

希以外・「えっつ!?!?!」

希・「協力してくれ!ありがとうございます、ツバサさん。」

ツバサ・「いいのよ、むしろこんな面白そうなことに招待してくれ  
て感謝してるわ」

他・「…………」

穂乃果・「え?え?!!」

希・「あはは、うちがあんな命令するわけないやん?ドツキリ大成  
功ってわけや!」

花陽・「(……………なんだ)」

穂乃果・「な、なんだそうだったんだ、はあく安心した……………」  
にこ・「これは希にしてやられたわね。」

海未・「見てるこっちまで心臓に悪かったですよ。」

ツバサ・「まあ、私は本当に穂乃果さんと付き合ってもいいけどね  
?」

穂乃果・「……………え／＼／＼」

ツバサ・「なんてね」テヘツ

穂乃果・「」

ことり・「(照れた穂乃果ちゃん可愛い。)」

凜・「ことりちゃん、鼻血出てるよ?」

穂乃果・「うもうっ!!じゃあ早く次いくよ!!」

ツバサ・「あ、その前に。実は来たの私だけじゃないのよ。」

にこ・「え、ってことはまさか……………」

あんじゆ「はくい、そのまさかです」

えりな・「……………邪魔するぞ」

希・「つてことで今からアライズの皆さんにも王様ゲームに混ぜつ  
てもらうから。」

絵里・「それはもちろん大歓迎だけでもし、希が王様にならなかつ  
たらツバサさんたちはどうするつもりだったの?」

希・「……………まあその時は……………出番なしやな。」

にこ・「ふwwwwあんたねえ、そこはちゃんと考えときなさいよw」

希・「まあまあ王様になったからええやんw。」

穂乃果・「よし、じゃあ今度こそいくよ?せくの!!!」

全員・「「王様だーれだ!!!」」

あんじゆ「あら?私が王様ね♪」

全員・「……………。」

あんじゆ「そうねくそれじゃあ、7番が女の子を一人ナンパしてお  
茶してくる、で♪」

にこ・「絵里とか海未だったら楽勝そうなお題ね……………」

凜・「(これ凜じゃなくてよかった……………)」

穂乃果・「七番は誰？」

真姫・「・・・・・・・・私よ」

全員・「w w w w w w w」

希・「いw w 一番ナンパできなさそうな真姫ちゃんw w w」

ことり・「が、がんばってw w 真姫ちゃんw w w」

ツバサ・「(この罰結構しんどのよね・・・・・・・・)」↑経験済み

真姫・「・・・・・・・・」

真姫・「あ、あとう・・・・うう」↑校門まで来て通りがかる生徒に声をかけようとしている

にこ・「これw w はw w w ひどいw w w」↑近くの陰で見物中

希・「これ今日中に終わらんでw」

あんじゆ「うふふふ♪」

海未・「(あんじゆさんの命令は絶対に受けたくないですね・・・)」

真姫・「(こ、このままじゃ、完璧美少女まっきーの名に関わるわ・・・・。こうなったら手当たり次第に声をかけるわ・・・・っ！早速後ろに人の気配が！いくのよ、まっきー！)」

真姫・「あの!!、私とお茶飲みに行きませんか!!!!」振り返りながら

理事長・「え？私??」

真姫・「」

全員・「w w w w w w w w w」

穂乃果・「あは、あはははははははははw w w w」

ことり・「おw w w おかw w あw w おかあさんがw w w ナンパw

w w w されたw w w w」

凜・「こw w w w こんなw w w のはんw w w そくw w にやw w w

w」

にこ・「真姫ちゃんの顔w w w w w w」

えりな・「・・・・・・・・」。↑よくわからない

理事長・「いきなりでびっくりしたけど、まあちょうど喉乾いたし学校前のカフェに行きましようか？」

真姫・「」

↳三十分後

真姫・「……………ただいま」

他・「……………。」

真姫・「……………笑えばいいわよ。」

他・「wwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

真姫・「次よっ！次！次いきましょ!!!」

花陽・「(命令は「女の子」をナンパだったけど……………まあどうでもいいか)」

穂乃果・「ふふwwwwwwじゃあいくよwせゝの！」

全員・「「王様だーれだ!!!」」

海未・「……………私ですね(やっときましたね)」  
にこ・「……………きたか)」

穂乃果・「(正直海未ちゃんの命令が一番こわいよ……………)」  
ことり・「……………。」↑真顔

凛・「(凛に命令が来ませんように…………)」

希・「……………海未ちゃんの目マジや…………)」

ツバサ・「?(急に空気が変わったけどどうしたのかしら)」

海未・「そうですね……………では三番の方が…………)」

ツバサ・「(三番?! 私だわ!)」・他・「(助かったー!!!)」

海未・「ススメトウモロウをPV通りの動きで踊ってもらいましょ  
うか、穂乃果の動きを最初からです。」

ツバサ・「」

穂乃果・「……………ぐつww(三番はツバサさんかwwww固まっ  
てるwwww)」

希・「きつついな……………w」

あんじゅ「(どんな曲かしら?!)」

海未・「では、さっそく…………)」

ツバサ・「まってまってまってまって、死ぬわよ?前半で??私死ぬ  
わよ?恐怖心なしのありえない跳躍から階

段のてすりに飛び移るところかもしくは車に轢かれて死ぬわよ  
?????

他・「w w w w w w w w w w w w w w w w w」

穂乃果・「w w w w w w w w w w w w 詳しいですねw w w w」

にこ・「こw w w こんな必死なアライズの姿は見たくなかったわw w w」

花陽・「(海未ちゃん絶対サイコパスだよね・・・)」

海未・「大丈夫です。さすがにヘルメットの着用は許可します。」

ツバサ・「危険って認めてるじゃない!!! ていうかそんなのあってもなくても変わらないわよ!!! あんな動き実際したら死ぬわよ!!! 私は芸人じゃないのよ!!!」

穂乃果・「(・・・なんか穂乃果が芸人みたいには聞こえるな)」

えりな・「こんなに荒れるツバサは初めて見るな・・・w」

ことり・「(・・・実際穂乃果ちゃんどうやってあんな動きしてたんだろ? w w) ツバサ・「大体ねえ!!! ミューズにしろアクアにしても、主人公高く空に向かってジャンプしすぎなのよ!!! 何!?! 主人公は曲のたびに飛ばないと死ぬの?!!!」

穂乃果・「そw w w そんなことw w w w w w w w w w w 失礼なw w w」

希・「アクアとかやめーやw w w w w w w w 時系列無茶苦茶になるやんw w w」

ことり・「w w w w w w w w w w w w ↑ツボにはまった

海未・「ではヘルメットはなしでいいんですね? ではさっそく踊つてもらいます」

ツバサ・「

凜・「海未ちゃんw w w w w w w 淡々としすぎw w w w w」

にこ・「これw w w w w w w w w w w いいの? w w w」

真姫・「大丈夫よ!! 万が一怪我してもこのまきちゃんが治してあげるわ!!!」↑さっきの一件で少しテンションがおかしくなってる

ツバサ・「

ツバサ・「本当にやるの??」↑携帯に向かって  
海未・「……………」カチッ↑曲開始のボタン  
ことり・「(wwwwww海未ちゃん容赦なさすぎwww)」  
→一緒に踊るため階段下の道で待機中  
フア〜♪♪↑ススメトウモロウ開始  
ツバサ・「(こうなったらやってやるわ!!…………でもヘルメットかぶればよかったああ)」

ツバサ・「だって〜♪かのう〜せ〜い♪か〜んじたんだ〜♪」  
穂乃果・「なんかすでに面白い(wwwww)」

凜・「(音程もリズムもばつちりにや(wwwww))」  
ツバサ・「そうだ〜♪すすめ〜♪」

後悔した〜♪ないめ〜のまえに〜♪  
僕らの〜みちがある〜♪」

希・「(歌詞とこの状況がマッチしなさすぎておもしろい(wwwwwww))」

あんじゅ「(なんでツバサはよそのアイドルグループの曲を知ってるのかしら?)」

にこ・「(さあ(wwwww)ここからよ(wwwwwww))」

穂乃果・「(ツバサさん(www)大丈夫かな? (wwwww))」

ツバサ・「レッツゴー→ドウ→アイドゥ アイライブイエス ドゥ  
→アイライブレッツゴレッツゴおおひついいいいいい  
↑階段まで勢いよく走っていったが飛ぶ直前に恐怖心が襲ってきた  
結果ものすごい小さいジャンプで手すりに飛び乗り、さらに予想以上に  
速い速度で降りていったため恐怖するツバサ

他・「(wwwwwwwwwwwwwwwwwwwww)」

にこ・「(wwwwwww全然飛んでない(www))」

えりな・「(wwwwwww↑ツボにはまった

絵里・「これファンが見たらどう思うのかしら(www)」

凜・「ひいいいって(wwwww)にやははは(wwwww)」

海未&ことり・「(wwwwwww)」

ツバサ・「~~~~♪はい→♪♪1、2sど〜おっつ!!」↑車に轢





## 第2話

穂乃果「王様ゲームだよ!!」の続きです

穂乃果・「よし、じゃあ次いくよ、せうの!!!」

全員・「王様だーれだ!!!」

凜「やったにや、凜にや〜!!」

ツバサ（園田さんじゃなくてよかつた・・・）

凜「えくと、じゃあ2番が絵里ちゃんの物真似しながら5分間喋り続けるで。」

真姫「どういう命令かよく分からないわね。一度見本を見せてもらってもいいかしら?」

凜「学校のきよかああああ??? w w w w 認められ n w w w w」  
↑途中でなぜか急に面白くなってきて笑い出してしまっ

他「w w w w w w w w w w」絵理「ちよつと待つて」

にこ「ちよ w w w w、途中で w w 笑わないでよ w w w w w」  
凜「だめ w w w w なんか耐えられなかったにや w w w w」

海未「真似の仕方に悪意しかなかったですね w w w」  
穂乃果「真姫ちゃんも w w w 余計なこと w w 聞かなくていいよ w

w w」  
真姫「w w w w w w w w w」

絵里「ちよつと、私あんなこと言ってないわよっつ!!!」  
凜「で、2番は誰にや? w w w」

ことり「はい、ことりです w w」  
穂乃果「ここに来てことりちゃんか w」

真姫「今のところことりは馬鹿みたいに笑ってしかないものね。」

ことり「真姫ちゃんひどい w w その通りだけど w w w」  
絵里「・・・。。。。。」

えりな（綾瀬さんは確か3年生だったはずだが・・・w）



ことり 「だってw w w w」

真姫 「川柳みたいになってるしw w w w」

凜 「ことりちゃん、まだ時間残ってるよ?」

希 「凜ちゃんもまあまあ鬼畜やなw w」

ことり 「うくん・・・ロシア語・・・ハラショー以外・・・

何かあるの?w w w」

希 「あるに決まってるやろw w w w w」

穂乃果 「最早物真似でも何でもないw w w w w」

真姫 「だからなんで川柳風w w w」

絵里 「・・・早く終わらないかしら」

ことり 「やっと終わった・・・w w」

穂乃果 「後半ことりちゃん笑ってたんだけどねw」

ここ 「本当にお腹痛いw w」

絵里 「・・・。」

アライズ (よくわからなかった・・・。)

穂乃果 「よしそれじゃあ次いくよおく・・・」

全員 ・「王様だーれだ!!」

絵里 「あら・・・、私だわ・・・」↑無表情

他 「・・・。」

ことり (これは・・・まずい、まあ確定でことりに命令が来るってわけじゃないから大丈夫だよな?)

凜 (やばい、まあこれだけ人数いたら凜に命令来るわけないにや)

ここ 「・・・。」

穂乃果 「すごいタイミングだねw、それで絵里ちゃん命令は?」

絵里 「そうねえ・・・、ん?」↑スマホがラインメッセージを

受信したことに気付く

ここ (ライン) 「ことりは4番、凜は2番」

絵里 「・・・。」チラツ↑にこの方を見る

にこ 「……………」グツ↑他に見えないよう親指を立ててる  
海未 「絵里どうしたのですか?」

絵里 「いいえなんでもないわ、じゃあ…2, 4, 6番は海未  
と山頂アタックで」↑なんとなくて6番も追加した

ことり&凜 「真姫」「↑巻き込まれた

海未 「聞きましたね。さあ!三人とも行きますよ!」

ことり 「ちよつと待って!」

海未 「何ですかことり?」

ことり 「何かにこちゃんと絵里ちゃんが怪しい感じの視線のやり  
取りしてたよ?絶対何かあるよ!」

海未 「と、言ってますが??」

にこ 「ん? 違うわよ? 本当よ?」

海未 「だそうです。じゃあ行きますよ。」

他 「w w w w w w w w w w」

ことり 「ちよつとおお、海未ちゃん?!?!? にこちゃん明らかに怪し  
かったじゃん?!?!」

海未 「ふむ、クマが出るかもしれませんがあそこにします  
か……………」

ことり 「ちよつとおおお、誰かああああ助けてええええ?!?!?!」

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

希 「ことりちゃん笑ったり叫んだり情緒不安定すぎやろw w  
w w w w」

穂乃果 「今日のことりちゃん絶好調だねw w w w」

にこ 「w w w w w w w w w w」

花陽 (真姫ちゃんと凜ちゃんは完全に諦めてる…………w w w)

ことり 「う、海未ちゃん!!!」

海未 「?」

ことり 「お、おねがぁいい♡」

海未 「何がですか、それより早く行きますよ。」

穂乃果 「効果なしw w w w w w w w」

希 「w w w w w w w w w w」

ことり 「海未ちゃん!? そこは顔を赤らめて、しようがないです  
ねっていうところだよおお!!?」

海未 「では、皆さんちよつと行ってきます」

他 「いってらっしやい」

ことり 「そんなあああああああああ」

ツバサ 「山頂アタックとは……」

あんじゆ （全然わからないわね……）

三人 「……………」チーン 海未「……………」

スツキリ

ツバサ （何があつたのかしら……）

希 「地獄絵図やなwww」

絵里 「……………」↑真姫に悪いことしたと思ってる。

穂乃果 「よし、じゃあ早速次いくよ」

にこ 「穂乃果www全然休ませる気ないわねww」

穂乃果 「せくのっ!!」

全員・ 「「王様だーれだ!!」」

あんじゆ 「あら、また私ね。」

穂乃果 （あんじゆさんか、正直ミューズ以外はどうなるかよくわ  
からないからちよつと怖いね……）

真姫 （もう何が来ても乗り越えられる気がする……）

あんじゆ 「それじゃあ2番はセクシーポーズ取りながら男性を誘惑  
する真似をすること♪」

希 「これまたぶち込んできたなw（よかつた違うくて……）」

穂乃果 「誰がするの?ww」

真姫 「……………」2番よ。」

他 「wwwwwwwww」

絵里 「また真姫www」

ことり 「wwwwww」↑復活した

にこ 「断言できるけど絶対誘惑できないwww」



ことり 「・・・ふww」↑まだ余韻が残ってる

希 「あんなん最早テロやろw」

にこ 「ちよつと本当にそういうこと言うのやめてww」

真姫 「」

穂乃果 「ふくじやあ次行こうかww」

つづく？



## 第3話

穂乃果 「王様ゲームだよ!!」 第2話の続きです

全員・ 「王様だーれだ!!」

希 「おっしやああああああああ、うちやでええええええええ  
!!!????」

他 「w w w w w w w w w w w w w w」

にこ 「うるさw w w w w」

穂乃果 「どうしたのw w w w w希ちゃんw w w w w」

ことり 「もうw w w w wわからないけどw w w w w笑っちゃう

うw w w」

希 「いや、さつき王様になった時舌打ちされたから今度はそ  
うはさせまいと・・・。」

絵里 「対処法がゴリ押しすぎるわよw w」

にこ 「だんだん皆壊れてきたわねw w w」

希 「うくん、過激な罰が多かったからなく。じゃあ3、7番は  
牛乳口に含んでにらめっこで行こか!」

ことり 「3番ことりだw w w w w w w w w w」

他 「w w w w w w w w w w」

穂乃果 「ことりちゃんw w w w w絶対勝てないw w w w w既に笑って  
るしw w」

ことり 「ことりもw w w w wそう思うw w w w」

海未 「7番の人は間違いなく牛乳ぶっかけられますねw w w  
w」

希 「それで7番は誰?」

あんじゆ 「・・・はい (帰りたいたい)」

真姫 「ことり、盛大に吹きかけるのよっ!!」

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

にこ 「真姫ちゃんw w w w w滅茶苦茶恨んでるw w w」

凜 「別に吹きかける競技じゃないにやw w w」

穂乃果 「目がマジだw w w w w」

ことり 「w w w w w w w w」

ツバサ 「でもこののままだとにらめっこじゃなくて牛乳吹きかけだけのゲームになるんじゃない??負けた人にペナルティとかあつたほうがいいんじゃないかしら?そのほうが緊張感生まれるでしょうし。」

希 「んゝ確かに。じゃあ負けた人は海未ちゃんと山頂アタックで。」

ことり 「ちよちよちよちよちよ、うそでしょ????何でそんなこと言うの???なんでそんなついでみたいになんかこと言うの!!!二回目だし!!!」

他 「w w w w w w w w w w」

凜 「ことりちゃんw w w いちいち王様に抗議しないでよw w w w w」

穂乃果 「ことりちゃん急に必死にならないでw w w w w w w w w w」

海未 「次はどここの山にしましょうか……。」

希 「まあまあことりちゃん、勝てばいいんやから。」

ことり 「いやいや、無理に決まってるじゃん?何言ってるの?こんなのにじめだよ。」

他 「w w w w w w w w w w」

穂乃果 「もうw w w ことりちゃんのキャラがわからないw w w」  
ツバサ 「w w w w w w w w w」

希 「はいはい、ことりちゃん言い訳は後でなw w w はい、じゃあ二人とも牛乳用意するから待ってて」

あんじゆ 「……………これ勝つても負けても地獄よね。」

ことり 「……………」。パンパン。パンパン↑頬を叩いて気合入ってる

絵里 「……………なんで私が牛乳買いに行かされたのよ。」  
アハア

えりな 「・・・あんじゅ、応援してるぞww」

凜 「ことりちゃんほつぺた真つ赤つかwwww」

穂乃果 「ことりちゃん本気だねwwww（負けるだろうけどww）」

希 「ん、二人とも牛乳口に含んだね。あ、その前にことりちゃんこれ見て」↑スマホの画面を見せる

ことり 「？」

真姫（動画）「私とお茶し・な・い？♡（腰くねくね）」↑こっそり撮ってた

ことり 「ぶううはつつつ???がっwwwwふwwwwごほっwwwwwwww」↑盛大に牛乳吹き出す!!!

他 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwww」 あんじゅ  
「↑モロに牛乳食らう」

穂乃果 「き、汚いwwwwww」

にこ 「こんなスクールアイドルいないわよwwwwwwwwwwww」

凜 「は、鼻からも牛乳、でww出ってたねwwwwww」

ツバサ 「wwwwwwwwwwww」

ことり 「へ、変なところwwwwwwゴホッwwww入ったwwwwwwし、ww死んじやうww」

真姫 「↑動画取られてたことに絶望中

希 「じゃあことりちゃんの負けっことで海未ちゃんともう一回山頂アタックねw」

ことり 「ちよwwwwちよつとwwwwそれはwwwwおwwおかしいよwwww」

穂乃果 「にらめっこはどこにwwwwww」

海未 「さあことり早く行きますよ！二度目ですからさつきよりレベル上げていきますよ!!」

ことり 「ちよつとwwww待ってwwwwせめてwwww顔wwww洗わせてwwwwww」

あんじゅ 「……………」。

穂乃果 「…………あんじゅさん、シャワー設備あるので案内します

ね？ w w w

えれな 「w w w w w w w w」

ことり 「チーン 海未」・・・。「スッキリ

希 「なんで海未ちゃんあんな元気なんやw w」

絵里 「ことり、痙攣してるわねw w w」

穂乃果 「そういえば花陽ちゃんは？さつきから見えないけど？」

凜 「かよちゃんならお腹すいたから帰るって言ってたよ？」

希 「自由かw w w w w」

にこ 「ことりも無理そうねw w w w w完全に死んでるしw w w」

穂乃果 「んくじやあ二人補充しよつか！」

絵里 「そういえば亜里沙は今日暇って言ってたわよ？」

穂乃果 「じゃあ亜里沙ちゃんとあと一人は・・・」

絵里 「まあ、後は穂乃果の妹のゆき「理事長だねっ!!」

にこ 「なw w w w w w w wでw w w w」

穂乃果 「だってことりちゃんと見た目一緒じゃん。ことりちゃん

の代わりは理事長しかいないよー！」

希 「親友になんてことをw w w w w似てるけどw w」

凜 「でも理事長どうやって呼ぶの？ どこにいるか分からない

いよっ？」

真姫 「・・・さつきお茶したとき電話番号交換したから大丈夫

よ。」

にこ 「何しつかり電話番号交換してるのよw w w w w w w w」

絵里 「w w w w w w w w」

穂乃果 「それで理事長どうだつて??」

真姫 「ええ、すぐに来るって言ってたわy「みなさんこんにちに

は南ことりの母改め理事長ですー！」

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w w w」

希 「早いわ、どこおってんw w w w w w w w w w w w w w w w w w」

絵里 「いきなり自己紹介しながら入ってこないでくださいよ  
w w w」

穂乃果 「さすが親子だねw w w」  
にこ 「これまた荒れそうねw w w」

理事長 「アライズの皆さんもこんにちは・・・ってあら？ことりは  
なんで痙攣して倒れてるのかしら？」

他 「さあ？」

理事長 「そう、まあいいわ早速始めましょうよ！」

穂乃果 「言っておいてなんですけどそれでいいんですか？w w w

w

希 「なんで理事長こんなノリノリやねんw w w w」

亜里沙 「あのくこんにちは。」

絵里 「亜里沙、来たのね。」

穂乃果 「いらっしやい亜里沙ちゃん！」

亜里沙 「あの、お姉ちゃんにはとりあえず来るよう言われたんで  
すが・・・つてきや！何か踏んだ・・・つてことりさん？」

希 「亜里沙ちゃん、ことりちゃんは別にいいから早くこつち

おいで王様ゲームするで！」

絵里 「ことりの扱いがw w w」

亜里沙 「王様ゲームですか。」

穂乃果 「そうそう、要は王様選ばれたら他の人になんでも命令  
できるんだよ！」

亜里沙 「ハラシヨク、面白そう！」

にこ (こんな純粹そうな子をこのゲームに巻き込むなんてw  
w)

穂乃果 「よししじゃあみんな揃ったし後半戦いくよ、せいの！」

全員 「王様だーれだ!!!」

つづく

## 第4話

穂乃果 「王様ゲームだよ!!」 第3話の続きです

穂乃果 「後半戦いくよ!!」

ツバサ (今まではまだ前半だったのね……)

全員 「王様だーれだ!!!」

ここ 「ここに〜にこ〜♡」

希 (にこつちか……まあ海未ちゃんとかよりはましか)

ここ 「え〜と〜、どうしようかな〜♡」

理事長 「矢澤さん、そういうのいいから早くしてくれないかしら。

時間は限られてるのよっ。」

ここ 「……すみません。」

他 「wwwwwwwwww。」

穂乃果 「理事長wwwwなんでそんなにwwww」

希 「ええやんそれぐらいwwww」

絵里 「可哀そうwwww」

ここ 「え〜と、じゃあ1、3、5番にドロドロの三角関係を演じ

てもらおうかしら……。」

凜 「にこちゃんwwww元気出してwwww」

希 「でもどろどろの三角関係って修羅場的な?」

ここ 「そうそう。で、一番演技力なかった人は……理事長から

ディープキスで」

穂乃果 「うわ……。」

希 「えぐ……。」

ツバサ 「これは……。」

真姫 「助かった、本当に……。」

亜里沙 「でいーぷきす??」

絵里 「これは、負けられないわね……。」↑1番

凜 「凜も本気出す時がきたようだね……。」↑3番

海未 「演じ切って見せます……。」↑5番

理事長 「あなたたち失礼すぎないかしら？」

希 「これは、配役も重要になつてくるな」

穂乃果 「で、配役決めた結果が・・・」

海未↑二股かけてる彼氏役 絵理↑彼氏の彼女役 凜↑浮気相手

役

希 「これ大丈夫なんかwww」

穂乃果 「海未ちゃん絶対二股とかかけれなさそうだけどww」

ここに 「シチュエーションは三人に任せるわ！じゃあ早速始すた  
とっ！」

絵里 「うゝみつ♪」 海未 「絵里！」 ↑いきなりセリフが被つ

た

凜 「・・・ふww」

絵里&海未 「・・・ww」

他 「wwwwww」

穂乃果 「いきなりwww」

希 「しつかりせえやww」

亜里沙 「海未さんが彼氏役・・・。いいなあ、お姉ちゃん。」

真姫 「たぶん全然よくないと思うわよww」

絵里 「こほん・・・、うゝみつ♪ 今日久しぶりのデートね♪」

海未 「絵里、そうですね・・・二週間ぶりですか？」

えれな 「さすがミュージズだな、スイッチが入れば大した演技力だな。」

穂乃果 「確かに二人とも凄い・・・、でもなぜかちよつと面白いw

w」

希 「ここから凜ちゃん加わってどう展開していくんやろ  
か・・・。」

凜 「あくはっはあくんwww、私が海未さんの浮気相手

の・・・星空凜よおお!!」

絵里&海未 「wwwwww」

他 「wwwwww」





にこ 「なんでw w wビンタw w w」

穂乃果 「急展開w w w w w」

凜 「w w w w w w w w」

絵里 「どうして・・・？どうしてぶつたの？」 ↑痛みで涙目になりながらも演技続行

真姫 「なんだか絵里がかわいそうに見えてきたw w」

希 「それなw w」

海未 「もうあなたでは満足できないのですよ・・・」

絵里 「そんな・・・どうして・・・」。

ツバサ 「・・・かといって、あんな女にいくというのはどういう事なのかしら。」

穂乃果 「ツバサさんw w w今はそういうのやめてくださいw w」

海未 「とにかくあなたとはもう終わりです。行きますよ！凜！」

凜 「はあああゝい、だああゝりん!!」

希 「えりちがw w w w w惨めすぎるw w w w」

穂乃果 「絵里ちゃんは何したのさw w w w w」

真姫 「終わるの早すぎるわよw w、内容何もなかったしw w w w w」

絵里 「・・・。。。。」

にこ 「はい、そこまで。お疲れ様。」

凜 「結構楽しかったにやゝ、凜演技もいけるにやゝ」

希 「本気で言ってるんやったら病院行ったほうがええで。」

真姫 「で、誰が理事長とティープキスなの？にこちゃん。」

にこ 「んゝ凜は演技はひどかったけどまあ笑かしてくれたからねゝ」

絵里 「ちよつと待って、これは演技力を見るんじゃないの？  
なんで面白かったからセーフにしようみたいな雰囲気のこと言ってるの？ねえ？ねえ？」

希 「えりちw w w w」

にこ 「でも絵里前半セリフに「w」多くてふざけてたし」

絵里 「り・ん・の・せ・い・で・しよおおお!!」

他 「w w w w w w w w w w」

穂乃果 「絵里ちゃんがきれたw w w」

希 「そりゃきれるやろw w w w w」

亜里沙 「お姉ちゃん、頑張れ〜!」

にこ 「ん〜じゃあ間とって理事長のデイープキスは凧と絵里の二人ともで。」

絵里 「・・・う・・・そ。」凧

真姫 「絵里がw w w w w w w w w w悲惨すぎるw w w w」

穂乃果 「凧ちゃんw w w驚いてるけど当然の結果だよw w w w」

希 「えりちw w w w w w w w w w」

海未 「w w w w w w w w w w」

理事長 「じゃあ二人ともこちらにいらっしやい♪」

凧&絵里 「」

理事長 「じゃあまずは星空さんね。う〜」

凧 「やだああああああ!絶対、ちよえ?これ・・・」  
何?」

希 「急に疑問抱くなやw w w」

穂乃果 「凧ちゃんw w w w w w w w w w無理だよw w w w今までのやり取りから逃げられないことはわかるでしょw w w w」

凧 「そ、んな・・・」

理事長 「はい、いくわよ〜」

ぶつちゅづつづつづつ♡

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

希 「凧ちゃんw w w w w w w w w w白目になってるw w w w」

穂乃果 「効果音が汚いw w w w w w w w」

ツバサ 「・・・。」↑ドーン引きしてる

亜里沙 「はわわわわわ／／／／／」

真姫 「亜里沙、たぶんこれ照れるとこじゃないわよw w w」

あんじゅ 「・・・w w w w」↑ちよつと面白くなってきた

えれな 「これ南さんが見たらどう思うんだろうかw」

理事長 「ふう、じゃあ次は絢瀬さんね。」 凜 「ドサツ↑気絶した  
絵里 「↑諦めてる」

絵里&凜 「ずくん 理事長「いやあ、若い子の唇ってぷるぷるね

♪」

希 「予想通りえぐい絵面やったなwww」

穂乃果 「こっちまで夢に出てきそうな光景だったねwww」

亜里沙 「ハラシヨ〜これが高校生／＼」

真姫 「亜里沙、その認識は捨てたほうがいいわよ。」

穂乃果 「よし、じゃあ次行くよ〜！」

全員 「王様だーれだ!!!」

つづく

## 第5話

穂乃果 「王様ゲームだよ!!」 第4話の続きです

全員 「「王様だーれだ!!!」」

ことり 「ちよつと待って。」

穂乃果 「ことりちゃん、もう目が覚めたんだねww」

ことり 「うん、床が牛乳臭かったからすぐ目が覚めちゃった…。」

穂乃果 「そうw、一応掃除はしたんだけどねww。」

あんじゅ 「…。」 くんくん↑牛乳の匂いが残ってないか確認してる

ことり 「というわけでお母さん交代ね。」

理事長 「え? でも私まだ全然活躍してないのよ?」

希 「いや、割とがつつり目立ってましたよww」

理事長 「そう…じゃあ悲しいけどここでお別れね。また呼んでね。」

絵里 「もう一生来ないでください。」

にこ 「www」

ことり 「というわけでことり再び参戦します!」

亜里沙 「ことりさん!こんにちは!私も参加させていただいてます!」

ことり 「亜里沙ちゃん!こんにちは。あれ?花陽ちゃんは?」

絵里 「お腹がすいたから帰ったそうよ?」

ことり 「花陽ちゃんww」

穂乃果 「よし、じゃあ始めよつか!」

ことり 「あ、でもゲームする前にごめんだけどシャワー浴びて着替えてきていい?牛乳の匂いが服についちちゃったから…。」

穂乃果 「あ、そうだねwwいいよww」

〜30分後〜

ことり 「お待たせ〜」

穂乃果 「おかえrwwwwww え?ことりちゃんだよねwwww

？」

にこ 「ちよつとwwwなんでうちっちーの着ぐるみなのよw

w」

ことり 「代わりの服がなかったのでww。」

絵里 「だからつてwwというより何でそんなものあるのよ？w

w」r

ことり 「お母さんアクアのファンだからwww」

凜 「だからつて、普通着ぐるみもつかにやww」

ことり 「お母さんよくこれ着て恋になりたいアクアリウム歌つて  
るよ？」

真姫 「ホラーじゃないww理事長やばいわねww」

希 「ていうかちよいちよいアクアネタぶつこんでくるのや  
めーやwww」

ツバサ 「なにあの着ぐるみ……」

穂乃果 「ふふwwまあいいや、じゃあ早速準備もできたというこ  
とで続きするよ〜」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

全員 「……」。

希 「いや誰やねんww」

えれな 「私が王様だな……」。

穂乃果 「えれなさんwwもうちよつと早くお願いしますww」

えれな 「それはすまなかった。では命令だが、3番が8番に、キャ  
メルクラッチからのキン肉バスターでいこう。」

穂乃果(補足) 「キャメルクラッチとキン肉バスターを知らない人  
がいたらyoutubeとかでどんなものか見てから読むことを勧  
めるよ！」

ことり 「鬼畜www」

海未 「うちっちーが爆笑してる姿はシユールですなww」

穂乃果 「キン肉バスターなんてして大丈夫なのかなww」

真姫 「それで誰がするの？」

亜里沙 「ハラシヨ〜、私が3番です！」 希 「8番やわ……」



絵里 「亜里沙www我が妹ながら恐ろしいわねwww」

ことり 「だめwwwあはははwww」ごろごろ↑面白すぎて転げまわってる

にこ 「ちよ、ことりwwwうちっの格好で転げまわらない  
でよwww」

真姫 「希が全力でタップしてるのに亜里沙全部無視www」  
w」

凜 「希ちゃん、元気なオットセイみたいだねwww」

穂乃果 「凜ちゃんそんなこと言っちゃだめだよwww」

ツバサ 「www」

希 「ほ、ほんまに・・・死ぬかと思った・・・」

亜里沙 「ハラシヨ、楽しかったです！」

凜 「亜里沙ちゃん、実はサイコパスなんじゃ・・・w」

えれな 「じゃあ次は筋肉バスターだな」

希 「あ、そうか・・・まだあるんか・・・」

穂乃果 「希ちゃんw頑張ってw」

亜里沙 「筋肉バスターも知らないです・・・」

ことり 「亜里沙ちゃん、これがキン肉バスターだよ！」↑スマホの  
Youtubeで確認中

真姫 「ことりさつきからやけに協力的ねw」

凜 「というかうちっの着ぐるみ着てどうやってスマホ操作  
してるんだろ？」

亜里沙 「ハラシヨ、わかりました！じゃあ行きますよ！希さん  
！」

希 「ちよ、さつきとまったく同じセリフやけど大丈夫!!??キン  
肉バスターはさつきの技より危険なんやで!!」

亜里沙 「大丈夫です！任せてください！」

ことり 「ふww正直不安しかないww」

穂乃果 「ていうか亜里沙ちゃん希ちゃんを抱えられるのかなww  
？」

亜里沙 「じゃあいきます！」ぐい↑希をなんとか抱え上げる

絵里 「こ、こわいw w w大丈夫かしら」

亜里沙 「お、おもい・・・希さん体重いくらですか？」

希 「言うわけないやろw w ていうか重い言うなw」

穂乃果 「亜里沙ちゃん、足がくがくしてるけど大丈夫w w？」

真姫 「中学生が高校生を抱えてるってすごい絵面ねw w」

亜里沙 「あ・・・ごめんさい希さん、もう無理です。」パツ↑重さに耐え切れなくて希を離してしまう亜里沙

希 「うそやろおお・・・がつ!？」ゴキツ↑首から落ちる希

他 「・・・!？」↑首から落ちたのでまじでやばいのではと感じてる

希 「く、くびがあああああああ、だから言ったやんけえええええええ」

穂乃果 「よ、よかった、生きてたんだね希ちゃん、本当に死んだかと思っただよ。」

ことり 「今のは笑えなかったね・・・、ことりもさすがにやばいと思っただよ。」

希 「・・・いや、せめて笑ってえや。この状況、うち可哀そうすぎるやろ。体張った意味・・・。」

亜里沙 「希さん、本当にごめんなさい。重くて落としちゃいました・・・。」

希 「・・・ええんやで、ただ二度と筋肉バスターしたらあかんぞ。あと重い言うな。」

ことり 「・・・いい話だね。」ウルウル  
凜 「どこがだにや」

穂乃果 「なんだか亜里沙ちゃんのキャラを垣間見たねw w」

亜里沙 「まだまだ頑張りますよ!」

希 「亜里沙ちゃんの見方が変わったわ・・・。」

穂乃果 「よし、じゃあ次行くよ」

全員 「「王様だーれだ!!!」」  
つづく







穂乃果 「だwwwwwwめwwwwww息がwwwでwできないwww  
www」

凜 「ふwwwwwwふつとんだwwwwww漫画みたいwww  
www」

ことり 「亜里沙ちゃんwwwwww床、牛乳臭いよ? www  
www」

海未 「中学生の女の子になんてことをwwwwww  
www」

タイ人 「ツギダレニスル!」  
亜里沙 「——つ!——え?」 他「は?」

タイ人 「ツギダレニスル!」  
亜里沙 「……え?え?次?」

亜里沙 「ソウ、ツギダレニスル!」  
亜里沙 「……。」 他「……。」

亜里沙 「あんじゅさあああああんんん!!!」  
あんじゅ 「……は?」 ↑指名されるとは思ってたかった

他 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww  
www」

穂乃果 「なwwwwwwでwwwwwwあんじゅさんwwwwww」  
希 「たwwwwwwたすかつたけどwwwwww」

ツバサ 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」 ↑ツボには  
まった

あんじゅ 「は?え?……は?」  
ことり 「あんじゅさん混乱しすぎですよwwwwww」

凜 「完全にフルハウスにやwwwwww」  
えれな 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

タイ人 「……。」 ↑あんじゅに近づいていくタイ人  
あんじゅ 「じよ、冗談じゃないわよ!こ、こんなの。」 ↑逃走を図る

あんじゅ 「は?え?……は?」  
穂乃果&ことり 「……。」 がっ↑あんじゅをしつかりつ  
かまえる二人

あんじゅ 「」

絵里 「がんばってw w w w w」

真姫 「戦場に向かう仲間を見送る気分ねw w w w」

タイ人 「……。」↑静かに構えるタイ人

あんじゆ 「」

タイ人 「……っ!!」どごおつつ!!↑同じく渾身のキツク

あんじゆ 「がっ!!!ふお」↑同じく逆くの字で吹っ飛ぶあんじゆ

あんじゆ 「あ……ああああ……あああああ」↑床に倒れ謎のうめき声をあげるあんじゆ

希 「がっw w w ふおw w w w つてw w w w w」

ことり 「あんじゆさんがw w w w w こわれたw w w w w」

穂乃果 「色々なw w w w w 反応がw w w w w あるんだねw w w w」

ツバサ 「w w w w w w w w w w」

亜里沙 「……。」↑痛すぎて笑う余裕がない

海未 「そういえば希今回8番ひいたらよかったみたいなこと  
言ってませんでしたっけ?」

真姫 「言ってたわ、間違いなくね。」

希 「は?」

タイ人 「……。」希のほうへ向き直るタイ人

希 「は?」

希 「……まじでケツぶっ飛ぶかと思った。」

絵里 「お疲れw w w 希w w w w」

希 「ていうかなんでうちのシーンだけカットやねん……。」

穂乃果 「だって、他の二人とあんまり変わらなかったし……。」

希 「じゃあええやんけ……うちにタイキツクせんでも……。」

亜里沙 「私、やっぱりUTXに行く……。」

ことり 「亜里沙ちゃんw w w w そんなこと言わないでw w w」

海未 「でも、UTXにこそあのタイ人がいるのではないのですか?」

亜里沙 「……音ノ木坂行く。」

希 「亜里沙ちゃんwwちよつと可愛いつて思ったわww」

あんじゆ 「あああああああ」

えれな 「ふむ、あんじゆが本格的に壊れてしまったな。」

ここ 「なんでそんなに冷静なのwwwwww」

ツバサ 「しようがないわね、私たちはここで邪魔しようかしら

? (早く帰りたいしね)」

えれな 「そうだな、十分楽しめたしな。」

穂乃果 「まああんじゆさんがこれじゃあしようがないですねww

ww」

ツバサ 「じゃあここで失礼するわ。さようならミューズの皆さん

！」

絵里 「また是非来てくださいね！」

ツバサ 「いや、もう来ません！」

希 「そんなきつぱりwwwwww」

えれな 「ではさらばだ！」

海未 (…………えれなさん、ちやつかり自分だけ罰を受け

ずに逃げましたね。まあ、そうはさせませんけどね…………)

絵里 「ちなみ亜里沙、何であるの時あんじゆさんを指名したの?」

亜里沙 「え? こういう時つて名前順じゃないの?」

ことり 「そんなことないよwwwwwwwwww」

希 「あんじゆさんwwwwどんまいwwww」

穂乃果 「ふふwwww、よろし、じゃあ次行くよ」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく

## 第7話

「穂乃果「王様ゲームだよ!!」 第6話の続きです

全員 「「王様だーれだ!!!」」

ことり 「やったく、ことりだく♪」

希 「正直今日のことりちゃんには王様になってほしくなかつたわ・・・。」

凜 「今日のことりちゃん荒れまくってるもんねww」

ことり 「じゃあく♪1、2番の人でことりがきゅんきゅんしちゃうぐらいイチヤイチヤしてください♪」

にこ 「ことりらしい命令ねw」

穂乃果 「今までとは違う種類の命令がきたねw」

絵里 「1番と2番が誰かにもよるわね。」

ことり 「それでそれで!! 誰が1番と2番なの??」ワクワク

海未 「・・・私です。」

希 「・・・またうちやん。」

ことり 「・・・またうちやん・・・ww」

真姫 「ふふふwwww、この二人がねww」

穂乃果 「これはwww予想できないww」

絵里 「希ほぼ毎回巻き込まれてるわねww」

亜里沙 「あく、いいなあ、希さん」

ことり 「じゃあ早速初めてもらおうかな・・・w」

凜 「ちよつと待って、こういう時はちゃんとできなかった時に備えて罰を決めないとだめにゃ。」

穂乃果 「凜ちゃんwww自分がされたからってww」

希 「・・・余計なことを」

絵里 「凜、その通りよ!」

にこ 「まあ、今までの流れ的にもねww」

ことり 「うくん、そんなこといきなり言われてもね・・・」

希 「ことりちゃん、無理する必要ないねんで? うちと海未

ちゃんが真剣にいちやいちゃするとこなんて大して見たくないやろ？な？な？ええやん別に。」

真姫 「だめよ希www 自分だけ逃げようなんて甘いわよww」

希 「いや、うちトップクラスできついことしてる気するねんけど・・・。」

ことり 「うくん、じゃあ、いちやいちゃができてなかったほうが沼津までランニングで♪」

希 「いやいやいやいやいやいやいやいや頭おかしいやろ。」

にこ 「きつつwwwwww」

希 「いや、きついつていう問題ちやうやろ！ 何キロあるねんっ!!!」

穂乃果 「ことりちゃん、笑顔でとんでもないこと言うね・・・w」

海未 「まあ、頑張ればなんとか・・・」

ことり 「ほら海未ちゃんもこう言ってるし♪」

希 「うちを海未ちゃんと一緒にすんなや!!!」

凜 「今スマホで調べたら100キロ以上あるよwww」

希 「余裕で死ねるやんけえ!!!」

穂乃果 「まあまあ、希ちゃん！ちゃんと演技したらいいんだよ！」

希 「穂乃果ちゃん・・・せやな頑張るしかないな！まじで」

ことり 「じゃあ、好きなタイミングで初めてね♪」

海未 「いちやいちゃってどうするんですかね・・・、まあ適当にやりますか・・・」

海未 「・・・のぞみいく好きですよ？」 ↑希の腕に抱き着きながら

希 「・・・ふ、海未ちゃんw、でもうちもいちやいちゃとかよくわからんし流れにのるか。」

希 「えくほんまあ、・・・うちもく」 ↑海未のほっぺたすりすりしながら

他 「wwwwwwwww」

穂乃果 「き、気持ち悪いwww」

にこ 「語尾伸ばすしやべり方やめてwww」

絵里 「違和感しかないww」

ことり 「wwwwww」

希 「……まあ、やってて自分でも思ったけど」

海未 「本当ですかあ、どれくらい好きですかあ??」

希 「うくん、焼き肉といっしょぐらい?」

海未 「……そうですかあ」

真姫 「なにを見せられてるのwww」

凜 「とんだ茶番にやwww」

海未 「……それにしても希のおっぱいはいいですねえ」もみ

もみ↑希の乳をもみだす海未

希 「wwwwwwwwwこいつ」

他 「wwwwwwwww」

穂乃果 「海未ちゃんwww何してるのww」

真姫 「まるつきり変態ねww」

海未 「ふむ、この弾力……いいですねえ」もみもみ……

にこ 「どうしたのよwww海未ww」

絵里 「完全にいちやいや履き違えてるわねww」

希 「どうしたらええねんwww」

ことり 「wwwwww」

亜里沙 「うみ、さん……」

希 「……海未ちゃんの胸も悪ないやん」↑やけくそで海

未の胸をもみ返す希

海未 「そんなことないですよ」もみもみ↑ついに両手で乳を

もみだす海未

希 「……くつww」

希 「あかん、間違いなく沼津までランニングに向かっているの

がわかる……w。」

希 「いや、もうこのまま罰受けるんやったら暴れたろ。くら

えつ、園田ああ!!」



希 「うええええ、なんやこの控えめなおっぱいはああ??? バスト72  
ぐらいしかないんちゃううううう???

ふうふううううう、のんたんアツゲアツゲアゲくⓧⓧ」もみもみもみもみもみ

海未 「wwwwwwwww」

他 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

穂乃果 「の、希ちゃんがwwwwww吹っ切れたwwwwww」

www」

真姫 「もうwww意味がwwwわからないwww」

絵里 「凄まじい逆襲ねwww」

ことり 「こんなのがwww見たかったわけじゃwwwないのにw

w」

希 「ひやっほおおおおおおううううううううううう

!!!!」

く5分後く

にこ 「……まあ、ひどかったわねw」

真姫 「結局あその後、希が暴れまくって終わったものね……w」

絵里 「凜の演技並みにひどかったわよwww」

凜 「え」

穂乃果 「リリホワがやばいねwww」

海未 「……」。

希 「……なぜか清々しいわ」

ことり 「せっかくことりが王様になったのにwww」

真姫 「これは二人とも罰ねwww」

海未 「しやうがないですな、ほら希行きますよ。」

希 「……え？ うちセーフちゃうの?」

にこ 「そんなわけwww」

穂乃果 「どういう考えでそうなったのwww」

希 「いやいや、めつつちや、いちやいちやしたやん！」  
絵里 「興奮したゴリラが暴れてるみたいだったわよwww」  
ここ 「ふwwwwwwゴリラwww」  
希 「いや、冷静に考えて？ 沼津やで、どこにあるかよくわからんけどフルマラソン以上せんといけへんねんで？」  
海未 「ごちやごちや言っただけで行きますよ。」↑無理やり連れていこうとする  
希 「……っ千年殺しいいいいいい！！」↑海未に向かつて千年殺し！  
海未 「がっ!? ……あ、あ……おおお、ふ。」↑まともに入り、崩れ落ちる海未  
希 「ふざけんなあ！ うちには逃げるで！ どこまでもなああ！」↑ドアまでダッシュで逃げる  
穂乃果 「ちよつと希ちゃん！ ずるいよ!!」  
凜 「そうにや!!! 待つにや!!!」  
ことり 「海未ちゃんwww」  
理事長 「ことり！ そろそろうちっちーの着ぐるみ返してちょうだいっ！」ドアバンツ↑ドアを思い切りあけ放つ理事長  
希 「ぶっ?!?! ノックぐらいしろや……。」↑そのドアにまともにも激突し崩れ落ちる希  
穂乃果 「ふwww理事長wwwナイスだねwww」  
絵里 「そういえばことり着ぐるみ着てたわねwww」  
ことり 「wwwwwwwww」  
希 「いったあゝ、ほんま理事長なんやねん……」  
海未 「……の、希い、やってくれましたねえええええ」  
希 「」  
ここ 「希wwwwww死んだわねwww」  
海未 「では、皆さんちよつと沼津まで行ってきますね！」ニコツ  
他 「「いってらっしやい♪」」  
希 「」

海未 「帰りましたよ！」

穂乃果 「ふwwwお帰り。元気だね海未ちゃんww」

絵里 「海未・・・恐ろしいわねww」

ことり 「希ちゃんがいらないねwww」

真姫 「で、どうなったのランニングは？」

海未 「ふむ、いいトレーニングになりましたよ。ただ希は70キロ行った辺りから気絶したり、泣き喚いたりしたのでそのたびにたき起こして二人三脚スタイルで無理やり引きずって沼津まで行ったので大変でしたよ。」

穂乃果 「じwww地獄だwwwwww」

絵里 「ちよつと希がかわいそうになつてきたわwww」

ここ 「70キロ行ける時点で希も十分化け物だと思うけどねww」

ことり 「それでその希ちゃんは何？」

海未 「それが、帰りも走りますよと言ったらダツシュで逃げていったんですよ。」

穂乃果 「そりやそうだよwwwwww」

ここ 「・・・待って、帰りも走ってきたの？」↑ドン引き

絵里 「希wwwランニング後だったのにまだダツシュできたのねwww」

穂乃果 「それで希ちゃんはどうしたの？」

海未 「当然すぐに捕まえたのですが、標準語でガチ泣きされて扱いに困ったんですよ。でもたまたまいた親切な黒髪の子が是非面倒見させてくださいとのことだったので預けてきました。面倒でしたし一応罰のランニングは達成していたので。」

ことり 「どういうことwww本当に大丈夫なのその子？ww」

海未 「どうも、ミューズの大ファンみたいでサインしたら大喜びして引きうけるとのことでしたよ？」

穂乃果 「まあ、今あれこれ考えてもしようがないし、続きやろっか。」

凜 「それでいいのかにやwww」

亜里沙 (私音ノ木坂も受けるのやめようかな・・・)

穂乃果 「いっくよ」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

## 第8話 千歌「アクアも乱入するよ！」

「穂乃果「王様ゲームだよ!!」第7話の続きです。

千歌 「ねえねえ梨子ちゃん……。」

梨子 「ど、どうしたの千歌ちゃん／＼ ハアハア」

千歌 「壁クイごっこ、だっけ?もうやめない?」

梨子 「やめない!!」

千歌 「それ私のセリフだよ」

梨子 「お、お願いもうちよつとだけ……／＼ハアハア」

千歌 「えくだつてもう3時間ぐらいやつてるじゃくん」

梨子 「でもね千歌ちゃん、こういうこととしてこそ歌詞の発想がでるんじゃないかしら。」

千歌 「うくん」

・ピロリンツ!

千歌 「ん? あ、ダイヤさんからラインだ。」

ダイヤ 『千歌さん! 大ニュースですわあ!!』

千歌 『どうしたんですかダイヤさん??』

ダイヤ 『なんと、なんとお、あのミュージズの東條希さんがいま私の家にいるのですわああ!!!』

千歌 「ええええええ!!?」

梨子 「どうしたの千歌ちゃん?? 大きな声出して。」

千歌 「ああああああ、きききききききき」

梨子 「ど、どうしたの千歌ちゃんww」

千歌 「奇跡だよおおおお!!!」

梨子 「え、どこ行くの千歌ちゃん??」

千歌 「ダイヤさんの家ええええええ」

梨子 「行っちゃった……。」

曜 「どうしたんだらうね、千歌ちゃん。」

梨子 「曜ちゃんいたのね。」

曜 「実はね。」

梨子 「じゃあ私と壁クイしましょうか／＼」

曜 「ブレないね梨子ちゃん。」

・ 黒澤家へ

千歌 「ダイヤさん!!ダイヤさん!!!ダイヤちゃーん!!!」

ダイヤ 「うるっさいですわああ!! 聞こえてますわよお!」

千歌 「そんなことよりあのラインどういことですか???」

ダイヤ 「ふふふ、どういも何もそのままの意味ですわ」

千歌 「え、ということは本当に今ダイヤさんの家に希さんがい

るってこと???

ダイヤ 「その通りですわああ!」

千歌 「え、でも何で??」

ダイヤ 「それが沼津まで買い物に行っていたのですが、そこできんど、なんととおお!!」

ルビィ 「園田海未さんと東條希さんがいたんだよね♪」

ダイヤ 「ルビィいいい、いいとこでしたのにい・・・。」

千歌 「ルビィちゃん!え、でもなんでその二人が沼津に??」

ダイヤ 「どうもランニングをしていて沼津にいたみたいですよわよ?」

千歌 「ランニング?? なんで沼津で??」

ダイヤ 「それはわかりません。 恐らく日本海溝よりふかくいい

訳があるのでしよう!」

千歌 「ふくん?」

ダイヤ 「ですが、見てください! 園田海未さんから直々にサインをもらったんですのおお!!」

千歌 「あくいいなあ、いいなあ。 私も欲しいなあ。」

ダイヤ 「ふふふ」ドヤっ

千歌 「ん? でもそれがなんで東條希さんがダイヤさんの家にいることに繋がるの?」

ダイヤ 「それがどういわけか東條希さんが体調が優れないよう  
で園田海未さんが困っていたようなので、私が面倒見させてください  
と言ったら、二つ返事で希さんを託されたのですわあ、しかも園田海

未さんのサイン付きで!!」

千歌 「なんだかよく分からない状況だね……。」

ルビィ 「それで今東條希さんがうちで寝てるとこなんだ。」

千歌 「……ちよつと見てみたいなあ〜」チラツチラツ

ダイヤ 「全くしようないですわね〜、ちよつとだけですよ〜」

千歌 「さっすがダイヤちゃん!!!」

希 「うわあああああ、帰りは無理iiiiiiiiiiii」

希 「……ん? どこここ? 見たことない畳の部屋や

な……。」

希 「……。」

希 「え、もしかしてうち……死んだ?」

希 「いや、そんな訳ないな、ないよな? 死にかけはしたけど。」

希 「……あのランニングはまじで地獄やったな。まじで沼津行くとかあほやろ。海未ちゃんと縁切ったほうがええんちゃんか……。」

希 「……。」

希 「もうちよい寝よ。」

千歌 「あああああ、東條希さんだああああ!!!」

希 「え」ビクツ

千歌 「……ほ〜、……ははあ〜、……お〜」

希 「……めつちや見てくるやん。」

千歌 「わ〜ほんとだ〜、情報通りエセ関西弁だあ〜」

希 「」

ダイヤ 「千歌さん! 失礼ですわよ! 東條希さんはそこがいいんですのよ!!」

希 「……こいつらなんやねん、キャメルクラッチくらわせたろか」

希 「ていうかアクアやん……(とうとう時系列とか諸々無

視してきたか……)」

ダイヤ 「え!? 私たちのことをご存じなんですか???

希 「……まあ」

ダイヤ 「ああ、まさかミュージズの方に私たちのことを知ってもらえてるなんて……」

希 (なんかこの子綺麗やのに残念な子感がすごいな……)  
ルビィ 「と、とととととととと、東條……希さん……起き  
てるうろう」

希 「あくえつと、これどういう状況??」

・く海未とのやり取りを説明中く

希 「……うち完全に捨てられてるやんけ、園田……絶対復讐したんねん」

ダイヤ 「あの……大丈夫ですか?」

希 「あく、ごめんな、ほんまにありがとう面倒見てくれて。」

ダイヤ 「い、いえいえいえ、むしろこちらからお願いしたいぐらいでしたので!」

千歌 「でも東條さん、何で沼津でランニングしてたんですか?」

希 「あく、希でいいよ。なんかこそばゆいし。まあ、ちよつと罰ゲームで音ノ木坂から沼津までランニングしててん。」

千歌 「……え?音ノ木坂から?」 ↑ドン引き

ダイヤ 「さすが、伝説のスクールアイドルですわね……」  
↑ドン引き

希 「あの勘違いせんといてほしいのは、ヤバイのは海未ちゃんだけやからな!うち途中から引きずられてたからな。」

ダイヤ 「しかし、罰ゲームとは……。いったい何をしてたんですか??」

希 「王様ゲームしててん。」

千歌 「沼津までランニングなんて……。恐ろしい王様ゲームですわ……」

希 「うん、ろくな命令ないからなく。まじでやめたい。」

ダイヤ 「でもここにいればもういいのではないですか??」



希 「海未ちゃん、いや園田と、こんな罰決めた鳥に復讐せなあかんから戻るわ。」

千歌 (・・・鳥??)

ダイヤ 「いいですわねええ、私もミュージズの皆さんと遊びたいですわああ」

希 「ん？ それやったら一緒に来る??」

ダイヤ 「え、い、いいいいいいいんですかああああ????」

希 「うん、世話になったし理事長もアクアのファン言ってたから学校にも普通に入れると思うし。」

千歌 「奇跡だよおおおおお。」

ルビィ 「やったあああああ」

ダイヤ 「でも待つてくださいいルビィ、今日は家族がみんないませるので留守番が必要ですわ。」

ルビィ 「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ダイヤ 「・・・・・・・・・・・・・・・・」

希 「よし、じゃあいくで!!」

ダイヤ 「はあああ、こんなじゃんけんで勝って嬉しかったことはありませんわあ」

千歌 「ルビィちゃん、生気が抜けたように絶望してましたねw  
w」

ダイヤ 「こればかりはルビィにもゆずれませんわあ！」

・チヨットマツテクダサイ

希 「ん？ なんか聞こえる？」

鞠莉 「私も混ぜてくださいい、シャイニイ」バババツ↑ヘリで登場

ダイヤ 「鞠莉さあん!!?? どうしてここに??」

鞠莉 「面白そうだから来ちゃいました」

希 「へりて・・・、アクアも中々クセあるなw w」

千歌 「鞠莉ちゃん！ ちょうどいいからへりで音ノ木坂に行こ

うよ！」

鞠莉 「モチロンデス」

希 「まじで！ うちも真姫ちゃん頑張ってヘリとか用意してくれへんかな・・・。」

ダイヤ 「ああ、これであの憧れのえりーちかに会えるんですねえ。」

希 「・・・あんま期待せんほうがええと思うけど。」

鞠莉 「では出発進行デス、レッツゴ〜」

他 「いえ〜いいい!!!」

つづく

## 第9話 千歌「とうとう合流！」

第8話 穂乃果「王様ゲームだよ!!」 千歌「アクアも乱入するよ!」の続きです。

海未 「絵里、では行きますよ!! 覚悟を」

絵里 「ちよちよちよ、ほんとにほんとに死なない程度にねええ

!!!!  
」

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

希 「やつほく、みんな戻ってきたで〜」

穂乃果 「あれ? 希ちゃん生きてたんだね?」

希 「その第一声あんまりやろ!」

ことり 「希ちゃんw w w 無事だなによりだねw w w」

凜 「まさか生きてたとはにや〜」

希 「ほんまミューズの絆感じるわ・・・。」

海未 「まったく希もあれ〜ときのランニングで情けないです

ね・・・。」

希 「いやあれは無理やって、まじで。」

凜 「ちなみに海未ちゃんは帰りも走って帰ってきたらしいよ

?」

希 「・・・もうアイドル以外の道進んだほうがええんちゃう?」

にこ 「でも希帰りはどうしたの??」

希 「ふふふ、よく聞いてくれた! なんと帰りはヘリヤで!

ヘリ!」

凜 「希ちゃん・・・・。本当にランニング辛かったんだね。」

ことり 「・・・希ちゃん可哀そう。」

希 「待って待って待って、うち別にランニングしんどすぎて頭

おかしなつたわけじゃないわああ!」

穂乃果 「でも海未ちゃんが、希は600円しか持ってませんでし

たけどどうやって帰るつもりですかね? って言ってたよ?」

希 「待って、なんでうちの手持ち知ってるの? ていうかそ

れ知ってて置いてきたんかい！」

海未 「まあ走れば済む話だったので……。」

希 「鬼やんけ……。ていうかちゃうって、なんとなあ、あのアクアの鞠莉ちゃんへのりに乗ってきたんや!!」

花陽 「ええええええ、希ちゃんもしかしてアクアの人と会ってきたんですか!?!」

希 「花陽ちゃんwww 戻ったんやねwww」

花陽 「はい、ご飯食べたなら体力もテンションも復活したので戻ってきたんですう！」

希 「あつそうwww まあそれでありがたく送ってもらったんやけど、そのついでにアクアの何人かも連れてきたんや！」

他 「え!?!」

希 「それで今、すぐそこにおるんやけど連れてきていい?」  
絵里 「待って、なんでそれを早く言わないのよ!」

にこ 「そうよアクアって言ったら実質私たちの後輩みたいなものじゃない！」

希 「だからなんやねんwww もう連れてくるで。」

穂乃果 「ちよ、ちよつと待って。ええと先輩らしく振舞うには……。」

希 「三人とももういいでえ〜入ってきても〜」

ダイヤ 「こ、こここここここここここここんにちは」

千歌 「こ、こんにちは〜」

鞠莉 「シャイニ〜お邪魔しま〜すう!!」

絵里 「あら、こんにちは。可愛いお客さんね?」↑片手に紅茶を持ちながら

にこ 「やくん、本当〜♡ 可愛い〜、どうもにこです♡」

穂乃果 「ふふふ、いらっしやい。ところで凜さん、そのいろはすを取って下さる?」

凜 「もちろんですわ穂乃果さん。はい、いろはすでございませう。」

真姫 「……。」↑読書をしている

・先輩らしいところを見せようとするミュージズ

希 (……………こいつら)

ことり (穂乃果ちゃん、凜ちゃんw w w w w w)

花陽 「ふわああああ、アクアの人たちですうううう」

ダイヤ 「あ、あああ、夢にまで見たえりーちかががががが」

千歌 「こ、これがミュージズの人たち……。画面越しじゃないリアル……………」

鞠莉 (……………なんだかこの部屋牛乳臭いですねえ)

ダイヤ 「あ、あああああの、私アクアの黒澤ダイヤといいます。え、えとよろしくお願ひ致します！」

絵里 「ふふふ、緊張しちゃって。もっとリラックスしていいのよ？」

ダイヤ 「あ、ああ、あのえりーちかが私に声を……………」

千歌 「あ、あの私高海千歌といいます。同じくアクアです！今日はよろしくお願ひ致します!!」

穂乃果 「あらあら、元気があっていいですね。こちらこそよろしくお願ひします、です♪」

凜 「ですよお、ほほほw w」

ことり (w w w w w w w w w w w w w w)

鞠莉 「おほん♪どうも小原鞠莉といいます。マ〜リイと呼んでください!!」

ことり 「マ〜リイw w w w」

花陽 「うわあああ、アクアの人が3人も！夢みたいですよう」

希 「うん、みんなありがとう。(花陽ちゃん最初と別人やんw w)」

海未 「さて、それでは早速続きですね。絵里動かないでくださいね？」

絵里 「ちよちよちよちよ、待って待って待って！ え？もうその罰は流れたんじゃないの?? アクアの人たちが来てくれたのよ??」

海未 「何を言っているんですか、関係ありませんよ。」

希 「えりちw w w wボ口出るの早いわw w w w」

ことり 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

希 「ちなみに海未ちゃんといりちの命令は何なん？」

ことり 「ケツバットw w w w w w w w w w w w w w w w」

希 「w w」

千歌 (南ことりさんってあんな笑う人だったんだ……w)

鞠莉 「ワ、オ、なんだかとてもおもしろそうです!!」

ダイヤ (ああ、あのえりくちかが目の前で喋ってますわああ)

海未 「では行きますよ！ 絵里!!!」

絵里 「いやあああああああああ」

・ だごおおおんんっ??

絵里 「お、——!!!」が、くk g d g j j h g g g g」

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

穂乃果 「ぶw w w w w w、くつw w、お、おほほほ、愉快ですわね

えw w w w w w」

ことり 「せめてw w w日本語で痛がってw w w w w w w w w w」

千歌 「ふw w w w w w w w w w」

鞠莉 「ナイスバツテイングデウス!!!」

ダイヤ 「はああ、えりーちかが吹っ飛びましたわああ」

真姫 (このダイヤって子大丈夫かしら……w w)

絵里 「く……い……ふ……せ、せめて木のバットにし

てよおお」

海未 「だって金属製しかなかったですからしょうがありません

よ。私だって金属製はどうかと思いましたよ。」

ことり 「その割にはフルスイングだったけどw w w w w w w w w w

w」

穂乃果 「ふふw w w ようし、あつ……そ、それでは次いきますわ

よおく」

希 「もうそのキャラ諦めろやw w w」

千歌 (……いよいよ、ミュージズの皆さんと遊べる夢の時間

が)ワクワク

ダイヤ (ああ、本当に来てよかった……)。

鞠莉 「いっぱい遊びますで〜す!!」  
全員 「二王様だーれだ!!!」  
つづく

## 第10話

「穂乃果「王様ゲームだよ!!」第9話の続きです

全員 「「王様だーれだ!!!」」

千歌 「わわわ、いきなり千歌なのだっ!」

希 (・・・いきなりか、さてどうなるか)

穂乃果 「ふふふ、良かったですねぇ千歌さん!」

凜 「ほほほほwww」

真姫 (この二人本当に馬鹿ね・・・。)

千歌 (い、いきなりとは・・・、どんな命令すれば・・・そうだった!!)

千歌 「じゃあ、2番がく♪」

ことり (あ、2番ことりだ。)

千歌 「1番に壁クイされる、でっ!!!」

穂乃果 「あ、1番だあ、でも壁クイってなあに?」

ことり 「ガタツ」

千歌 「え、こ、ことりさん??」

ことり 「千歌ちゃん・・・」

千歌 「は、はい!」

ことり 「ほんっ・・・とうに・・・ありが・・・とうう。」

千歌 「え、は、はあ・・・」

絵里 「え、なんでことり泣いてるの?」

希 「留学止められた時より泣いてるやん。」

海未 「くっ、なぜことりなのですか・・・。」

穂乃果 「どうしたことりちゃん?? どこか痛いのか???」

ことり 「ううん違うよ。ただ・・・幸せってこういうことをいうんだね・・・。」

千歌 (梨子ちゃん・・・、よくわからないけどことりさんに喜んでもらえたよ・・・)

凜 「あらあら穂乃果さん、キャラが戻ってるぞますよおwww」



ww

ことり 「凜ちゃん、ちよつと黙っててね♪」

凜 「うす」

穂乃果 「それならよかったら、でも結局壁クイってなあに??」

ことり 「穂乃果ちゃん!それはね!!これ、そうこれ!こういうのを壁クイっていうんだよお!!」↑Youtubeで確認中

真姫 「ことり楽しそうね・・・(私も・・・にこちゃんと・・・)」

海未 「・・・・・・・・・・・・・・・・」。ギリギリッ

にこ 「海未? バットは置いて、まじで」

穂乃果 「うわああく／＼これが壁クイかく／＼」

ことり 「うんうん♪ そうだよ穂乃果ちゃん♪」

穂乃果 「まあことりちゃん相手ならいいかな♪ なんてね／＼

／

ことり 「」

絵里 「ことり! 鼻血でてるわよ!」

凜 「めんどくせーにゃ」

ことり 「はっ! 危ない危ない、昇天することだったよお。」

ダイヤ 「これがうわさに聞くことほの! 尊いですわあく!」ガ

シツ↑何かに捕まれる

ダイヤ 「?」

海未 「ほのうみはどう思いますか??」

ダイヤ 「え、私は断然ことほn、いたたたたあああつ、断然ほの

うみですわあああ

海未 「ふふふ、ですよね?」

ダイヤ 「で、ですわあく(し、死ぬかと思いましたわ・・・、水ゴ

リラ改め果南さんと握力いい勝負なんじゃないのですの??)」

ことり 「そ、そそそそれじゃあ! 壁クイしよつかかかか?」ハ

アハア

穂乃果 「う、うん(ことりちゃん・・・なんか怖い)。」

穂乃果 「それじゃあ・・・いくよ?」

ことり 「うん」ドキドキ

他 「・・・。。。」

穂乃果 「・・・っ!」ドンッ

ことり 「・・・っ」ビクッ

穂乃果 「・・・ことり」ボソッ↑イケボ

ことり 「つつっ／＼／＼／＼／＼」ゾクゾクッ

穂乃果 「・・・好きだよ」クイッ

ことり 「」

ことり 「」

ことり 「」

ことり 「」

ことり 「「ブバツ!↑吹き出す鼻血

穂乃果 「わわっ、ことりちゃんすごい鼻血だよお!」

絵里 「マールイオンみたいね」

希 「ことりちゃんが死んだw w」

海未 「なぜ、なぜっ?なぜあそこにいるのが私でないのですか

???

にこ 「ちよ、バット振り回さないでよ!死ぬわっ!」

千歌 「・・・壁クイ恐ろしや」

鞠莉 「・・・あの量、普通にヤバくない?」

ダイヤ (鞠莉さんが素に戻るとは、流石ミュージーズですわあ)

ことり 「」

海未 「さて、これどうしますか?捨てますか?」

希 「海未ちゃんw w w幼馴染になんてことをw w w」

にこ 「ちよっと休ませておけば大丈夫じゃない??」

千歌 「え・・・大丈夫なんですか?まあまあ血出てましたけど。」

絵里 「山頂アタック2回行ってまだ王様ゲームしてるぐらいだ

し体的には大丈夫でしょう。」

ダイヤ 「えりーちかがそう言うのなら間違いないですわあ」

千歌 （山頂アタックとは……）

穂乃果 「でも、なんでことりちゃん、いきなり鼻血こんなに出たん  
だろうね??」

希 「……まあこの純粹さが穂乃果ちゃんのいいところなん  
やろうけど、何やる普通に怖いわ。」

絵里 「同じことを思ったわ……。」

海未 「まったくです、それに振り回される身にもなって下さ  
い。」

穂乃果 「え」

にこ 「それはそうと、ちよつとお腹空かない?」

花陽 「空きましたっ!」

希 「花陽ちゃん、食べてきたんちゃうんかい!」

絵里 「確かにそうね。せっかくアクアの子たちも来てくれたこ  
とだし歓迎会も兼ねてご飯行く?」

希 「せやね〜ここは先輩として奢るぐらい……」

鞠莉 「OH〜それならちようど近くに小原家が経営する三ツ星  
レストランがありま〜す!是非招待させて下さ〜い」

希 「行くか。」

花陽 「当然だね。」

凜 「楽しみにや〜」

にこ 「あんたら……」

鞠莉 「あつ、でもすみませ〜ん、この人数はいけないみたいで〜  
す。え〜と6人までしかいけないみたいです。」

千歌 「まあ、それなら他のみんなが入れるとこに……」

希 「じゃんけんやな。」

花陽 「絶対負けません。」

凜 「いづくにや〜」

にこ 「ほんとにやめてあんたら。恥ずかしいわ!」

穂乃果 （正直私もレストラン行きたい……）

真姫 （よく行くけれど……）

希 「よし、じゃあじゃんけんやるで」

他 「……。」

理事長 「……。」

希 「待て」

他 「？」

理事長 「？」

希 「いや、？じゃないわ！なんで理事長おんねん!？」

鞠莉 「え？ マーリイですかあ??」

希 「ちやう！おぼはんの方や！」

理事長 「？」

希 「あんたやあんた！」

理事長 「え、だってことりが気絶したときは私が代役で登場する

んじゃないの?」

希 「んなルールないわ!!どつか行け！」

絵里 「希、じゃんけんする人減らそうと必死ねww」

穂乃果 「あんな3年にはなりたくないね……」

理事長 「えくわたしもレストラン行きたいわく」ヤンヤン

希 「帰れ」

理事長 「ちえく、のんたんのけちく」

希 「しっし」

真姫 「何今のいらないうりとりww」

にこ 「時間の無駄とはこのことねwwww」

希 「よし、じゃあいくでく、じゃんけん……」

希 「orz」

花陽 「orz」

凜 「orz」

にこ 「wwwwwwwwwwぎ、ざまあないわねwwww」

穂乃果 「3人ともとはw w w w」

千歌 （私この3人とか・・・）

ダイヤ （私この3人とですか・・・まあえりーちかがいますからよしとしますか）

絵里 「あ、あはは（私もレストラン行きたかった・・・）」

他 「キヤツキヤツ」

希 「くそっこうなったら、こっちはこっちで思いっきりたのしむでえく!!」

凜 「そうにや!! もうそれしかないにや!」

花陽 「うう、そうだねえ」

絵里 「そうね! 思い切り楽しむわよ!」

ダイヤ 「はいつ楽しみましょう!!!」

千歌 （大丈夫かなあ・・・）

つづく

## 第11話 千歌「ごはん休憩!」

穂乃果「王様ゲームだよ!!」第10話の続きです

凜 「で、どこ行くにや!!」

希 「やっぱ焼肉やろ!!」

絵里 「でも希600円しかないんでしよう?」

希 「……。」

千歌 「……. 面白いはいくら持ってたつけ?」ゴソゴソ

ダイヤ 「……. 600円でどこを奢ってくれるつもりだったんでしようかw。」

凜 「さすがに高校生にもなって600円はないにやwww」

希 「じゃあ凜ちゃんはいくらもってるん?」

凜 「凜? んゝ……」ゴソゴソ

凜 「えくと、2、3、……. 500円……。」

希 「wwwwww」

花陽 「……. ふっww」

凜 「の、希ちゃんは3年生にや!!凜はまだ1年生にや!!」

千歌 「……. ん?」ゴソゴソゴソゴソ

凜 「かよちゃん!かよちゃんはっ? いくらもってるの!?!?」

花陽 「えっ!! えくと、……. 2千円ぐらい……. かな?」

絵里 「ちなみに私も3千円ぐらいあるわよ?」

希&凜 「……. ……」

ダイヤ 「さすがえりくちかですわあゝ」

希 「……. ちなみな?ちなみにやで?アクアのお二人はいくら持ってるん?」

ダイヤ 「え? (本当は1万円ぐらいありますが……) わ、私は2000円ぐらいですわあ」

希 「……. そっか。」

凜 「……. お金持ちだね。」

絵里 「……. 惨めねwww」

ダイヤ（ルビイでも1000円ぐらいは持ってそうすけど・・・。）

希 「・・・千歌ちゃんは？」

千歌 「・・・。。。」

凜 「・・・千歌ちゃん??」

千歌 「・・・103円・・・です。」

絵里 「・・・ぐw」

花陽 「・・・くw」

ダイヤ 「・・・千歌さんw」

希 「103円w w w 仲よくしよな、千歌ちゃんw w w w」

凜 「せめてもの抵抗で1の位まで言うところが気に入ったにや

w w w w w w」

千歌 「」

絵里 「希、凜w w あなたたちねw w w」

花陽 「でもどこに行きますか?? 希ちゃんと凜ちゃんが500

円ぐらいだどだいぶ行き先が限定されちゃいますけど・・・。」

希 「花陽ちゃん、うちは600円やから。これ大事。」

凜 「諦めるにや、ほぼ一緒にやw。」

絵里 「うくん、あ！たこ焼きパーティーなんてどうかしら??お

金もかからないし！」

希 「おお、ええやん!!タコパ!!」

凜 「テンション上がってきたにやw!!」

花陽 「いいです！最高ですっ!!」

ダイヤ 「さすがえりくちか！ ナイスアイデアですわ!!」

千歌 「うんうん♪楽しそう!!」

希 「よっしゃー!!あてつけかのようにリズムジンを走り去って

いったあっちグループより絶対盛り上がるでえ!!」

他 「「おーーー!!!」」

ことり 「・・・ちよっと待って」

希 「うわっ！びっくりした。もう起きたん??」

凜 「復活早いやw w w」

ダイヤ 「・・・本当に大丈夫でしたのね」

千歌 (ことりさん、顔中血の跡まみれ・・・。)

ことり 「うん、なんで寝てたかよく覚えてないけど、面白そうな話が聞こえたから起きちゃったよ」

希 「うん、とりあえず顔洗ってこようか？ 軽くホラーやら。」

スーパー

絵里 「じゃあ、私と花陽がたこ焼きの粉、ソース、ジュースとか買うから、ほかの人たちで具を買ってきてもらえるかしら？」

ダイヤ 「了解ですわあ！！」

凜 「ちなみにことりちゃん、今いくらくらいもってるにや？」

ことり 「え？ あはは、恥ずかしい話、昨日新しい裁縫道具買ったから2000円ぐらいしかないんだあ・・・。」

凜 「・・・そっか。」

千歌 「・・・。」

希 「まあ、ことりちゃんバイトしてるし・・・。」

凜 「希ちゃんも巫女さんしてたけどね。」

希 「そんなことよりっ！どうせやからみんながどんな具材買ったか分からんようにせえへん?? 闇鍋的な感じにしよや！」

千歌 「あ、それ面白そうっ！」

ダイヤ (いや、どう考えても嫌な予感しかしませんが・・・。)

凜 「これは行くしかないにや！」

絵里 「・・・普通に不安なんだけど。」

花陽 「・・・同じく」

希 「大丈夫大丈夫、カードもウチにそう告げてるんや！」

凜 「・・・ちよつと心配になってきたにや」

希 「ええから早くいくでっ！時間は有限や！」

凜 「じゃあ各自具材買うってことでいいのにや？ 500円でなにか買えるか・・・。」



千歌 (え、103円で何の具材を買えば……)

ダイヤ (当然私はえりーちかの好きな食べ物をかいますわよお

ことり 「なにを買おうかな〜♪」

絵里 「……大丈夫かしら」

花陽 「……」。

〜学校の家庭科室〜

絵里 「じゃあ、早速始めましょうか!」

希 「よっしゃ、じゃあみんなそれぞれ買った具材で周りに見えんように作っていこー!」

凜 「任せるにや〜!」

千歌 (……値段でこれに決めただけど大丈夫かなあ)

ダイヤ 「さあ、作りますよ〜」

ことり 「よ〜し、つくるよ〜♪」

花陽 (食べれるものが出てきますように……)

〜15分後〜

絵里 「一応できたわね……」。

希 「見た目は普通やな……」。

ダイヤ 「この時点では喜子さんよりは上ですね……」。

千歌 「お〜普通においしそう!」

ことり 「おなか減ってきちやった♪」

凜 「早速食べようにな〜」

希 「じゃあじゃんけんで食べる順番決めよつか。」

絵里 「……なぜ順番なんて決める必要があるのかしら?」

希 「いやいや、ロシアンルーレットなんやから当たり前やん?」

絵里 「……やっぱり変なもの入れたのね!」

凜 「そりやそうにや〜、ここまで来て普通のタコパとか面白

く無いにや〜」

千歌 「・・・え、そうだったの？」

ことり 「もう、食べ物で遊んじゃダメなんだよ？」

希 「じゃあ、じゃんけんな！じゃ〜んけん・・・」

千歌 「・・・また千歌か」 ↑1番

希 「がんばれ千歌ちゃん！」 ↑2番

ダイヤ 「ちよつと怖くなつてきましたわ・・・。」 ↑3番

凜 「いい数字にや、これはもらったにや！」 ↑4番

ことり 「千歌ちゃん♪ 頑張つてね♪」 ↑5番

花陽 「・・・普通に白米が食べたい。」 ↑6番

絵里 「最後なんて・・・」 ↑7番

千歌 「じゃ、じゃあいきますっ！」 パクツ

他 「・・・。。。。。」

千歌 「・・・うん・・・これは、ふつつつ!? つあ!!!!???

他 「!？」

千歌 「が、がああああああああああああああああああああ  
いいいいいい!!?」 「ゴロゴロゴロ」

千歌 「うああああああっ、ちよつあああああああああああ  
ゴロゴロゴロ」

他 「w w w w w w w w w w w w w w」

ダイヤ 「千歌さん w w w w w w 転げまわるなんて w w w はしたない  
ですわよ w w w」

希 「何食べたらそうなんねん w w w w」

凜 「さ、さすが主人公 w w w w w w i きなり大当たりにや w w w」

千歌 「み、みず!!? はやく水!! 水水水水!!」

ことり 「はい、センブリ茶♪」

千歌 「ゴクゴクつつぶはあつつつつつ、ゴホゴホツぐ、にがつ、  
く、おえ・・・」 ↑思わずセンブリ茶を吹き出す

絵里 「↑思い切りセンブリ茶がかかる

他 「w w w w w w w w w w w w w w」

希 「ことりちゃんw w w w w w鬼畜すぎるやろw w w w」

ダイヤ 「え、えりーちか・・・w w」

ことり 「w w w w w w w w」

千歌 「くっ・・・ふっ、うう、し、死ぬかと思った・・・。」

絵里 「ポタポタ

花陽 「・・・くっw」

希 「ふw w、でも何食べたんやろな？w」

千歌 「うう、からかったとしか・・・。」

凜 「たぶん凜のからしチューブ1本分焼きにやw」

希 「ふw wどうやって1本分入っててんw w w」

ダイヤ 「それはw w w w w w w w w w w w w w」

ことり 「千歌ちゃんw w w w w w w w w w」

花陽 「ことりちゃんがとどめさしてたけどねw」

千歌 「あの・・・絵里さんすみませんでした。」

絵里 「・・・いいのよ？気にしてないわ。」ポタポタ

千歌 「そ、そうですか・・・(ことりさんのこと思い切りにらん

でる・・・w)」

希 「(ふw w えりち完全に怒ってるw w w w)」

ことり 「やんやん♪ こわくい♪」

ダイヤ 「ミュージックって仲いいんですわよね・・・？」

ことり 「うん♪ もちろん♪ ね？」

絵里 「ええ、もちろん」ニツコリ

凜 「絵里ちゃんこえーにやw w」

千歌 「・・・うう、まだ辛い」

希 「ふw w、じゃあ次行くよ！ここからもっと盛りあげてい

くでえ!!」

つづく

## 第12話 千歌「ごはん休憩!2」

穂乃果「王様ゲームだよ!!」 千歌「ごはん休憩!1」の続きです。

希 「よっしゃ、次うちの番や!いくでっ!」

他 「……。」

希 「……お!うまいっ!これは、チーズか!」

凜 「ありや、意外だにや。希ちゃんは絶対外れひくと思って

たのにw」

希 「いやいや、うち実は運いいほうやからな?」

ことり 「全然説得力ないよww」

絵里 「ほっ、ちゃんと当たりも入ってたのね。」

希 「ふうく、普通にうまかったわ。ことりちゃん、飲み物頂戴?」

ことり 「はい、センブリ茶♪」

希 「それ以外」

ことり 「え、でも他に飲み物ないよ?」

希 「なんでやねん!?!」

絵里 「え、花陽?ジュースは花陽担当だったわよね??」

花陽 「……てへっ」

希 「ちよーーーっ!!?!」

ことり 「花陽ちゃんwww!」

千歌 「じ、地獄だwww」

ダイヤ 「まじですか……」

希 「まじか……、センブリ茶か……ちよつと飲んでみるか。」

希 「……うえ、まず。」

ダイヤ 「外れ引いたときやばいですわね……」

ことり 「さっきの千歌ちゃんみたいになるねwww」

凜 「ちなみにチーズ買ったの誰なの?」

ことり 「あ、ことりだよ。さっきたまたまお母さんに会って、タコ焼きするって言ったらくれたんだ。」

希 「理事長初めていい仕事したやん。ちよつと酸味がきいてうまかったって言っというて。」

ことり 「酸味？ 普通のチーズだったと思うけど？」

希 「え」

絵里 「ちよつとことり？ そのチーズの箱見せてもらっていい？」

希 「え、まさか……？」

絵里 「……ええ、消費期限切れね。それも1カ月前。」

希 「あのクソババアアアアアアアアアアアアアアアア!!!」

凜 「そりやそうにやwww希ちゃんがあたり引くわけないにやwwある意味当たりだけどwww」

ことり 「希ちゃんwwwなんかごめんねwww」

ダイヤ 「結局外れですか……ww」

千歌 「恐ろしいwww」

希 「くそつ、最悪や……、普通生徒に腐ったもん食わせるか？」

花陽 「www」

ダイヤ 「この流れで私ですか……。」

ことり 「ダイヤちゃん! 頑張つてね♪」

ダイヤ 「は、はい! (今ダイヤちゃんと……) ニヘラ

凜 「ん? どうしていきなりにやけたのにや?? 狂ったのにや??」

千歌 「あー、それはですね——」

希&凜 「……ほう」ニヤリ

ダイヤ 「では、いただきます。」

ダイヤ 「……っ!!?? あつ、ちよ、ひよれは!!!」

ことり 「外れだったんだねwww」

ダイヤ 「ちよ、は、ひゃ、はや、く水っ!!この際センブリ茶でもいいから!!」

希 「頑張れダイヤちゃん!!! たこ焼きになんかに負けるな!!  
ダイヤちゃん!!」

凜 「ダイヤちゃん! そうにや負けるなにや! ダイヤちゃんならいけるにや! そうダイヤちゃんなら!!」

ダイヤ 「え? ダイヤちゃん...? く、確かにダイヤちゃんがこの程度で...っ!」

希 「そうや、いけるでダイヤちゃん!! なんならもう一個いこ、ほら! ダイヤちゃん!!」

ダイヤ 「え、ちよ、むぐっ...っ!? あ、あ、これh、ちよt、はhh、m、むりい!!」

凜 「ダイヤちゃん!! ダイヤちゃんは、そなたこ焼きに負けるのにや?? いや、ダイヤちゃんなら絶対負けないにや!! だからさらにもう1個いくにや!」

ダイヤ 「ううううう、h、こ、こn、この程度...ふ、つく...」

希 「もつと行こ!! ダイヤちゃん!! いけるよダイヤちゃん!!」

凜 「さいこーにや! ダイヤちゃん!! もつといけるにや!! ダイヤちゃん!!」

ダイヤ 「———っ」

ダイヤ 「」

絵里 「...悪魔ね。」

ことり 「10個ぐらい食べたねwwwwwwww」

千歌 「ダイヤさんwwwwいや、ダイヤちゃんwwwwww」

凜&希 「wwwwwwwwwwwwwwwwwwww」

花陽 「ダイヤちゃん大丈夫かなww」

凜 「ふww、じゃあ、次は凜だね。」

凜 「...おいしい。」

絵里 「また、消費期限切れとかじゃないでしょうね?」

凜 「うくん、でもチーズっじやなくてエビみたいな味がするから大丈夫だと思うけど。酸味もしないし。」

千歌 「あ、それ多分千歌のです！」

希 「お、千歌ちゃんか、103円で何買ったん？w w」

千歌 「いえ、103円だけだと足りないと思ったので、それとは別で校庭でぴよんぴよん飛んでたバッタを捕まえて入れてみました！」

凜 「ダラー——」

希 「嘘やんw w w w w w」

花陽 「凜ちゃんw w w w汚いよw w w」

絵里 「・・・ふw w」

ことり 「・・・。」↑ドン引き

千歌 「えっ、バッタおいしくないですか?? たまに果南ちゃんと一緒に捕まえて食べますけどおいしいでしょ?」

希 「いやいや、グツジョブやったでw w w」

絵里 「そうね、凜は調子にのってたから丁度いいわw w w」

ことり 「・・・。」↑ドン引き

千歌 「え、どういうこと・・・?ことりさん!距離取らないでください!」

凜 「酷い目にあつたにや。まあ、おいしかったけど・・・。」

千歌 「うくん、別に普通だと思っただけどな」

ことり 「次はことりだね・・・。」

ことり 「えいつ!・・・う、ん?」

凜 「どうしたの? ことりちゃん?」

ことり 「・・・ゴクンツ。中にぎゅうぎゅうにご飯が詰まっていた・・・w。」

希 「ふw w wもう誰が入れたか、丸わかりやなw w」

花陽 「うう、取られちゃいました・・・。」

ことり 「・・・ごめんね花陽ちゃんw」

希 「でも花陽ちゃん、ジュース担当やったやん?なんでご飯なんて持ってたん?」

花陽 「さつき理事長にたこ焼きやるならあげるって言われて渡されました。」

ことり 「え」

絵里 「また理事長wwwよく出てくるわねwww」

凜 「なんでたこ焼きにご飯www」

希 「こわwww腐ってるのちゃうん?」

花陽 「いえ、それはありません!!ちゃんと新鮮なご飯でした!!」

希 「そうwww」

千歌 「・・・理事長ってどこの学校も変わってる人が多いのかな?」

ダイヤ 「・・・さあ。うちも相当変わってると思ってましたが。」↑  
復活した

ことり 「うう、心なしかお腹が痛くなってきたような気が・・・」

希 「正体が分からへんのが一番怖いなwww」

凜 「ちゃんとしたものが一つもないにやwww」

花陽 「次は私です・・・えいつ!」

花陽 「う・・・ん?甘い・・・。これ、チョコ?」

ダイヤ 「ああ、えりーちかに食べてほしかったのに・・・」

絵里 「え」

希 「さすがにたこ焼きにチョコはwww」

花陽 「・・・いや、意外とおいしい、です。」

希 「嘘んっ!!?」

凜 「えくほんとかにやく」

ことり 「今回唯一の当たりかもねwww」

ダイヤ 「はあ、えりーちかに食べてほしかったですけど、まあしよ  
うがないですわね・・・。」

絵里 (普通にくれればいいのに・・・。)

花陽 「ふうく外れしか無いと思ってたのでよかったですう!」

凜 「かよちゃんいいな」

花陽 「えへへ」

希 「悔しいけどおめでとさん!はい、飲み物。」





花陽 「でも何を食べたんですか？」

絵里 「……梅干し。」↑梅干しとのりが苦手

希 「ふwww 完全にえりちを殺しにかかっているやんww」

千歌 「え、そうなの?? たまたまタイムセールしてたから買ったんだけど……。」↑犯人

ダイヤ 「誰ですか!!梅干しとのりはだめと決まってるでしょう!!」

凜 「でも普通たこ焼きにチョコレート入れないけどにやw」

ダイヤ 「……ただ、まあ」

絵里 「うう、そうよねえ」スリスリ↑ダイヤに抱き着き泣きじやくる絵里

ダイヤ 「……これはこれで悪くないですわね」ニヘラ

千歌 「……幸せそうだな」

凜 「生徒会長こんなのしかないのかにや。」

希 「まあ、結果オーライということだ。」

花陽 「ん? あ、穂乃果ちゃんたち帰ってきたみたいだよ?」

希 「あ、ほんまや。くそッリムジンで調子乗りやがってえ」

ことり 「は、全然お腹満腹じゃないけど、これを食べるのも……。」

希 「まあ残りは適当に穂乃果ちゃん、にこっちあたりに食わせとこ。」

凜 「ふwww、穂乃果ちゃんたちの扱いwww」

花陽 「凜ちゃんもそっち側の人間だけだね……w」

千歌 「今からまた王様ゲームなのか……。」

続く

### 第13話 穂乃果「王様ゲーム再開！」

第12話 千歌「ごはん休憩！2」の続きです。

ダダダダダダ

穂乃果 「たっだいまあ!!」バンツ

希 「今やつ、凜ちゃん!!」

凜 「御意！」ガシツ↑穂乃果を羽交い締め

穂乃果 「え、ちよ、なにこれっ!!第1話でもこんな流れあつたけど!!??」

希 「くらええええええ!!」ズボツ↑無理やりたこ焼きを穂乃果の口にねじ込む

穂乃果 「うっ?! . . . っ!!??」んーっ!!んーっ!!」ジタバタ

希 「あかんっ!飲み込むんやつ!穂乃果ちゃん!!」

凜 「す、すごい暴れてるww釣った直後の魚みたいww」

ことり 「穂乃果ちゃん、せつかくおいしいもの食べてきたのにww」

花陽 「普通にいじめの現場だよねこれ . . . w」

千歌 「本当にこのチームがラブライブで優勝したんだよね . . . ?」

希 「さすが穂乃果ちゃん、ちゃんと飲み込んだやん！」

穂乃果 「うう . . .、って、飲み込ませたんでしょっ!! ていうか

なにこれ???) すごい辛いっ!!辛いよ、うう、水、水は？」

ことり 「はい、穂乃果ちゃん♪」↑センブリ茶

穂乃果 「あ、ありがとう、さすがことりちゃん . . .。んくつ . . .

ぶはっつあ!!」ゴホゴホツ

他 「wwwwwwwwwwwwwwww」

穂乃果 「 . . . . .うう、穂乃果が何したのさ、ごほつ。」

希 「いやゝさすが穂乃果ちゃん、ええリアクションやん？」

ことり 「穂乃果ちゃん、可哀そう . . .。」

凜 「センブリ茶を満面の笑顔で渡した本人が何言ってる

にや」

千歌 「・・・あのダイヤさん？ このままじゃ私達もたないですよ？」

ダイヤ 「・・・そう思ってた既に助っ人を呼んでありますわ。」

千歌 「おう流石ダイヤちゃん!!」

ダイヤ 「・・・しばらくちゃん付けはやめてください、本当に。」

千歌 「ふwwwわかりましたwww」

にこ 「まくたあんたたち馬鹿してるの??」

希 「・・・凜ちゃん。」

凜 「御意」ガシツ↑にこを羽交い締め

にこ 「ちよお!?何するのよ!!」

希 「ふっふっふっ・・・」

にこ 「ちよ!!希!!何それ!!たこ焼き??絶対嫌な予感がするわ!!  
こ、こないでえええ!!」

にこ 「・・・三ツ星レストランでの味が全部吹っ飛んだわ。」

穂乃果 「・・・ね。」

希 「いや、ロシアンたこ焼きからのセンブリ茶の流れ最強

やな!」

凜 「これをリリホワの必殺技にするにや。」

希 「今度これ理事長にくらわせよな。」

凜 「御意」

海未 「まったく、相変わらず騒がしいですねあなた達は・・・。」

鞠莉 「たっだいまぐでえくす!」

真姫 「・・・で、絵里はどうしたの?」

絵里 「ん、もう、えりちかお家帰るう」グズグズ

ダイヤ 「よちよちいくそうでちゆねくもうちよつとちたらかえり

まちよるねく」ニヤニヤ

凜 「普通にきもいにや」

花陽 「まあ、いろいろあつてwww」

ことり 「亜里沙ちゃんが見たらどう思うんだろうね? w」

穂乃果 「そういえばその亜里沙ちゃんは? 全然見えないけど」

ここ 「隙を見て逃げてたわよ? あまりに必死だったから止めなかつたけどw」

穂乃果 「亜里沙ちゃんでも必死になるんだねww」

希 「ふw来年亜里沙ちゃん音ノ木坂来るんかなww」

真姫 「私達にとつては笑い事じゃないのに・・・w」

穂乃果 「じゃあ、また集合したし王様ゲーム再開しよつか!」

??? 「ちよつと待った!」

他 「?」

果南 「私も入れてもらおうかなん?」ポタポタ

ダイヤ 「果南さんっ!! えっ、ていうか早くないですか?? 連絡してからまだ1時間程度ですよ?」

ことり 「なんで濡れてるのwwww」

果南 「いやあ、たまたま東京の方にランニングしてたからささ、それで早く来れたってわけ!」

希 「え、うちがおかしいん?? 静岡までは走るのが普通なん???」

海未 「だからそう言ってるではないですか。」

希 「まじか・・・。」

穂乃果 「いや、そんなわけないよ。」

千歌 「果南ちゃん!」

果南 「あつ、千歌! たく、こんな楽しそうなこと私をのけ者にするなんてひどいじゃん?」

千歌 「いや、どっちかというところ今すぐ帰りたいけど・・・。」

凜 「ちなみに果南ちゃんはなんで濡れてるにや? ww」

果南 「ん? あく私濡れてないと死ぬんで!」

ここ 「どんな生き物よwwww」

果南 「ていうのは冗談で、さつき校門らへんで水撒きしてる人にかかけられました。あつ、ちよつどあなたみたい髪型の人に。」

ことり 「え、私?・・・お母さん?・・・w w w」

希 「また理事長w w w w w」

凜 「行動が謎にやw w w」

にこ 「暇なのかしらw w w」

果南 「それでしようがなくここまで濡れてきました。」

穂乃果 「せめてどこかで拭く努力をしようよw w はいタオルw

w」

果南 「あ、ありがとうございます。」

穂乃果 「あ、そのタオル、ことりちゃんか吹きだした牛乳拭いたや

つだ・・・)

果南 「・・・ん? なんかこr」

穂乃果 「よくしつ!!!じゃあ早速続きするよおつ!!」

真姫 「なによいきなり大声出すとびつくりするじゃない!」

海未 「・・・穂乃果が渡したタオル、ことりの吹きだしたタオル

を拭いたやつですねw w w w」

果南 「ん、ま、いつか。」

穂乃果 「よくしつ!!せゝのつ!!!」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

鞠莉 「Y E A H ~ !!マゝリイでえす!!!

千歌 「おっ、続いてアクアだね!!」

ダイヤ 「・・・なんか不安ですね。」

果南 「いいなあゝ」

穂乃果 「どんな命令かな・・・。」

鞠莉 「じゃあゝ、2番が5番にパンチでええゝ!!」

希 「なんつー命令やw w w w w」

ことり 「ばんちw w w w w」

ダイヤ 「ふw w w 鞠莉さんあなたねえw w w」

凜 「アクアも負けてないにやゝw w w w」

穂乃果 「それでw w w 2と5は??w w w」

真姫 「私2番よ・・・。」

果南 「ありやりや、5番だ。」

にこ 「真姫ちゃんがばんち w w w 滅茶苦茶弱そう w w w」

花陽 「確かに w w w」

千歌 「真姫さん大丈夫かな……。」

ダイヤ 「まあ、逆じゃなかったただけましでしょう。」

果南 「何でパンチするほうを心配してるの？」

真姫 「じゃあ、どこをばんちすればいいかしら？」

果南 「ん〜じゃあお腹でいいですよ！鍛えてるんで！」

真姫 「分かったわ！じゃあ……いくわよっ！遠慮しないからね

！

果南 「いつでもどうぞ!!」

凜 「真姫ちゃん大丈夫かな w w」

海未 「そもそも人をぶったこともなさそうですもんね……。」

真姫 「舐めないで、これでも毎日腕立てしてるんだから!!」

真姫 「いくわよっ!!……えいつ！」パキッ

真姫 「——っ!?!?——っ!?!?」↑手首やられ

た

果南 「え？ 今のがばんち??」

他 「w w w w w w w w w w w w w w w w」

穂乃果 「ま、真姫ちゃん w w w w w w w w w w w w w w w w」

凜 「予想通りの光景にや w w w w w w」

ことり 「すごい猫パンチだったね w w w w w w」

千歌 「ミスターサタン v s 魔人ブウって感じだったね w w w w w w」

w

海未 「ふむ、相当腹筋を鍛えてそうですね??」

果南 「え？ まあ、暇な時ずつとアブローラとかしてるんで！」

海未 「ほう……それは素晴らしい……。」

穂乃果 「どんな暇つぶしなの w w w」

にこ 「海未もそんなに感心してんじゃないわよ w w」

真姫 「……うう、ピアノ弾けるかしら。」

ことり 「大丈夫だよ親病院の先生なんでしょ？」

真姫 「だから何なのよ……。」

ダイヤ 「果南さん、頼むから腹筋割らないてくださいよ?? アイ  
ドルなんですから。」

果南 「……………え？」

ダイヤ 「……………は？」

穂乃果 「ふwwwwじゃあ次行くよ!!」

希 「いや、どこにでも海未ちゃんみたいなんおるもんやな  
〜」

海未 「どういうことですか……。」

穂乃果 「はいはい次行くよっwwせゝのっ!!」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく



## 第14話

第13話の続きです。

全員 「「王様だーれだ!!!」」

??? 「くつくつく・・・」

穂乃果 「あつ、また私だ!」

??? 「・・・時はきた」

ここ 「んく、さすがにこの人数だと王様になるのも難しいわね。」

希 「まあなく」

善子 「墮天使ヨハネ!ここに降臨!!!」

海未 「それで穂乃果、命令はどうするのですか??」

穂乃果 「うくん、正直もうネタ切れなんだよね」

善子 「・・・」。

真姫 「まあ、始まってからもうずいぶん経つものね。」

凜 「ていうか今何時にや??」

善子 「・・・あの」

ことり 「穂乃果ちゃんっ!王様が3番とキスとかの命令がいいと思っよ!!!本当に!!!」

海未 「穂乃果、3番が理事長とデーパーキスにしましょう。」

ことり 「謝るからそれだけはやめて。」

善子 「・・・すみませくん」

穂乃果 「うくん・・・迷うなく」

絵里 「なんでもいいじゃない」

ここ 「そうよ、時間がもつたいないし早くしてよね。」

善子 「あの・・・、アクアの津島善子ですけど、その果南に呼ばれたので来m」

希 「善子ちゃんっっていうんやね!!よろしくっ!うちは、東條

希やで!よろしく!!」

善子 「え、ちよt」

ことり 「うんうん♪ 善子ちゃん、可愛い名前だね♪ 南ことり  
です♪ よろしくね♪」

善子 「あn」

穂乃果 「善子・・・うん、いい名前だね!!!高坂穂乃果です!!よろしくね!!」

善子 「」

にこ 「善子ね・・・ふん、まあまあ可愛いんじゃない?まあにこには負けるけどね」

善子 「」

凜 「善子善子善子善子善子善子善子善子善子善子」

花陽 「ふwww凜ちゃん」

アクア 「wwwwwwwww」

千歌 「あはははwwwwww善子ちゃんwww途中から表情がなくなってるよwww」

果南 「いいキヤラしてるね、善子はwww」

ダイヤ 「くwww」

鞠莉 「wwwwwwwww」

海未 「あなた達その辺にしときなさいwww」

絵里 「そうよwwwかわいそうよwww」

ことり 「でもお、無視されてる時の善子ちゃん、おろおろして不安そうな感じがとっても可愛くて♡つついからかいたくなっちゃいました♡」

善子 「／／／」カアツ

花丸 「・・・入りづらいぞら」↑部屋の外から様子見中

ルビィ 「・・・うゆ」↑同じく部屋の外から様子見中

希 「確かになく、「え、やっぱ、調子乗りすぎたかしら、みんな怒ってるんじゃないかしら、的なな」

凜 「たしかにや、可愛さで言えば、標準語でお母さんに大好き♡って言ってる希ちゃんぐらい可愛かったにや」

希 「おいやめろ」

千歌 「そうなんだ・・・今の希さんからは想像できない・・・」

ww)

絵里 「はいはいそこまでよ！希の可愛さについては今度ゆつくり話すとして今は新しく来た子たちを歓迎しましょ？」

希 「おい」

ことり 「そういえば、絵里ちゃんいつの間にか復活してるねww」

ダイヤ (本当に・・・もうちよつとあのままでよかったですのに。)

花丸 「えくと、おじやましまゝすずら、あ、おじやましますです！すら！つあ、またおらやつちやたすら・・・あつまた・・・。」

千歌 「花丸ちゃんww落ち着いて？」

凜 「そうすらwwww落ち着くすらよwwwwおらがついてるすらよwwwwすらすらwwww」

花丸 「・・・うう」グスツ

凜 「あ」

希 「はくい、凜ちゃん泣かしたく」

にこ 「・・・あくあ」

海未 「これはお仕置が必要ですね。」

ことり 「凜ちゃんの鬼！悪魔！」

凜 「あ、あのごめんね？本当にただのノリというかその・・・。」  
花丸 「・・・べ、別にいいんです、おらが悪いんです。」ポロポ

口

凜 「あの・・・本当にごめんなさい。」

絵里 (こういう時にこそ私がフォローしないとね！)

絵里 「大丈夫？え、と・・・(名前が分からないチカツ!?)」

ダイヤ 「あ、その子は国木田花丸さんですわあく」

絵里 「そ、そう、ありがとう。大丈夫花丸ちゃん？」

花丸 「・・・はい。」

希 (・・・やっぱ、どつか抜けてるなえりちはwww)

海未 「・・・凜？」

凜 「・・・はい」

海未 「あなたは・・・最低ですつ!!!!」バツチツイツン↑例のビ

!!!!????

ンタ

凜 「ぶっ!!?!!くっ、ふ、その通りでございませす……。 (首吹っ

飛ぶかと思つたにや!!?!!)」

穂乃果 「……くw (笑つたらだめだとわかつてるけど……)」

希 「……w」

果南 「そういえば、千歌も花丸のことちよつと馬鹿にしてたくな

ない?」

千歌 「え」

海未 「クルツ

千歌 「い、いやいや私は違ふよっ!!馬鹿になんてしてないよっ

!!」

果南 「じゃあビンタされるの……やめる?」

千歌 「やめるよっ!!!迷う余地なしだよお!!」

ダイヤ 「……ふw」

海未 「スタスタ↑千歌に近づく海未

穂乃果 「千歌ちゃん頑張つて……w」

千歌 「う、うおおおお!!」↑反撃に出ようと飛び掛かかる千歌

海未 「……っ!」

希 「千歌ちゃん諦め悪すぎw」

ダイヤ 「千歌さんwそれは無謀というのですわあw」

海未 「せいっ!!」ドンツ↑千歌を一本背負い

千歌 「ぐっはっ!、い、痛い……。」

ことり 「あっさりw」

希 「そりやそうやw」

海未 「ほら、立ち上がった!」

千歌 「うう、背中ヒリヒリするう……。」

海未 「では……あなたは、さいっ」させるかああああ!!」↑

海未に抱き着く千歌

千歌 「絶対っ!!! 諦めないっ!!!」ギュー↑ひたすら抱き着く千

歌

他 「w w w w w w w w w w」

希 「いやwww諦めろやwww」

果南 「そこで主人公感出さなくていいよwww」

ここ 「なにこの絵www」

海未 「……………結構胸ありますね」

海未 「……………」

千歌 「あががががががががが」

ダイヤ 「さ、サバ折りwww」

ことり 「何してもダメなんだねwww」

希 「早く諦めたらいいのにwww」

千歌 「がはっ……………」

穂乃果 「じゃあ千歌ちゃん、抵抗するのやめる？」

千歌 「……………」

いん!!!

千歌 「いいつ!? …おと、く、ふ、うう、し、した、かんひや…………」

果南 「変に抵抗するからだよ千歌www」

希 「思い切り舌噛んでたねwww」

千歌 「うう、私そんなに花丸ちゃんを傷つけたのかな…………」

(首折れたかと思つたよ…………)

希 「そーいやそんな話やつたけwww」

凜 「……………」

鞠莉 「ふふwwwもういいですよおwww花丸うう!!」

花丸 「もういいずら? wwwやっぱり演技は疲れるずらwww」

凜&千歌 「……………」

花丸 「いや、でも結構楽しかったずらwww」

凜 「……………」

千歌 「……………」

花丸 「あ、ミューズの星空凜さんずらあ、まるの憧れの人に会

えるなんて……………」

凜 「いや、そういうの今はいいから? それで? どういうこと

?」

鞠莉 「私たちからのサプライズでえくす!!!」

花丸 「ずら♪」

凜 「・・・もう誰も信じないにや。」

ルビィ 「ピギイイイ!!!すごい!!ミューズの皆さんがいるうう!!!」

ことり 「ぴぎいwww」

ダイヤ 「そうですわルビィ!なぜあなたがここにいるのですか??留守番はどうしたのです!!」

ルビィ 「ん?理亜ちゃんにあくそば♪って言ったたら家に来てくれだからそのまま留守番頼んできたよ?」

果南 「ド畜生すぎるwww」

穂乃果 「アクアの1年生やばいねwww」

希 「それはそうと穂乃果ちゃん、命令は?」

穂乃果 「え? んじやあ3番が3階からジャンプで。」

ことり 「穂乃果ちゃん穂乃果ちゃん、そういう意味の分からない命令はやめない? ことり死んじゃう。」

ここ 「いや3階だったらギリいけるんじゃない?」

希 「ていうか、ことりちゃんやったら飛んでいけるやろ、鳥やし。」

ことり 「ちよつと外野は黙ってて。」

穂乃果 「でもそれだと理事長とディープキスになっちゃうけど・・・。」

ことり 「飛びます」

善子 (・・・私の存在感)

ことり 「ううたかいい・・・」

希 「大丈夫大丈夫念のため下には大量の段ボール敷いたし。」

ことり 「本当に大丈夫なの??」

希 「大丈夫大丈夫・・・まあ知らんけど」

ことり 「ああくん、もうやだああ」

理事長 「しょうがないわねえ〜ことり!」

ここ 「理事長wwwいつからいたのよwww」

理事長 「ことりとディープキスしたらいいのよね？」

穂乃果 「え、ええ、まあ・・・(え、本当にやるの?)」

理事長 「しようがないわねことり、まさか娘とキスするとは思わなかったけど・・・来なさいことり・・・」↑妖艶な感じで

ことり 「・・・」ピョンツ↑無言でジャンプ

希 「ことりちゃんw w w 無表情で飛んで行ったw w w w」

真姫 「そりゃ、あの感じで母親に迫られたらねw w w w w」

凜 「きつついにやくw w w」

花陽 「ことりちゃんw w w段ボールの山に突き刺さっていった

ねw w w」

海未 「w w w w w w w」

ことり 「・・・ただいま。」

穂乃果 「ことりちゃんw w w大丈夫だった??」

ことり 「うん・・・意外と段ボール優秀だね」

理事長 「あらあら、私の手を借りなくても一人で何とかするなんて・・・成長したわね、ことり」

ことり 「帰って」

理事長 「あらあら、じゃあ残念だけど帰るわ」

希 「何のキャラやねんあのおばさん」

善子 「・・・楽しいゲームしてるって聞いてきたのに、いきなり3階からジャンプとか・・・」

果南 「なんか3階からジャンプって普通に楽しそうだね。」

ダイヤ 「もう果南さんだけミューズに入ったらどうですか？」

穂乃果 「よし、じゃあ続き行くよ!!」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく

## 第15話 千歌「アクア全員集合！」

第15話の続きです

曜 「梨子ちゃん・・・、もうやめようよ」ゲツソリ

梨子 「あと一回！あと一回だけ!!」ハアハア／

曜 「そのセリフ30回ぐらい聞いたよ・・・」

梨子 「お願いお願いお願い」

曜 「大体壁ドンだか何だか知らないけど何時間もして楽しいの？」

梨子 「壁クイよ、間違えないで。」

曜 「はいはい、でも流石の私も疲れたよ・・・、千歌ちゃんよ  
くこんなの3時間もやってたよ・・・。」

梨子 「曜ちゃんなら大丈夫よ！ほら、早くしましょう！」

曜 「いやいやもうやらないよ・・・、そういえば千歌ちゃんダイヤさんの家に何しに行ったんだろうね？」

梨子 「さあ？ 千歌ちゃんすごく興奮してたけど・・・。」

曜 「奇跡だよおおwwwってねwww」

梨子 「ふwwwやめてよwww」

曜 「大した事なさそうだけど、私たちもダイヤさんの家に行こうよ。」

梨子 「壁クイは？」

曜 「やらないって言ってるじゃん、早速出発進行ヨソロソ!!」

梨子 「あくもう、ちよつと待ってよ。」

く黒澤家く

曜 「ダイヤさくん!!・・・ダイヤちゃくん!!!」

曜 「・・・いないのかな？」

梨子 「まあちよつと時間たってるしね」



理亜 「・・・はい」ガラツ

曜 「理亜ちゃんw w wなんでダイヤさんの家にw w w」

梨子 「ほんとにw w w」

理亜 「ルビィが遊びたいって言うから来たら・・・急に留守番頼まれたのよ」グスツ

曜 「どういうことw w w」

梨子 「遊びたいって言われてわざわざ北海道から来たの？w」

理亜 「だって私友達に誘われたことなんて今までなくて・・・すごくうれしかったのよ」

曜&梨子 「・・・。。。。。。。。」。

曜 (気まずい・・・)

梨子 (・・・これが本当のクラッシュマインド)

曜 「ま、まあルビィちゃんにも何か事情があったんだよ！きつと！」

梨子 「そ、そうね！ルビィちゃんはいい子だもの！・・・多分」

理亜 「うう・・・そうだといんだけど。」

曜 (・・・とりあえずどういう状況なのか把握したい、んっ？ラインに大量の通知が・・・)

〜ここからアクアのグループLine〜

ダイヤ 『皆さん!!今私たちはなんと、なんとおっ!!』

花丸 『何すら、もったいぶらず早く言うすら』

ヨハネ 『そうよ、私たちも暇じゃないんだけど?』

ダイヤ 『あなた達・・・一応私3年生なんです。』

花丸 『早く要件言うすら』

ダイヤ 『・・・まあ、今はいいでしよう。なんと私達は今音ノ木坂でミューズの皆さんと一緒に遊んでいるのですわ〜!!』

〜五分後〜

ダイヤ 『ちよつと!!!なんで無視なんですの?!?!既読つきますわよね〜?!?』

花丸 『で、それがどうしたすら? 自慢したいだけならライン切るすら。』

ヨハネ 『上に同じ』

果南 『同じく』

ダイヤ 『私の扱いが雑すぎますわよ!!というより違いますわよ!!  
あなた達にも来てほしいのですわよお!!』

花丸 『えくなんですら? 東京遠いすら。』

ヨハネ 『それ』

ダイヤ 『そこを何とか!!』

く五分後く

ダイヤ 『だから!!なんで無視なんですの!!!既読ついてますわよお  
お!!!』

花丸 『だって・・・面倒すら。』

ヨハネ 『ね』

果南 『まあまあ、なんか楽しそうじゃん!わたし行くよ!二人  
も来なよ!』

花丸 『・・・まあ、果南ちゃんがそう言うなら』

ヨハネ 『・・・しょうがないわね』

ダイヤ 『もしかして私喧嘩売られてます??』

花丸 『まあ、実はもう向かってるけど』

ヨハネ 『うん、ルビイに聞いてたし』

ダイヤ 『今までのやり取りは何でしたの・・・。』

ダイヤ 『まあ、ルビイは今回残念ですけど三人が来るならいい  
すわ!では、私は楽しい楽しいゲームに戻るので、よろしくですわあ  
く!!』

ルビイ 『ルビイも行くよ?』

ヨハネ 『ダイヤ返事ないわね・・・楽しいゲームって何かしら?』

果南 『さあ・・・まあ、なんか楽しいんでしょ!ちなみ1年生は  
どうやって行ってるの?』

花丸 『新幹線すら』

果南 『リッチだね』

ヨハネ 『果南は?』

果南 『走って行ってるよ?』

花丸 『冗談は喜子ちゃんずら』

ヨハネ 『ヨハネツ!!』

ルビイ 『いや〜ミュージズの皆さんに会うの楽しみだなく!!』

〜Line終了〜

曜 (ルビイちゃん・・・あんだ最低だよww)

梨子 「どうしたの曜ちゃん??」

曜 「・・・いやww これ見てよ」

梨子 「?・・・ふwwルビイちゃんwwww」

理亜 「どうしたのよ急に笑いだして・・・私のこと馬鹿にしてるの??」

曜 「違う違うwww それよりこれから東京に行かない??」

梨子 (曜ちゃんwwww 理亜ちゃんをルビイちゃんに会わせる気ねww)

曜 (だって面白そうじゃんwwww)

理亜 「えっ東京??なんでまた・・・。」

曜 「まあまあ、どうせここにいっても暇でしょ?」

理亜 「いやでも・・・、帰りのこと考えるとお金とかが厳しいし。」

梨子 「まあ北海道だものね。」

曜 「? 走ればいいじゃん?」

理亜 「いや、何言ってるの?みたいな感じで言ってるけどそっちが何言ってるの?」

梨子 「曜ちゃん・・・ここから東京までどれくらい距離があるか知ってる??」

曜 「え??確か100キロちよいでしょ??行けるじゃん!!」

梨子 「・・・私は電車とかで行くから、二人は走って行くということだ」

曜 「おけい!じゃあ行くよっ理亜ちゃん!!」

理亜 「いやいや、無理だし!! ていうか留守番頼まれるって言ったじゃない!」

曜 「いやいやそんなの言う事聞く必要ないよ!それに黒澤家なら多少何か物が盗まれても大丈夫だよ!お金持ちっばいし!」

梨子 「その言い分はあんまりだと思うけどwww」  
理亜 「いや、だとしても！走るのなんて無理よっ!!」  
曜 「よし、出発進行ヨッソロッ!!」  
理亜 「ちよ、助けて!!!本当に!!!」  
梨子 「行ってらっしゃいwww」

曜 「つてな感じで来ました渡辺曜ですよろしくヨッソロッ

!!」

理亜 「」

梨子 「桜内梨子です、よろしくお願ひします。」

ことり 「よろしくヨッソロッ♪」

穂乃果 「これでアクアも全員集合だね!!」

希 「また、走ってきたんかい……」

花丸 「理亜ちゃんwww死んでるすらwww」

ダイヤ 「……今家の留守番誰もいないのですの?」

ルビィ 「大丈夫だよお姉ちゃん、内浦に悪い人なんていないよお」

果南 「ルビィがその悪い人に該当してるけどね。」

理亜 「……はっ!!ここは? ってルビィ!! あんたこれどう

いう事よ!!」

ルビィ 「うゆ?」

理亜 「くっ……殴りたい……」

穂乃果 「まあまあ、えくと理亜ちゃん??だよね!今私達王様ゲームしてるから一緒に楽しもう!!」

理亜 「……はあ、その王様ゲームとあれは関係してるんですか??」

穂乃果 「……うん。」

海未 「ほらっここ!!まだ50本残ってますよ!!!」

にこ 「も、もう無理にこ……、体がバラバラになるにこ……」

凜 「海未ちゃんと100本組手はまじで地獄にやっwww」

絵里 「これで半分なんてwww」

海未 「弱音を吐かないっ!!!せいつ!!!」 ↑背負い投げ  
にこ 「にこおおおおおおっ!!!?!!」

花陽 「はい、51—0」

ことり 「花陽ちゃんwww淡々としすぎwww」

曜 「・・・これが楽しいゲーム・・・か」

梨子 「王様になったらどんな命令でもできるのよね・・・／／／

／／

海未 「あの・・・にこが気絶したんですが。」

穂乃果 「まあそれで許してあげたらwww」

海未 「しゅうがありません、続きは起きてからにしましょう」

希 「慈悲はないのかwww」

梨子 「これダイヤさんが身代わり増やすために私達呼んだって

ことよね・・・」

ダイヤ 「ふふふ、これだけいれば私に命令なんて来るわけないで

すわあく」

ルビィ 「お姉ちゃんそれフラグ」

穂乃果 「よくしつ、賑やかになったところで続き行くよ!!」

全員 「王様だーれだ!!!」

つづく

## 第16話 「恐怖のレズモンスタ―」

第15話の続きです。

梨子 「やったわ！私が王様よ!!うふふふふ」

千歌 「・・・梨子ちゃんか、不安だなあ」

穂乃果 「なんだかことりちゃんと同じ雰囲気があるね」

ことり 「え、どこが？」

梨子 「うふふふ、まさか最初から王様なんて・・・／＼／＼」

凜 「これ大丈夫かによ。」

希 「確実にサイコパス側の人間の顔やね。」

鞠莉 「それで梨子く、命令はどうすのですか??」

梨子 「うふふふ、これで千歌ちゃんにどんなことでも・・・」

千歌 「梨子ちゃん、数字の人に命令だからね？」

梨子 「ふふ、わかってるわよ。じゃあ、全員が私とキスで♡も

ちろん口ね?」

全員 「」

凜 「やばいにや・・・完全にやばい奴にや・・・。」

希 「嘘やろ・・・ガチレズやん」

絵里 「ま、まあ理事長とのディープキスに比べたら・・・。」

ことり 「・・・なるほどその手が」

穂乃果 「やっぱり同じじゃん。」

曜 「梨子ちゃん・・・ブレなさすぎでしょ・・・」

千歌 「ね、100%全開で来たねw」

鞠莉 「ワくオ！梨子ったら大胆く！」

善子 「いや、どう見ても大胆ってレベル超えてるけど・・・。」

理亜 「・・・早くも帰りたくなってきたわ」

梨子 「ふふ、じゃあまずはおなからね♡」

凜 「え、凜から!? って、ちよつと待つにや!どこ行く気にな

!!??」

梨子 「どこかって・・・みんながいる部屋じゃゆっくりキスできな

いじゃない♡」

凜 「いやいや、ゆつくりキスする必要ないにや???  
尾に♡入れるのやめて? なんかすごく怖い!」  
それと語

梨子 「ふふふ、照屋さんなのね♡」

凜 「1ミリも照れてないにや!!」

梨子 「でも王様の命令は???」

凜 「……ぜっ……たい……にや」

梨子 「じゃあ早速行くわよ♡」

凜 「あ、ちよ!! って、お尻触るなにや!!」

梨子 「ふふ、じゃあ皆さん待っててくださいね?♡」

凜 「ちよ、みんな助けて……」

他 「……」

梨子 「ほら早く♡」

凜 「↑諦めた

梨子 「ふふ、いい子ね♡」

他 「……」

く5分後く

梨子 「ただいま戻りました♡」ツヤツヤ

凜 「……」ゲツソリ

希 「……なんの5分間ですかお姉さん。」

穂乃果 「……ただのキス、なんだよね?」

にこ 「ちよ、ちよつと凜! 何があったのよ!」

凜 「ナニモ」

絵里 「なんだか理事長とのキスのほうがましな気がしてきたよ

うな……」

梨子 「じゃあ次は理亜ちゃんね♡」

理亜 「……っ!」ダツ↑逃走図る

海未 「……」ガツ↑理亜をしつかり捕まえる海未

理亜 「……」グツ……グツ↑振りほどこうとしてる

海未 「……」↑そうはさせない海未

理亜 「……」

穂乃果 「理亜ちゃん・・・気持ちわかるけどね。ここまで命令からは絶対逃げられないを売りにしてきたから逃げるのは許されなんだよ。」

理亜 「・・・どこに売ってるんですか？」

梨子 「ほら行くわよ♡」

理亜 「」

（5分後）

梨子 「戻りました」ツヤツヤ

理亜 「・・・もう嫌」ゲツソリ

真姫 「・・・待って、本当に何があつたの？」

理亜 「・・・体中を撫でられながらずっと可愛いとか言われ続け

て、・・・最後に優しくキスされました。」

ことり 「ナニソレコワイ」

穂乃果 「・・・恐怖を感じるね。」

絵里 （・・・亜里沙がいなかったのは不幸中の幸いなね）

梨子 「じゃあ次は順番的に・・・」チラツ

希 「・・・うちか。」

梨子 「・・・。。。」スタスタ

希 「・・・。。。」

梨子 「・・・。。。」チュツ↑希にいきなりキス

希 「・・・。。え？」

梨子 「じゃあ次はあなたね♡」

穂乃果 「ええ!!?? 希ちゃんは??あれで終わり!!?」

梨子 「ふふ次はあなたなのよ♡ さあ早くいくわよ♡」↑希に

興味なし

穂乃果 「え、嘘おっ!!ずるいよ希ちゃんだけ!!ちよーー!!!!」

希 「・・・。。。。。」

他 「・・・。。。。。」

凜 「・・・よかったね希ちゃん、変なことされなくて。」

希 「・・・うち絶対泣かへん」

ダイヤ 「・・・。。。。w」



く10分後く

梨子 「ふく最高だったわく♡」

穂乃果 「」

ことり 「待って、何があったの？穂乃果ちゃん！」

にこ 「10分が増えたわね・・・」

海未 「穂乃果!! 何があったのですか??」

穂乃果 「なにもなかったよ・・・／／／／」

ことり 「ほ、ほのか、ちゃんが・・・汚された・・・カハツ」

ドサツ

海未 「ドサツ

にこ 「2年生全滅ね」

梨子 「まあ、いいですよ二人ぐらい・・・それより次行きましょ

うか♡」

全員 「・・・」。

にこ 「・・・このままじゃやられるにこ！」

にこ 「・・・」。「↑ラインに打ち込み中

にこ 「絵里!あのモンスターを止めて!」

絵里 「でもどうするの?」

にこ 「私が動きとめるから後ろから手刀とかで気絶させてよ。」

絵里 「手刀って・・・まあやってみるわ」

にこ 「頼んだわよ!」

絵里 「ふふ、KKEの私に任せなさい!!」

にこ 「絶対成功させるわよ!」

絵里 「ええ!!」

梨子 「・・・何を成功させるのかしら♡」

にこ 「」

絵里 「」

梨子 「・・・まずは矢澤さん?行きましょうか♡」

にこ 「」

く15分後く

梨子 「ふく、最高だったわく♪」

「……」ゲッソリ

花陽 「どんどん時間が長くなっていく恐怖……。」

真姫 「……にこちゃんっ!!」

にこ 「……うう、真姫……ちゃん」ガクツ↑気絶した

真姫 「にこちゃんっ!! つく、絶対許さない!」キツ↑梨子を睨

め付ける真姫

梨子 「あらあら怖い♡じゃあ次はお望み通りあなたね♡」

真姫 「絶対に……あなたなんかには屈しない!!」

凛 「あ、こりや屈するやつにや。」

希 「間違いない。」

〜1分後〜

梨子 「ふふふ♡すごいピュアナ子だったわ」

真姫 「／／／／／／／／／／／／／／／／」

凛 「いや、さすがにちよろすぎにや」

千歌 「1分ぐらいしかたつてないのにww」

曜 「相変わらずすごいね……梨子ちゃん」

ダイヤ （わ、私の大好きなミュージスがどんどん壊れて……）

梨子 「さて、じゃあ次はあなたね♡」

花陽 「うう、誰かタスケテ——」

〜5分後〜

梨子 「……ふう♡」

花陽 「……／／／／／」プシュー

凛 「かよちゃんもアウトか……。」

希 「あと……ミュージスで残ってるのは。」

凛 「残ってるのは……?」

絵里 「ふふふ、私よ!」ドヤツ

希 「こりやあかな。」

凛 「真姫ちゃんパターンにや」

絵里 「まあ見てなさい?逆に落としてあげるから?」

希 「無理やて、カードがうちに全力で否定してるわ。」

凛 「カードなんか使うまでもないにや、無理にや」

絵里 「・・・ちよつとは期待してもいいんじゃないかしら。」

梨子 「じゃあ行きましようか♡」

絵里 「ええ。」

（5分後）

梨子 「うくん、やっぱり女子高生って最高ね！」

絵里 「↑好き勝手やられた

希 「えりち・・・落ちんかったただけでも真姫ちゃんよりは上や  
で」

凜 「うん、絵里ちゃんには何も期待してないにや。」

絵里 「・・・慰める気はないの？」

穂乃果 「・・・／／／」

花陽 「・・・／／／」

真姫 「・・・／／／」

凜 「この三人はだめにや、レズにやられたにや。」

希 「確かにあかな、よしミュージズから追い出そ。」

絵里 「なんてこと言うのよww」

海未 「」

ことり 「」

にこ 「」

凜 「まあ、この3人も心配だけにや。」

希 「まあ、この3人やったら大丈夫やろ」

梨子 「さあ、残るはみんなね♡」

千歌 「はあく、まさか東京まできて梨子ちゃんに付き合わされ  
るなんて。」

曜 「それ」

ダイヤ 「早く終わらせてくださいよ？」

絵里 「なんだかアクアの皆さん慣れてない??」

花丸 「まあ、梨子ちゃん普段からあんなだから

ルビィ 「うん、隙あらば体触ってくるし。」

希 「ただの痴女やんけ。」

凜 「まあ希ちゃんも人の乳よく揉んでるけど。」

希 「いや、一緒にせんといて、まじで」  
（15分後）

梨子 「はく、来てよかったわ・・・／＼／＼／＼」

千歌 「よし、早く次しようっ!!」

理亜 「帰りたい・・・ううお姉さま」

ダイヤ （・・・もしかしてこれって、えりーちかと間接キスしたの  
では??）

希 「うん、この流れをぶった切るためにも早く次行こ。」  
「うう、そうね。」↑復活した

凜 「でも、掛け声かける穂乃果ちゃんがあんなだよ？」

穂乃果 「・・・／＼／」

希 「よし、じゃあもう一人の主人公千歌ちゃん頼むわ。」

千歌 「ええっ！私が??？」

希 「・・・やめる？」

千歌 「やめないっ!!!」

希 「これ便利やなww」

曜 「でしょww私もよく使うんだあ」

千歌 「待って、そんな気持ちで毎回言ってたの??」

鞠莉 「じゃあ千歌あく、元気な掛け声たのみます〜！」

千歌 「う、うくん気になるけど・・・ま、今はいいや。」

凜 「そうそう、景気のいい一声頼むにや！」

千歌 「はい!! じゃあ、いくよ!!!」

千歌 「せーのっ!!!」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

つづく

## 第17話 「ピンクの悪魔」

第16話の続きです。

果南 「あ、私だねっ!!」

他 (・・・来たっ!!)

ルビィ 「・・・？」

梨子 (・・・なんだかみんなの様子が変ね)

果南 「ふっふっふ♪」

くちよつと前々

梨子 「ふふふ♡最後のキスの相手はルビィちゃんよ♡」

ルビィ 「はあ、ちやつちやつと終わらせてね？」

梨子 「ふふふ♡それはどうかしら？」

ダイヤ 「・・・行きましたね？」

鞠莉 「どうしたのダイヤ？」

ダイヤ 「いえ、ちよつと今回のルビィの行動は許せないものがあるのぢよつとそのことについて。」

果南 「あゝ、留守番押し付けたりしたこと？」

ダイヤ 「そうですね！さすがに今回のルビィの行いはぶつぶーですわあゝ!!」

花丸 「まあ確かにあれは酷いすらww」

曜 「うん、同じユニットメンバーとしてもあれは罰つするべきだと思うww」

善子 「・・・理亜がああなってるのもそれが原因でもあるだろうしね。」チラッ

理亜 「うう・・・お姉さまあゝ」

希 「でもどうすんの？」

絵里 「それならこの王様ゲームを利用してお仕置きしちやえばいいんじゃない？」

ダイヤ 「そうですね!!まさに私が言いたかったことですよゝ!さすがえりーちか!」

絵里 「・・・まあ、ね？」ドヤツ

希 「・・・まあそれはいいとしても、命令は数字の人にしか命令できへんやん？」

千歌 「うくん、じゃあばれないようにルビイちゃん以外の方がさりげなく自分の番号を王様に伝えればいいんじゃないかな？そしたら残りの数字がルビイちゃんってことだし。」

果南 「ばれないようにって、どうやって？」

希 「まあなんでも大丈夫やろ、さりげなく指とかで番号伝えてもいいし。」

凜 「完璧にや。」

ここ 「でも、どんな命令にするにこ？」

希 「まあそれは王様になった人に任せるってことでw」

ダイヤ 「決まりですわっ！ではルビイと、後・・・言う事聞かなさそうな梨子さん以外が王様になったら実行ということぞ！」

他 「了解!!」

理亜 「・・・ちよつと待ってその話！」

果南 「ん？どうしたの？」

理亜 「どうせなら——」

く回想終わりく

果南 「ふふふ、じゃあ命令はくどくしようかなく??」

希 「いや、どうでもいいけどうち4番って嫌いやねんなく」

↑4番

凜 「えー、凜は1番が嫌いにやく、なんか棒みたいでだっさいにやく」↑1番

千歌 「・・・ふw、わ、私は2番が嫌いかなww（誤魔化し方が下手すぎるww）↑2番

鞠莉 「OHく私は10番が大っ嫌いでえくす!!」↑10番

ダイヤ 「嫌いなのは断然3番ですわあああ」↑3番

絵里 「私は5番が嫌いよ！理由はないわ！」↑5番

花丸 「まるは8番すら」↑8番

善子 「9番よ」↑9番



ダイヤ 「そうですね、まず机を端に寄せましょう」

凜 「海未ちゃんとか邪魔にや、いつまで気絶してるにや」

ここ 「端っこにみんな積んどけばいいんじゃない？」

凜 「面倒くさいにや」

千歌 「あ、私も手伝いまゝす。」

ルビィ (味方ゼロ・・・)

理亜 (見てなさいルビィ・・・ポツチを弄んだこと後悔させてあげるわ)

く準備完了後

曜 「というわけでまもなく始まります！第一回スクールアイドルバトルロワイアル！」

希 「いや、どうなるのか想像もつきませんが、面白くなるのは間違いなさそうです。」

曜 「そうですね、というわけで本日の解説を務めさせて頂きます、渡辺曜とく」

希 「東條希です。よろしく！」  
ここ 「・・・なにやってんのあの二人。」

凜 「放つとけばいいにやww」  
ルビィ (・・・まさかこんなことになるなんて)

理亜 「・・・。。。。。」↑集中してる  
希 「おっと、まだ試合前ですが理亜ちゃん非常に集中して

ますねww」  
曜 「ルビィちゃんに酷い目に遭わされた怒りが彼女にそうさせているのでしょww」

希 「それでは早速初めてもらいましょう！」

希&曜 「試合スタートツ!!!」  
ルビィ 「うう・・・、理亜ちゃんこんなことしたくないよ。」

理亜 「なっ！元々ルビィ、あんたが私に酷いことしたんでしょ!!」

ルビィ 「う、うゆ、それは本当にごめんなさい・・・理亜ちゃんの



ことは本当に友達だと思ってるよ?」

理亜 「・・・え、そ、そんなこと今さら言われたって。」オロオ

ロ

ルビイ 「・・・。。。」ニヤ

ルビイ 「えいつ♪」ガンッ

理亜 「がっ!?!」

曜 「あゝと、油断させてからのルビイちゃんの脛蹴りが決まったゝ!!!汚いこれは汚い!!!」

希 「これには思わず理亜ちゃんも膝をついてしまいますww

w

千歌 「ほ、本当に汚いwwww」

花丸 「清々しいほどの外道っぷりすらwwww」

ダイヤ 「・・・ルビイ」

果南 「理亜くっ!!負けるな!!!」

ルビイ 「えいつ、えいつ♪」ガンガン

理亜 「くっ・・・うっぐ」

曜 「そして、膝をついた理亜ちゃんにすかさずパンチ連打の追い打ちだあゝ!!!」

希 「これには理亜ちゃんも防戦一方ですねゝwwww 是非ともこの光景を彼女の姉に見せてあげたいですねゝwwww」

梨子 「なんだか・・・動物の虐待みたいね。」

凜 「・・・凜、ミューズでよかったにやw」

理亜 「くっ、こ、このー!!!」

ルビイ 「ピギッ!?!」

希 「おっと、ここで理亜ちゃんがヤケクソの突進!しかしこれが功を奏したか!勢いでマウントを取ることに成功っ!!!」

曜 「これは決まったか???

理亜 「・・・さんざん私をこげにしてくれたわね、覚悟なさい!」

ルビイ 「・・・ぺっ!」

理亜 「わっ、汚いつ!?!」

希 「こwwwwこれはルビイちゃん、理亜ちゃんに唾を吐いて

マウントから逃れることに成功wwwしかし誰がこんな黒澤ルビイの姿を望んだでしょうか?www」

曜 「スクールアイドルどころか女の子失格ですねww」

梨子 「あら?女の子の睡よ?汚いわけないじゃない?」

果南 「梨子、今はおとなしくしてようか。」

理亜 「く、くう、こ、このく!!!」

ルビイ 「あ、ちよ、ちよつと髪の毛引つ張らないでよお」

理亜 「あ、あんたも引つ張るんじゃないわよ!!」

曜 「あくとここで、お互いの髪の毛を掴みあう膠着状態に!」

希 「急に子供同士の喧嘩っぽくなりましたね」

ルビイ 「くううう・・・えつ、アライズのツバサさんつ!!!」

理亜 「えつ!?つてさすがの私でも騙されないわよつ!!」

ツバサ 「あなた達まだやってたのね・・・しかもずいぶん人数増えてるわね。」

理亜 「え!?その声、本当にアライズ」

ルビイ 「・・・っ!えいつ!!」

理亜 「ぐっ!!!うう」

希 「あくと、ツバサさんに気を取られた理亜ちゃんにすっかりヘッドロックをかけていく」

曜 「これはまずいですね、ていうかルビイちゃんはどうしてヘッドロックなんて技を知ってるんでしょうか?www」

千歌 「え、あ、あなたはあのミュージズに並ぶアライズのツバサさんじゃあ・・・」

ダイヤ 「そ、そうですわよ・・・どうしてここに?」

ツバサ 「あら、私のこと知ってるなんて光栄ね♪ さつきまでミュージズの皆さんと私も遊ばせてもらってたのよ。それでちよつと忘れ物に気付いて戻ってきたの。」

ダイヤ 「さすがトップアイドルですわあ、オーラが違いますわあ」

千歌 「た、確かに・・・」

絵里 (第1話で思い切り車に轢かれてたけどね・・・)

凜 「それより、あんじゅさんは無事かにや？」

ツバサ 「ええ、ただもう二度と音ノ木坂には来ないと言っていたわw w」

絵里 「まあそれはそうなるわよねw w w」

果南 「何があったの・・・」

花丸 「まる達が来る前もかなり酷かったみたいですね」

希 「あくと、みんながツバサさんに夢中になってる隙に理亜ちゃん完全に落ちてしまっただけ!!これは虚しい!復讐達成ならず!!完全にツバサさんが悪いっ!」

ツバサ 「え、どうして?? というかどういう状況??」

曜 「終始ルビイちゃんのペースでしたね、今日という日が理亜ちゃんのトラウマにならないことを祈りましょうw w w」

花丸 「理亜ちゃんw w w可哀想すぎるぞらw w w」

善子 「ルビイこれですます調子乗るんじゃない?」

千歌 「理亜ちゃんw w w今度私達と遊ぼうねw w w」

ルビイ 「うゆ、いい汗かいた」

ダイヤ 「・・・く、こんなはずでは。」

希 「というわけで、ツバサさんもやってくやろ?王様ゲーム?」

ツバサ 「帰るわ、さようなら。」

凜 「まあまあツバサさん、ね?」

ツバサ 「いや、本当に勘弁して頂戴。」

絵里 「ツバサさん、残念だけどこのタイミングできたツバサさんが悪いわ。」

ツバサ 「」

希 「よし、じゃあ千歌ちゃん!続きしよっ!!」

千歌 「わわっ、そっか、じゃあ行きます!!」

全員 「「王様だーれだ!!!」」  
つづく

## 第18話 「寺娘の命令」

第17話の続きです。

花丸 「あ、まるずら〜」

千歌 「おっ、花丸ちゃん！ 命令は何にする？」

花丸 「うくん、あっ！この前テレビで見たやつにするずらー！」

曜 「え？ 花丸ちゃんの家ってテレビあるの？」

花丸 「あるに決まってるずら、流石に馬鹿にしすぎずら。」

善子 （・・・ブラウン管だけどね）

果南 「それで？ どんな命令なの？」

花丸 「一気飲みずらっ！」

希 「いや、何見たか知らんけどそれお酒ちやうん？」

ダイヤ 「高校生がお酒を飲むなんて言語道断！ぶつぶつですわ

！

絵里 「まあ、流石にお酒はね。」

果南 「今どきみんな飲んでるだろうけどね。」

鞠莉 「それなら心配ナツシングで〜す！これがありません！」

千歌 「なにそれ？」

鞠莉 「甘酒でえ〜す！」

千歌 「甘酒?？」

鞠莉 「いえ〜すっ！」

果南 「・・・なんで、甘酒なんて持つてるのさ。ていうかそれじゃあお酒の代わりにはならないんじゃない？ 酔わないだろうし。」

鞠莉 「のんのん、こういう時の甘酒とウイスキーボンボンは絶

対に酔うと相場は決まってる〜すっ！」

花丸 「よくわからないけど、もうそれでいいずら」

果南 「まあ、はなまるがいいならいいけど。」

希 「それで花丸ちゃん、何番にするの？」

花丸 「えと、それじゃあ3番と10番ずらっ！」

絵里 「・・・私ね」↑3番

ツバサ 「・・・なぜ来てしまったのかしら」↑10番

凜 「ツバサさんw w w いきなりw w w」

希 「ええキャラしてるやんw w w」

ダイヤ 「・・・まあ、甘酒を一気飲みしたところで何も起きませんわよ。」

ツバサ 「・・・そうよね、大丈夫よね？」

ダイヤ 「・・・たぶん。」

ツバサ 「・・・。」

絵里 「ツバサさん！ 心配ないわ、私がそれを証明してあげるわ！」

ツバサ 「・・・不安ね。」

凜 「絶対何か起こる気がするw w」

鞠莉 「はい、甘酒。」

絵里 「・・・よし、いくわよ。」

絵里 「・・・っ。」クイツ ↑一気に飲み干す

希 「いよっ！ナイス飲みっぷり」

ツバサ 「・・・大丈夫、綾瀬さん？」

絵里 「・・・。」

千歌 「・・・何か様子がおかしくない？」

曜 「え、本当に酔ったの？」

絵里 「いいえ、大丈夫よ。」キリッ

千歌 「なんだ。」

ダイヤ 「それはそうですよ、あのえりーちかが甘酒で酔うわけありませんわ」

絵里 「ところで希？ 少し言っておきたいことがあるのだけれど。」

希 「え？ 何いきなり？」

絵里 「私、あなたのことが好きなのよ、LOVEの方で」

希 「・・・は？」

梨子 「!？」

凜 「・・・これはw w」

絵里 「聞こえなかったかしら？ あなたのことが好きといったのよ？」 ナデナデ

希 「・・・あの、体撫でまわさんといってくれる？」

絵里 「真剣なの、私」ズイツ ↑顔を近づける絵里

希 「ちよ／＼ 近いつて／＼」

梨子 「いいわよ！ そのままいきましよう／＼」 ハアハア

ダイヤ 「こ、これが伝説ののぞえり／＼」 ハアハア

果南 「あんたらね・・・」

絵里 「・・・だめ、かしら？」 ウルウル

希 「い、いや、いきなりそんなこと言われても私／＼」

梨子&ダイヤ 「・・・」 ワクワク

絵里 「・・・希。」

希 「・・・え、えりち。」

絵里 「なくんて、うつそよく W W W W W」 バッチイ／＼ンツ!! ↑希にフルスイングビンタ

希 「ぶつつ?!」 ドサツ ↑ビンタされ倒れる希

絵里 「あはははははは W W W W W」

他 「W W W W W W W」

ここ 「完全に酔っぱらってる W W W W W」

凜 「きよ、今日一番面白いかも W W W W W」

花丸 「て、テレビより面白いすら W W W W W」

千歌 「何かあるとは思ったけど W W W W W」

果南 「ちよつと鞠莉 W W 本当にあれ甘酒なんでしょうね W

W

鞠莉 「もちろ／＼んつ、ちゃんと甘酒も入ってま／＼す！」

善子 「甘酒も、ね W W」

ルビィ 「ふ W 絶対他にも何か入れてるじゃん W W」

ツバサ 「も、もう帰りたい W W W」

ダイヤ 「え、えり／＼ちかが W」

梨子 「・・・」 ハア／＼

絵里 「ねえねえ希？ 騙された？ 騙されちゃった?? このえ

りくちかに騙されちやった??? w w w w

希 「……。」↑orz

凜 「う、うざいw w w この絵里ちゃんうざいにやw w w」

千歌 「ふ、普通に可哀想w w w w」

絵里 「さっきの希の物真似しまゝすw w w いや、いきなり

そんなこと言われても私／＼／w w w w w」クネクネ

他 「w w w w w w w w w w w w w w」

希 「」

千歌 「あはははは、そんなの反則だよw w w w w w w w w w」

凜 「そ、そんなに体はクネクネいてなかったにやw w w w」

果南 「希さん、しつかりw w w w w」

絵里 「ねえねえw w w のんたくん!! なんであの時一人称が、うちじゃなくて、私／＼／って言ったの?? ねえねえなくんで??」

希 「うるつさいわあ／＼ もうくたばれや!!このエセロシアやろう!!」

絵里 「こくら、そんな悪いこという口はこうしちやうぞ?」「ぶっ

ちゅく ↑唐突のキス

希 「」

他 「w w w w w w w w w w w w w w」

曜 「酔っ払い強しw w w w w」

果南 「あれには、絶対絡まれたくないねw w w w」

凜 「w w w w w w w w w」

ツバサ 「……私もあなるのかしら」

希 「もう帰りたい、酒臭いし……。」

絵里 「ハラシヨくw w w w w」

花丸 「はい、じゃあ次はえくとツバサさん?の番すら」

千歌 「そういえば、まだツバサさんがいたねw w w」

ツバサ 「……大丈夫よ、気をしつかり持てばお酒に飲まれるなんてことないわ、しつかり気を持つのよ私。」

く5分後く

ツバサ 「だからね？ わたし思うのよ、結局はおっぱいだって、ね。」モミモミ

絵里 「間違いないわ・・・」モミモミ

希 「もう勘弁してもらっていいですか？ おっぱい揉むんやったら自分の揉めや。」

絵里 「えくのんたんがそれ言うう??？」

ツバサ 「ねwwww」

にこ 「あれが地獄か・・・。」

凜 「希ちゃん完全に二人のおもちやだねwwww」

ツバサ 「それより私も告白してみたいわ！」

絵里 「いいじゃない！ 認めるわく!!」

他 「!？」

ツバサ 「・・・えくと、だれにしようかなく??」

他 「・・・。」↑全員目を逸らしてる

ツバサ 「決めたわ、千歌ちゃん！」

千歌 「」

曜 「千歌ちゃん、ご指名だよ。」

果南 「行つてきな、千歌。」

ダイヤ 「お祈りしてます。」

花丸 「南無」

千歌 「薄情者しかいないのだ・・・。」

ツバサ 「いらつしやい♡ 千歌ちゃん？」

千歌 「・・・うす。」

ツバサ 「私ね、あなたのことがね？ 好きなの！」

千歌 「・・・そうですか。」

絵里 「違うでしょ、希の何を見てたの？ よく見ておきなさい？ そんなこと言われてものんたん困つちやうく でも私もく、好きっ！」くねくね

絵里 「でしょ？ 希を見習いなさい？」

希 「言ってない」

千歌 「・・・いやw まあ、はい。」



ツバサ 「はい、じゃあ今のやって？」

千歌 「ええっ!？」

絵里 「早く」

千歌 「うう／＼ そ、そんなこと言われてもちかっち困っちゃう、でも私も、好きっ！」

ツバサ 「あ、ごめんなさい。やっぱり私穂乃果さんの方がいいわ。今の告白なしで。」

千歌 「」

曜 「ひ、ひどいw w w w」

果南 「何を見せられてるのw w w」

希 「ふw w」

にこ 「w w w きりがないから次行きましょw」

凜 「確かに、それがいいにやw w」

ことり 「・・・う、うくん、あれっ、私なんで寝てたの？」

海未 「・・・わかりません、何があったのか。」

曜 「あ、二人とも起きたんですね。」

ことり 「うん、でも寝る前の記憶があまりないの、確か王様ゲームをしてて。」

海未 「私もあまり覚えていませんね・・・。」

果南 「あまり思い出さないほうがいいと思うけど・・・。」

ことり 「うくん、あれ？ ツバサさんがいる？ 逆に穂乃果ちゃんがない。」

にこ 「ツバサさんはさっきまた来て、穂乃果たちはレズに、じゃなくてちよつと体調が悪いから別の部屋で休んでもらってるわ。」

海未 「・・・ふむ、まあいいでしょう。では今から私たちも参加します。」

ことり 「します♪」

千歌 「・・・はあ、ひどい目に遭ったのだ。」

果南 「まあまあ、次で挽回すればいいんだよw w」

千歌 「そうだね！ じゃあいつくよ〜！」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

へんじ

ことり 「いよいよラストです♪」

第18話の続きです

理事長 「あなた達」

千歌 「わ、びつくりした。」

希 「また来たんかいw」

理事長 「解散よ、解散。」

凛 「え、なんでいきなり？」

理事長 「保護者の方から帰りが遅いと苦情が来ました。」

にこ 「そういえば今何時なの？」

果南 「えくと、20時・・・だって。」

曜 「え、そんなに？」

善子 「本当だ、よく見たら親からいっぱい電話来てた・・・。」

ダイヤ 「(そういえば留守番の件どうしましょう・・・。)

千歌 「じゃあ、今回の命令で最後にしましょうか？」

希 「せやな、そうしようか。」

ダイヤ 「(最後こそ王様に・・・。)

にこ 「(やっと終わるのか・・・。)

理事長 「いや、すぐに帰りなさいよ。」

全員 「「王様だーれだ!!!」」

ことり 「あ、ことりだ。」

希 「ありや、ことりちゃんか。なんか以外やな。」

海未 「確かに、まだ王様になっていない人もいるのに最後がこ

とりとは。」

にこ 「・・・まあ、トリ、だからね。」

凛 「ま、そういうことだね。」

ことり 「・・・え、そんな理由？」

千歌 「・・・ふw」

希 「それでトリのことりちゃんは、ラストにどんな命令をす  
るんや？」

ことり 「もう、怒るよ？ でも最後の命令かゝ、責任重大だね。」  
にこ 「ことり、変な命令とかいらからね、まじで。」

ことり 「うくん、難しいよ。」

ダイヤ 「まあ、何でもいいんじゃないでしょうか、最後と  
も、メンバーも全員いるわけじゃないですし、軽く考えれば。」

海未 （そういえば、穂乃果はなぜ体調が悪くなったんでし  
か・・・。）

ことり 「うん、そうだね、ありがとう。あつ！」

希 「お、なんか思いついたん？」

ことり 「うん♪ ちょうどいい命令がありました♪」

ことり 「実は2日前に懸賞に当たって6人用の沖繩旅行が当た  
たの。今から言う5人はことりと一緒に行ってもらおうかな？」

千歌 「沖繩っ！行きたいっ！」

果南 「沖繩かゝ、私も行きたいな。」

希 「おお、最後に来てテンション上げる命令してくれるやん  
！」

ことり （本当は穂乃果ちゃん行ってイチヤイチャする予定だっ  
ただけだね・・・。）

凜 「これは行きたいにや、まじで。」

海未 「・・・練習はどうするのです？」

ことり 「よし、じゃあ言うよ。」

他 「・・・。」ドキドキ

ことり 「まずは・・・3番！」

千歌 「やったあ!! 奇跡だよおお！」

曜 「ああ、いいなあ、千歌ちゃん。」

梨子 （千歌ちゃんが行くなら私も行きたいわね・・・。）

ことり 「よろしくね、千歌ちゃん！ じゃあ次は・・・7番！」

理事長 「やったわあ、私よ。」↑7番

ことり 「・・・というのは冗談で10番で！」

善子 「・・・え、やった、私だ！」↑10番

理事長 「」

花丸 「善子ちゃん、素がでてるぞらよ？ w w」

善子 「はっ／＼／＼ べ、別にそこまで喜んでないからね！」

ルビィ (善子ちゃん、ぴよんぴよん飛んで喜んでた w w)

ことり 「・・・え、じゃあ別の人に変えようか？」 シュン

善子 「わああ！ うそつ、うそつ、うそつ、行きたいです！ 行きたい行きたい！」

ことり 「うん♪ じゃあよろしくね♪ 善子ちゃん！」

善子 「ううっ／＼／＼ 善子じゃなくてヨハネよ・・・。(沖縄は嬉しいけどこの人なんだか苦手だわ・・・)」

果南 「ふ w w w 行きたい行きたい w w」

ルビィ 「w w w w w」

善子 「そこ、うるさいわよっ／＼／」

ことり 「じゃあ、三人目は・・・」

希 「頼む頼む」

凜 「お願いします、お願いします、お願いします。」

にこ 「あんたら、本当ぶれないわね・・・。」

ことり 「1番で！」

絵里 「あら、私が1番よ」 ↑まだ酔っぱらってる

希 「酔っぱらってる場合は無効じゃないの？」

凜 「確かに。」

にこ 「あんたら黙つときなさい。」

ことり 「うん、絵里ちゃん、わかってないかもだけどよろしくね

？」

絵里 「ええ、もちろんよ、このえりくちかに任せなさい

！」

千歌 「絶対分かってない w w」

ことり 「じゃあ続けて4人目は、4番で！」

ツバサ 「ん、これって4よね？ 千歌ちゃん？」 ↑同じく酔っぱ

らってる

曜 「私は千歌ちゃんじゃありません、でも確かに4ですね。」

希 「まさかの酔っ払い2連続、なんか釈然とせえへんな」

凜 「同感。」

千歌 「まあ運だから・・・(この二人の様子見てたら不安だな)」  
ことり 「ツバサさん、よろしくお願いします。じゃあ次は最後だね。」

他 「・・・」ドキドキ

ことり 「11番で！」

ダイヤ 「やりましたわー!!(王様になれなかつたですけど、えりーちかと旅行!!)」

果南 「あー、だめだったか。」

曜 「羨ましい・・・。」

希 「帰るか。」

凜 「だにゃ。」

にこ 「おい待てこら。」

理事長 「はい、まじでやばい時間だから、すぐにみんな解散して頂戴。」

希 「うわっ、ほんまやもう20時半前やん。」

凜 「・・・普通に怒られる時間だにゃ。」

鞠莉 「じゃあ、ヘリが校庭にきてるので、アクアのみんなは校庭に急いで来て下さーい。」

希 「頼もしいな・・・。」

果南 「へりて・・・、走ればいいのに。」

花丸 「え、まさか本当に走ってきたの??」

曜 「理亜ちゃんどうしょw」

ルビィ 「まあ流石にこっちが引き取るよ。気絶させたのルビィだし。」

曜 「まあ、それなら任せるよw」

千歌 (理亜ちゃんw) 起きた後大丈夫かな、精神的にw)  
ことり 「じゃあ、また、沖縄の件は連絡するからねー」

千歌 「はいっ、今日はありがとうございました！」

他 「ありがとうございます！」

希 「ばいばい。」

にこ 「ばいにく〜」

凜 「ばいばいにや〜」

希 「さて、穂乃果ちゃんと真姫ちゃんと花陽ちゃんをどうするかな．．．。」

理事長 「その3人なら私が車で自宅まで届けておくわ。」

凜 「それはマジで助かるにや。」

ことり 「穂乃果ちゃん体調悪いんだよね？ 大丈夫かな．．．。」

希 「いや、体調というより．．．レズにな．．．。」

ことり 「え、レズ？」

理事長 「ほら、無駄話してないで、早く出る。」

にこ 「なんか最後ばたばたしちゃったけど、なんやかんやで楽

しかつ．．．た．．．よ．．．ね？」

他 「．．．．．多分。」

希 「うん、まあとりあえず今日は疲れたから帰るわ、ばいばい。」

にこ 「私も帰るわ、流石に遅くなりすぎたし、じゃあね。」

凜 「凜も帰るにや〜」

ことり 「じゃあことり達も帰ろっか、海未ちゃん。」

海未 「そうですね、ちよつと物足りなかったですけど確かに今日

日は楽しかったですね。」

ことり 「物足りない要素まったくなかったけどね。」

海未 「さあ、明日からまた練習びしびし行きますよっ！」

ことり 「．．．ほどほどにね？」

ことり (それより、沖縄旅行の件も色々準備しないとね〜♪ 楽しみだなく)

凜 「凜サイド〜」

凜 「あ〜、今日は疲れたにや〜、ん？ ライン？ 希ちゃんか

らだ。」

希 『沖縄旅行、うちらも行くで！ 例の6人に秘密で。』

凜 「．．．．．。」ニヤ

〜王様ゲーム編終わり〜

「次の日」(おまけ)

絵里 「……………うん、頭痛い。気持ち悪いし。」

絵里 「……………」

絵里 「ここ部屋よね……、寝る前に何してたかあまり覚えてないわね。」

絵里 「確か王様ゲームしてたのよね……………」チラッ

ツバサ 「……………」スウスウ

絵里 「なぜ、ツバサさんが……………」

絵里 「というより今何時？　ん？8時？　外は明るいから朝かしら？」

絵里 「状況がわからない、ん？　足音が近づいてくる？」

バンツ ↑部屋の扉を勢いよく開く音

海未 「さあ、練習しますよっ!!」

絵里 「」



## 第1話 ことり 「沖縄旅行編スタートです♪」

く王様ゲームから2週間後く

く音の木坂高校の校門前く

ツバサ 「・・・暑いね、真夏だものね。」

ツバサ 「・・・それにしても、これ何だったのかしら。」

ことり 『ツバサさん、2週間後の朝8時に音の木坂の前に来て下さい♪ 質問は受け付けません♪』 ↑ライン

ツバサ 「一応来たけど、まだことりさんはいないわね。」

ツバサ 「・・・それにしても、ここに来ると全身が強張るわね。」

ツバサ 「王様ゲームの次の日頭痛と吐き気の中たたき起こされてなぜかミュージズの皆さんと一緒に練習させられたのよね・・・。」

ツバサ 「・・・あれはきつかったわ、普通に吐いたし。なぜか絵里さんも吐いてたけど。」

※ツバサと絵里は命令で甘酒?を飲んで酔っ払っい、そのまま部室で寝てその次の日、二日酔いの中、海未によって強制で練習に参加させられました。

ツバサ 「というよりシンプルに練習がきつすぎるのよね・・・、なんでいきなりランニング40キロなのよ・・・。そりゃあ負けるわよね・・・。」

ことり 「・・・あの、ツバサさん? どうして一人でぶつぶつ喋ってるんですか?」

ツバサ 「説明よ。引かないで頂戴。」

ことり 「・・・はあ。」

ツバサ 「それでことりさん?なぜ私はここに呼ばれたのかしら?ラインでいくら聞いても無視してくるし。」

ことり 「なんとなく面白かったので無視しちゃいましたww」

ツバサ 「・・・まあ、この際それはいいわ。それで今回の目的は何かしら?」

ことり 「はい、今から4泊5日の沖縄旅行に行きます♪」

ツバサ 「・・・は?」

絵里 「はろ〜♪やつとこの日が来たわね！」

ことり 「あ、絵里ちゃん！そうだね、楽しみだよ〜」

ツバサ 「絵里さん、・・・え？ 状況がわからないのだけど？」

絵里 「こんにちはツバサさん！あら？やけに軽装ねツバサさん？」

ツバサ 「いや・・・え？ そういえば二人ともキャリアケース持つてるけど本当に沖縄に行くの？」

ことり 「はい♪この3人とアクアの3人の合計6人で沖縄旅行に行きます♪」

ツバサ 「え、どうしてそうなったの？」

絵里 「ん？まさかことり、ツバサさんに事情説明してないの？」

ことり 「うんwww」

絵里 「wwwwww」

ツバサ 「いやいやいやいや、笑い事じゃないでしょ！というよりいつ私が沖縄に行くことになったのよ！」

ことり 「王様ゲームの最後の命令でそうになりましたwちなみにこれが証拠の動画です♪」

ツバサ 「・・・記憶にないのだけど。」

ことり 「ツバサさん完全に酔ってたからw」

絵里 「まあ、それは私も記憶にないんだけどね・・・。」

ツバサ 「いやいや、無理よ！私今財布とスマホしかないのよ！」

ツバサ 「どうして事前に伝えてくれなかったのよ！」

ことり 「サプライズで・・・。」

ツバサ 「全然サプライズになってないわよ！絶対行けないわよ！何も用意してないし。5人で行ってくればいいじゃない。」

ことり 「・・・王様の命令は？」

ツバサ 「・・・絶対。」

ツバサ 「・・・せめて家に帰って準備させて頂戴。」

ことり 「でも、もう飛行機の時間が来ちゃうし・・・。」

ツバサ 「・・・嘘でしょ。」

絵里 「ふwww」

ことり 「でも、せっかく6人もいるのにミュージズが2人しかいないのは寂しいね……。」

絵里 「確かにそうね……。もう少ししてもよかったかもね。」

ことり 「呼んじやおつかwww」

絵里 「いやいや、カラオケに誘うわけじゃないんだから無理でしょう。」

ことり 「確か、リリホワの3人と穂乃果ちゃんは用事があるって言ってたよね？花陽ちゃんも家族旅行って言ってたし……。にこちゃんも子供たちのお世話があるし、となると……。」

絵里 「……。真姫、かしら」

ことり 「うん、そうだね！早速電話してみるよ。」

絵里 「どうするつもりなのかしら……。」

ことり 「あ、もしも真姫ちゃん？」

真姫 「ことり、どうしたの？今日から沖縄旅行じゃないの？」

ことり 「うん、そうだよ！真姫ちゃんも行こうよ！」

真姫 「……。は？」

ことり 「真姫ちゃんも沖縄旅行行こうよ！」

真姫 「いやいや、何を言ってるのよ！行くわけじゃない。」

ことり 「……。セクシーポーズで誘惑する真姫ちゃんの動画、ことり持つてるんだよね？その動画をどう使うか迷うな」

※第2話参照

真姫 「」

ことり 「……。来てくれる？」

真姫 「あくもう分かったわよ！行くわよ！何時にどこに行けばいいのよ？」

ことり 「9時に成田空港から飛行機が出発するよ！」

真姫 「全然時間ないじゃない!!! 切るわよ!!!」

ことり 「うん♪またあとでね」

ツバサ 「……。恐ろしいわね」

絵里 「wwwでもチケットとかホテルの予約とかどうするの？」

ことり 「ふふw 実は後一人は最初から呼ぶつもりだったので既に予約済みです♪」

絵里 「え、でもそのお金は？」

ことり 「ことりのバイト代から出しました。」

ツバサ 「なぜそこまでして・・・。」

ことり 「というわけでことりたちも行きましょう！」

ツバサ 「・・・はあ、こうなったら現実を受け入れるしかないわね。」

絵里 「そうよ♪この際楽しんだもん勝ちよ！」

絵里 「飛行機といえばことり、まさか枕忘れてたりしてないわよね？なんてねw」

ことり 「・・・あ」

絵里 「ん？」

ツバサ 「え？枕？」

ことり 「ちよつと、ことり家に帰る！」

絵里 「させないわよ」ガシツ

ことり 「絵里ちゃん離して!!あれがないと！」

絵里 「いやいやだめよ飛行機9時からなんでしょ？もうぎりぎりじゃない。」

ことり 「そんなのどうでもいい」

ツバサ 「??」↑状況が分からない

絵里 「いいじゃない、代わりにシーサーを枕替わりにでもしたら。ほら行くわよーへいタクシ〜！」

ことり 「うわ〜ん、シーサーは枕じゃないよお〜」

ツバサ 「・・・不安しかないわね。」

ツバサ 「・・・ま、沖縄旅行だもんね、きっと楽しい旅行になるわね♪」

〜それよりも3時間前〜

海未 「さ、3人も今から成田空港に向かいますよ！」

希 「いや、なんで歩きで成田まで行くねん・・・。」

凜 「朝の5時から成田まで歩きとか・・・というより昨日の疲れが・・・。」

穂乃果 「穂乃果も・・・、ぎりぎりまでバイトしてたもんね。」

海未 「仕方がないでしょう、お金がかつかつなんですから。それに今回沖縄に行きたいと言いだしたのはあなた達でしょう。」

希 「いや、かといって毎日練習後に引越しのバイトはきつすぎるわ・・・。」

凜 「本当に、というかなんで引越しのバイトだったの？」

海未 「短期間で今回の旅行費を稼ぐにはそれしかなかったんですからしょうがないでしょう。」

海未 「それに引越しのバイトはいいトレーニングにもなりませんでしたからね！」

希 「トレーニングで・・・うちらは何を目指してるんや。」

穂乃果 「それより、今回ってアクアの人たちも来るんだよね??」

希 「うん、梨子ちゃんと果南ちゃんとルビィちゃん、曜ちゃんが来るはず。」

穂乃果 「へへ、そうだよね／＼」

希 「・・・梨子ちゃん目的か、完全にレズ化してるやん」

凜 「穂乃果ちゃんそれで今回来たいって言いだしたのか・・・」

希 「それにしても海未ちゃんも来たいって言いだしたんは意外やったな」

凜 「確かに」

海未 「この夏休みという部活の練習をするにはうってつけの貴重な時期に旅行に行くと言いだしたことりと絵里に厳しいお仕置が必要かと思ひましてね。」

希 「・・・さいですか。」

凜 「・・・どんまい絵里ちゃん、ことりちゃん。」

海未 「はい、無駄話はこちらまでにして早速成田まで行きますよ！」

3人 「・・・へへい」

## 第2話 千歌「沖縄に出発だよ!!」

沖縄旅行編1話の続きです。

〜沖縄旅行2週間前〜

理亜 「はあ、夏休みだっというのに、毎日練習してご飯食べて寝るだけなんて……。」

聖良 「それならまたアクアの人たちと遊んで来たらいいじゃない。い。」

理亜 「……もうアクアは嫌よ。特にルビイは。」

聖良 「え?ルビイちゃんとは一番の仲良しだったんじゃないの?」

理亜 「……。」

聖良 「……何があったのかしら」

ピコンッ♪

理亜 「ん?」

聖良 「あら、理亜のスマホじゃない?ラインでしょう?」

理亜 「……そっか、今のラインの通知音だっけ、ラインなんて誰からも来ないから忘れてたわ。」

聖良 「……そう。」

理亜 「どうせまた、広告のラインでしょ?分かってるんだから……って、えっ!?!」

聖良 「どうしたの?」

理亜 「姉さま……私、私沖縄にいくわっ!!」

聖良 「え、沖縄?? どうしたのいきなり?真逆じゃないの……。」

理亜 「ほらっ、これ!!」キラキラ

ルビイ 『理亜ちゃん! 2週間後から4泊5日の沖縄旅行に行かない? この前はギスギスしちやっただから、この旅行で仲直りして、一緒に楽しみたいな〜って♪』

聖良 「そ、そう。いいんじゃないかしら?(さっきまで嫌いって言ってたのに……)」

理亜 「よし、色々準備しなきゃね!」

聖良 「でも、お金は大丈夫なの？ 4泊5日となるとまあまあかかると思うけど？」

理亜 「私、友達いないからお金あまり使わなくて結構貯金あるのよ！ 足りない分はバイトするわっ！」

聖良 「・・・そう、楽しんできてね？ (将来が不安ね・・・)」

理亜 「うんっ!!」

くアクアサイドく

ルビィ 「ね？ 行けたでしょ？ w」

曜 「速攻で既読がついて、10秒で行くつて返事してきたね・・・。」

果南 「すごいね、日本縦断の判断を10秒でw」

梨子 「いいじゃない、人が多いほうが旅行は楽しいわよ！」

曜 「確かにそうだね！ いやく楽しみだなく沖縄！」

果南 「そうだよ！ 沖縄だよ！ いやく、きつと海もすごく綺麗なんだろうねく」

曜 「ね！ 絶対ダイビングしようね！」

果南 「もちろんっ！」

ルビィ 「・・・この二人と行って体力が持つか。まあ、梨子ちゃんがいるし。」

梨子 「・・・じゃあ、私たちは二人でゆつくりと語り合いましたよ  
うか／＼／＼」

ルビィ 「・・・うゆ (全員アウトじゃん・・・理亜ちゃん呼んで良かった)」

果南 「誘ってくれたミュージズの人たちには感謝だね！」

曜 「花丸ちゃんと鞠莉ちゃんは残念だったけどね・・・。」

ルビィ 「まあ、家の用事じゃしょうがないよ。」

梨子 「でも、これはどういう意味なのかしら??」

希 『例の6人には絶対に内緒でお願いしますm ( ) m』↑  
ライン

曜 「さあ？ 向こうでいきなり現れてサプライズとかじゃない？」

果南 「そうだね、千歌たちも驚くだろうねw」

ルビィ (・・・いや、絶対何かもっとすごいことを企んでると思うけど。)

↳2週間後↳

善子 「・・・時は満ちた。」

ダイヤ 「・・・そう、ようやく、ようやく」

千歌 「沖縄旅行だあつ!!!」

3人 「いえ〜いつ!!!」

千歌 「いやあく恥ずかしながら昨日は楽しすぎて全然眠れなかったよ〜」

善子 「それは流石に子供すぎるでしょ・・・」

ダイヤ 「・・・そうですねよ千歌さん(私も全然眠れなかったですけど)」

千歌 「え〜、だって沖縄だよ、沖縄〜!嫌でもテンション上がったちゃうよ!」

ダイヤ 「まあ、確かに楽しみですわ、なにせあのえりくちかと5日間も一緒に入れるのですからっ!」

千歌 「私もミュージズとアライズの人たちと旅行できる日が来るとは思わなかったよ〜」

ダイヤ 「本当に・・・、夢のようですわ〜」

千歌 「本当、あの王様ゲームを乗り越えてよかった・・・」

ダイヤ 「ちなみにあのせいで私は一生たこ焼きを食べないと誓いましたわ・・・。」

善子 「たこ焼きって?何があつたのよ。」

千歌 「まあ色々あつたんだよ・・・。」

ダイヤ 「でも今回ルビィが私を羨ましがっていなかったのが気になりますわね。前の王様ゲームに私だけが行くことになった時は、この世の終わりのような顔をしてましたのに。」

善子 「前の王様ゲーム見てちよつとミュージズから距離置こうって思ったんじゃないの?」

ダイヤ 「あり得ませんわ〜、私達姉妹のミュージズに対する愛はそ



の程度ではありません！」

善子 「あ、そう。知らないけど。」

千歌 「確か今日は曜ちゃん、梨子ちゃん、果南ちゃん、ルビィちゃんまで遊ぶって言ってたからそれでじゃない？それはそれで楽しそうだし。」

ダイヤ 「・・・ふむ、そうですわね、考えすぎですわね。」

千歌 「・・・ところで善子ちゃん、その恰好で行く気？」

善子 「当然じゃない！沖繩だろうがどこだろうが墮天使ヨハネはヨハネなのよ！あと善子じゃなくてヨハネっ！」

ダイヤ 「いや、流石に墮天使衣装では暑いでしょう・・・、ていうか既に汗だらだらじゃないですか。」

善子 「いいの！私はこれがいいの！」

千歌 「まあ、別にいいけど・・・」

ダイヤ 「では、早速空港に向かいますようか！」

2人 「おー!!」

く沖繩(那覇空港)く

千歌 「とうちゃくく!!」

ダイヤ 「いよいよ始まりますのね、青春の1ページが・・・」

善子 「すごい人ね・・・」

千歌 「えくと、確かこのあたりが集合場所だったんだよね、あつ、いた!!」

千歌 「みんな、行こう!!」

ダイヤ 「はい！行きましょう!!」

善子 「あ、ちよ、人込みで、待ってよお」

く10分前 同じく沖繩(那覇空港)く

希 「ふく、飛行機で寝たから多少体力は回復したな！」

凜 「うん、空港まで遠すぎて死ぬかと思っただけどね！」

穂乃果 「アクアの人たちは・・・まだ来てないね」シユン

海未 「さあ、休んでる暇はありませんよ！早速準備にかかりますよ！」

他 「おー!!」

へんじ

### 第3話 悪夢の幕開け

沖縄旅行編第2話の続きです

ことり 「わく、ついに来たね沖縄！」

絵里 「テンション上がってきたわ！」

ツバサ 「とうとう手ぶらで沖縄に来てしまったわ……。」

真姫 「なんで私まで沖縄に……。」

千歌 「おういつ、みなさくん！」

ことり 「あ、千歌ちゃん！2週間ぶりだね！」

千歌 「はい！こんにちは、ミュージズの皆さん！と、ツバサさん  
！」

善子 「どうも、こんにちは。」

ダイヤ 「こんにはですわ〜！」

絵里 「久しぶりね皆！」

真姫 「……久しぶりね。」

ツバサ 「……こんにちは。」

千歌 「ツバサさん、なんだかテンション低いですね、何かあった  
んですか？」

ツバサ 「……この旅行に行くことを知らされたのが今朝なのよ。」

善子 「どういうことw」

ツバサ 「そのままの意味よ、それで手ぶらで沖縄まで来る羽目に  
なったのよ……。」

ダイヤ 「それで何も持ってないんですのねww」

千歌 「どうしてそんなことに？w」

ことり 「……てへぺろ♡」

千歌 「ことりさんの仕業かww」

ダイヤ 「ん？そういえばなぜ真姫さんがここにいらっしやるので  
すか？」

真姫 「……私が聞きたいわよ。今朝いきなり呼ばれたのよ、こ  
とりに。」

ことり 「……てへぺろ♡」

千歌 「w w w w」

善子 (・・・この旅行中ことりさんにはできるだけ近づかないでおこう。)

真姫 「まあ、私は着替えとかは一応持ってこれたからツバサさんよりはましだけどね。」

ツバサ 「・・・。」

ダイヤ 「・・・ふw、それよりこれからどうするのですか?」

ことり 「えくと、確かこの先のところに集合のはず。そこからはガイドさんが案内してくれるんだって!」

絵里 「じゃあ早速行きましようか。」

千歌 「行きましよう!」

↳5分後↳

ダイヤ 「・・・あの、本当にここなんですか?」

ことり 「・・・うん、そのはずだけど。」

真姫 「・・・何よこの看板。」

看板 「ここで待て!!」

善子 「・・・これどこかで見ただことあるんだけど。」

千歌 「・・・年末のやつだよ、これ。」

ツバサ 「・・・ああ、もう嫌な予感しかない。」

絵里 「ん?何かおかしいの??」

??? 「おっい。」

ことり 「ん?この声って・・・」

希 「やくやく、皆さんこんにちは!」

ことり 「やっぱり・・・。」

絵里 「え?なんで希がここに??」

ツバサ 「・・・。」 ↑何となく察した

千歌 「え?状況が全く分からないのだ。」

ダイヤ 「・・・これはいつたい。」

希 「まあまあ、皆さんが混乱するのも無理ないわ。」

希 「ということですから説明していくな!」

他 「・・・。」

希 「まず前の王様ゲームですが、皆さん覚えてますか？」

絵里 「そりゃあ、ね・・・。」

ダイヤ 「忘れる訳ありませんわよ。」

希 「そりゃ結構。じゃあ結論から言うけど、みんな・・・笑いすぎや。」

真姫 「いや、希も大概でしょ。」

千歌 「確かにw」

希 「・・・でな？確かにアイドルにとって笑顔は大切やけど節度ある笑顔を保ってもらうために今回の旅行中に特訓をしてもらおうと思ったわけや。」

他 「・・・。。。」

希 「はい!!というわけで今から絶対に笑ってはいけない、沖繩旅行編の始まりです!!」

ことり 「いやいやいや、この旅行はことりが懸賞で当てたちゃんとしたやつだよ?? そんな企画おかしいよー」

希 「今回のその旅行会社ですが、小原グループの子会社になります。後はわかるよな?」

ことり 「・・・そんな」orz

千歌 「小原家がバックにいるんだ・・・ガチじゃん。」

善子 「・・・帰りたくなってきた。」

ダイヤ 「笑ったらいけない旅行って・・・。」

希 「じゃあルール説明していくで!!」

希 「今から24時間は何かあっても笑ってはいけません。笑った場合はその場できつい罰を受けてもらいます。以上。」

千歌 「あ、一応24時間なんだね。この4泊5日中だったらどうしようと思ったよ。」

希 「2週間しかなかったので、そんな長時間分の準備してる暇ありません。」

ことり 「じゃあ、1日耐えれば、後は自由なんだね。」

ツバサ 「・・・まあそう思えばまだましかしら。」

希 「はい!というわけで、早速バスで移動します。皆さんこ

ちらにどうぞー!」

くバス停く

希 「じゃあこのバスに乗ったらスタートやでっ!」

ツバサ 「本家だとこの時点で服装を着替えたりしてるわよね?」

善子 「確かに・・・。」

希 「何せ2週間しかなかったからな、衣装とか用意できへんわ。」

ダイヤ 「そうですか・・・。」

千歌 「・・・覚悟を決めるしかないね。」

真姫 「・・・はあ、馬鹿馬鹿しい。」

希 「・・・そういえば何で真姫ちゃんおるんやろ。」

ことり 「まあまあ、一日だけだからね。じゃあ乗りま〜す!」  
く絶対に笑ってはいけない 沖縄旅行編スタート!!く

ことり 「はく、始まつちやったか・・・ん?」

他 「・・・。」

ことり 「え・・・何でみんなバスに乗らないの??」

他 「・・・。」

ことり 「・・・ねえ。」

他 「・・・。」

ことり 「・・・ふww もうww」

デデくん 南OUTく

黒い人 「・・・。」タッタッタ

ことり 「え、嘘っ!こんなのでありなの??」

バシ〜ンツ

ことり 「・・・痛い。」

千歌 「・・・うわあ、まじだね。」

絵里 「え、何あれ、お尻思い切り叩かれてたけど・・・。」

ツバサ 「絵里さん、笑ってはいけない知らないの?」

ダイヤ 「これこそアイドルからかけ離れていると思います  
が・・・。」

ことり 「もう、みんな酷いよ〜。」

千歌 「あはは、何となくww」

真姫 「突然だけど、希の物真似するわ。」

ことり 「え？」

真姫 「カードがウチにそう・・・告げるんやつ!!」ドヤツ

他 「・・・・・・・・。」

ことり 「・・・・・・・・。」

真姫 「・・・・・・・・。」ドヤアツ

ことり 「・・・・・・・・。」

真姫 「・・・・・・・・。」ドヤヤアツ

ことり 「・・・・・・・・ふww」

デデッソ 南OUT

ことり 「もうっ、真姫ちゃん!!・・・ああっ！」バシッソツ

千歌 「どうしたんですか急にww」

真姫 「何となく、ね。」ドヤツ

ツバサ (多分だけど、ことりさんに恨みがあるからじゃないかしら・・・急に呼ばれたから・・・)

善子 (これ身内からも攻撃来るの・・・?)

希 「・・・・・・・・。」

ダイヤ (・・・真姫さん、あんな一面もありましたのね)

ことり 「いきなり2発も・・・酷いよ、痛いし。」

千歌 「ふwまあ、流石に乗らないと進まないし、乗ろう。」

ダイヤ 「・・・・・・・・まあ、そうですね。」

ゾロゾロ ↑ 全員バスに乗り込み笑ってはいけない全員スタクト

ことり 「もう、みんなずるいよっ！」

千歌 「あはは、すみません。」↑ルールを忘れて普通に笑う千歌

他 「あっ」↑指摘するメンバー

千歌 「あ」

デデッソ 高海OUT

千歌 「そんな全員で指差さなくてもw・・・っ！」バシッソツ

千歌 「・・・・・・・・くう、これ結構痛いのだ。」

ダイヤ 「油断するところになりますのね・・・。」

善子 「まだ、始まったばかりなのに普通油断する？」

ツバサ 「・・・意地でも笑わないわよ。」

希 「・・・まだ何もしてないのにw」

つづく



## 第4話 恐怖のバスツアー開始

第3話の続きです。

「悪夢の絶対に笑ってはいけませんが始まって5分」

真姫 「とにかくこんな馬鹿げたことはみんな協力して乗り越えるしかないわね。」

ダイヤ 「その通りですわね、協力しましょう。」

ことり 「真っ先にことりを笑かしてきたくせに……。」

千歌 「まあ協力は大切でsっ！」↑何かに気付く千歌

千歌 「……。」

千歌 「……あの、ことりさん。」

ことり 「ん？ どうしたの千歌ちゃん？」

千歌 「……一番後ろに座ってる人見てください。」

ことり 「え？ 後ろ？……ふふふww」

絵里 「ん？ どうしたの？……っ！」

ダイヤ 「……くっww」

海未 「……。」↑一番後ろの席で腕組みして無言で

座っている海未

デデーン 南、黒澤、綾瀬OUT

ことり 「海未ちゃんww 一つの間ww」バシーンツ

絵里 「ちよつと、今の私アウトなの？ 痛いっ！」バシーンツ

ダイヤ 「もう！千歌さんっ！協力するって言った途端にっ！い

っっ！」バシーンツ

千歌 「……。」

ツバサ 「……全然気づかなかったわね。（……危なかったわ）」

善子 「ていうか、どこ見てるのかしら？ 腕組んでずっと虚空

を見つめてるけど……。」

真姫 「……あんまり見ると危険ね。」

ダイヤ 「確かにそうですわね、もう後ろは見ませんわあ。」

ププッ プシユッ ↑バス停止

ダイヤ 「……ここから来ますわね、バスネタが。」

ことり 「うん、気を付けていかないかね。」

子供1 「でさく、昨日の帰り道さくwwww」

子供2 「まじかよww」

く騒がしい子供二人組が乗車く

子供1 「はははwwww お前それはあほすぎるだろwwww」

子供2 「うるせえwwww いいじゃねえかwwww」

他 「……………」

子供2 「ははwwでもさあ「ちよつとそこの二人っ!!」

他 「!?!」

理亜 「バスの中では静かにしなさいっ!!」

他 「wwwwwwwwww」

デデッソ 全員OUTく

真姫 「海未以外にもバスにいたなんてwwww」バシーンツ

千歌 「確かにwwww 完全に油断してたww」バシーンツ

ことり 「もうwwww 早くもお尻が痛くなってきたよおく、痛

いつ!」バシーンツ

善子 「ふwwww 沖縄までわざわざ来たんだww」バシーンツ

ツバサ 「海未さんは耐えれたのにww」バシーンツ

理亜 「そこの二人っ!バスの中では静かにするなんて常識よっ

!

ダイヤ 「……………注意してる理亜さんが一番うるさいですけどね」ボ

ソツ

ことり 「……………ふつ、もう!そういう指摘はいらないよお。」

理亜 「聞いているの二人とも!」

子供 「……………」

理亜 「ちよつと、ちゃんと話をきk「でさくwwww」

理亜 「え?」

不良1 「お前、それはだめだろwwww」

不良2 「いいじゃんwwww 気にしたら負けだろwwww」

く不良の高校生二人組が乗車く

不良1 「ははwまあなって、おい! たかしじゃねえか!」

不良2 「ん？ ああ、お前の弟か。どうしたんだ？」

子供1 「・・・なんか、この女の子が僕たちに絡んできたの。」

子供2 「うん、僕たち何もしてないのに！」

理亜 「え、ちよ・・・、台本にこんな展開なかった・・・」オロ  
オロ

ことり 「ふっ w w」

ダイヤ 「・・・ふふ w w」

不良1 「おいっ！！ 女あ！！ それは本当かあ！！」

理亜 「ひっ、いや、私も好きでしたんじや・・・」

不良2 「ああああっ？？？」

理亜 「いや、その・・・私も何が何だか・・・。」ボソボソ

不良1 「なくに、ボソボソ言ってるんだあっ！！聞こえねえぞお！！」

不良2 「そうだからっ！！ もっと腹から声だせやあっ！！」

理亜 「耳元で叫ばないでええええええ！！！！」

他 「w w w w w w w w」

ダイヤ 「く w w w 　ふふ w w w w 　理亜さん w w w」

千歌 「こんなの反則だよ w w w」

ことり 「吹っ切れた w w w w」

善子 「w w w w」

ツバサ 「可哀想 w w w」

不良1 「お前喧嘩売ってるのか？？ 俺の弟に絡んでおいて何言っ  
てんだよ？？」

理亜 「違うわよっ！！ バスの中でずっと大声でしゃべってたか  
ら注意しただけよー！」

不良2 「おいおい本当かよ？」

不良1 「ん？ ちようど真向いの席に人が座ってるんじやねえか。」

くことり達7人に意識が向けられるく

他 「・・・。。。」

不良1 「おいっ、そのオレンジっぽい女あ！」

千歌 「え・・・私？」

ことり 「ふ w w 　オレンジっぽい女 w w」

善子 「・・・w w」

不良1 「そうだ、おい本当にこいつは俺の弟に注意してただけなのか？」

千歌 「いいえ、完全にその女が子供たちに絡んでました！」

キツパリ

他 「w w w w w w w w」

理亜 「」

真姫 「迷う余地なしw w w」

絵里 「その女w w w」

ツバサ 「最早清々しいわねw w w」

ダイヤ 「理亜さんに何か恨みでもあるのですかw w w」

不良1 「・・・だそうだ、これで完全にお前が悪いこと決定だなあ??」

理亜 「・・・もう絶対アクアとは関わらないわ。」

絵里 「それはそうなるわよw w w」

ことり 「w w w w w」

不良2 「何訳の分からないこと言ってるんだあ！」

不良1 「大体何で、北海道からはるばる沖縄まで来てんだこらっ

!!暇人かてめえは！」

理亜 「それは関係ないでしょっ!!」

他 「w w w w w」

ことり 「もw w wもうだめw w wスタートでこんなに笑ってたら

ことり死んじやうw w」

千歌 「面白すぎるw w w w w」

不良1 「もういい！ てめえこっち来い！けじめつけてやらあっ

!!」

理亜 「ちよ、胸倉つかむのやめ、ちよ、ほんと、分かったから！

行くから、本当に離してっ!!ああああ!!」

他 「w w w w w w w w」

デデッン 全員OUT」

ことり 「こんなの笑うに決まってるよw w w」バシーンッ

千歌 「全部終わってからOUTになるパターンで助かったw  
w」バシーンッ

善子 「理亜、どうなるのかしらww」バシーンッ

ツバサ 「仕掛ける側も相当地獄ねww」バシーンッ

真姫 「最初からこんなんじや最後まで持たないわよww」バ  
シーンッ

絵里 「理亜さんwwいいキャラしてるわねww」バシーンッ

ダイヤ 「理亜さんww本当に同情しますわww」バシーンッ

プシユッ ププッ ↑バス発車

千歌 「結局、あの人たち全員降りていったし何のための停車  
だったんだろう・・・。」

ツバサ 「まあ、こういうもんよね、バスネタは・・・。」

善子 「これでまだ、最初の仕掛けなのよね・・・。」

ことり 「・・・それにしてもことり叩かれすぎじゃない?」

真姫 「ことりは笑い上戸すぎるのよ。」

ことり 「・・・これはことりも本気で行くしかないね!」

希 (・・・ふw まだまだ仕掛けは続くでw 覚悟しときやw)  
つづく

## 第5話 恐怖のバスツアー PART 2

第4話の続きです。

開始から20分経過後

ことり 「うくん、お尻が痛いよお〜」

真姫 「流石に早すぎるわよ、まだ30分も経ってないわよ?」

絵里 「でも確かにこの笑ってはいけないはことりと相性が悪そうね・・・。」

ダイヤ 「ことりさん流石に笑いすぎですわあ。」

真姫 「そうね、例えばこうやってこちよこちよしたら大笑いするものね?」こちよこちよこちよ・・・

ことり 「あははははwwwwww ちよつとやめてよwww 真姫ちゃん!!!」

千歌 「・・・くふつwww」

デデリン 南、高海OUT〜

ことり 「もうwww くすぐられたら誰でも笑うよwww」バシーンッ

千歌 「くう、巻き込まれた・・・w。」バシーンッ

真姫 「・・・。」

善子 「何気に千歌も結構笑ってるわよね?」

千歌 「・・・うん、千歌こういう空気に弱いのかも。」

ププ〜ッ プシユ〜 ↑バス停止

ダイヤ 「来ましたわね・・・。」

絵里 「ええ・・・。」

おばあさん 「・・・。」トボトボ

く足腰の弱そうなおばあさんが乗車〜

千歌 「あ、おばあさん大丈夫ですか?? 席までついていきますよ??」

おばあさん 「・・・。」トボトボ ↑無視

善子 「・・・ふwww」

ことり 「ふふふwww」

絵里 「……ぐっ。」↑何とか耐えた

千歌 「……。」

デデくん 津島、南OUT

ことり 「もうだめ、何が来ても笑っちゃうwww」バシーンツ

善子 「千歌も余計なこと言わなくていいのよw」バシーンツ

千歌 「……今の千歌が悪いの？」

おばあさん 「……。」トボトボ ↑なぜか7人の前まで歩いてくるおばあさん

他 「……。」

おばあさん 「……。」

ピタツ ↑絵里の前で立ち止まるおば

あさん

絵里 「……。」

おばあさん 「……。」

絵里 「……あの、席いっぱい空いていますよ？」

おばあさん 「……。」↑ 無視

絵里 「……。」

ことり 「……くっ、ふう、ふう。」↑ 必死に笑いを堪えてる

ダイヤ 「ちよつと、ことりさん、そのふうふう言うのやめてください。

い。」

絵里 「……えくと、立ってるの辛そうだし座ったらどうでしょうか？」

うか？」

おばあさん 「……。」

ことり 「はあ、はあ、はあ、ふうふう。」↑ 笑いを堪えすぎて

息継ぎが変になってきた

ダイヤ 「……くっ!（ことりさん本当に勘弁して下さいww）」

絵里 「あの、おばあさん?目の前でそんな辛そうに立たれる

とこつちも気まずいので……。」

おばあさん 「……。」

絵里 「……。」

絵里 「……どうしたらいいですか??」

ことり 「はっwww 絵里ちゃんwww なんでそんなに食い下

がるのお W W W」

真姫 「そうよ W W W いいじゃない、放っておいたら W W W」

千歌 「だめだ W W W 笑っちゃう W W W」

ダイヤ 「もう！ことりさんが変な感じに笑いを耐えるから W W W」

デデッソ 南、西木野、高海、黒澤 O U T

ことり 「もう W W W 早く自由になりたい W W W」バシーンッ

真姫 「本当に W W W」バシーンッ

千歌 「そういえば、こういうおばあさんとか、どうやって集めたんだらう W」バシーンッ

ダイヤ 「ことりさん！次から変に我慢しないでくださいよー」バシーンッ

ことり 「え、そんな変な感じになってた??」

ツバサ 「すごかったわよ？ふう、ふう、ふう、ふうっ W W W っ W

W 感じで W W」↑途中で面白くなり笑ってしまうツバサ

ことり 「ツバサさん W W 途中で笑わないで下さいよ W W W」

千歌 「W W W W W」

真姫 「……」ギョッ ↑足をつねり笑いを堪えている

デデッソ 綺羅、南、高海 O U T

ことり 「ことり、1分に一回ぐらい叩かれてる気がする W W」バシーンッ

千歌 「千歌も同じくらい叩かれてる気がする W W」バシーンッ

ツバサ 「く、変に物真似なんてしなかったら良かったわ W」バシーンッ

希 (なんでみんなこんな身内で潰しあってんねん W W)

海未 「その金髪っ!!」

他 「!?!」ビクッ

海未 「何を考えているのですか!!」

ことり 「来た、海未ちゃん W」

善子 「まあ、ただ座ってるだけなんてないと思ったけど。」

絵里 「え、金髪って私よね?」



真姫 「他に誰がいるのよw」

海未 「何を考えているのですか!!」ズカズカ ↑絵里に詰め寄る海未

絵里 「え、え? 何のこと??」

海未 「とぼけるんじやありません!!立ってるのが辛そうなおばあさんが目の前にいたら、席を譲るのが人情っていうものでしょう!!」

絵里 「いやいやいやいやいや、いっぱい席空いてるじやない!!」

海未 「さあ、大丈夫ですか、おばあさん? こっちの席までどうぞ。」

おばあちゃん 「すまないねえ。」

絵里 「ちよつと、何がすまないのよお!!私何度も言ったじやない!!何度もおおお!! ていうか喋れたのお???」

他 「wwwwwwww」

ことり 「もうww 絵里ちゃん叫ぶのやめてww」

真姫 「そうよww 荒ぶらないでよww」

千歌 「こんなのどうやって我慢できないww」

善子 「wwwwww」

※既に笑いましたが最後までお楽しみください

海未 「・・・さて、それじゃあ今から金髪に根性注入ピンタをします。」

絵里 「ちよつと待って!! おかしいわっ!! 全部!!」

千歌 「ふww 海未さんは蝶○さんポジションなんだねww  
w」

ツバサ 「絵里さんww 頑張ってww」

海未 「問答無用!! 行きますよっ!!」

絵里 「させないわあっ!!」↑必死に頬つぺたを守る絵里

海未 「・・・ふんっ」ドゴツ ↑腹パンした音

絵里 「ぶっっ!!! くっ、ふ、く、ふう〜。」↑崩れ落ちる絵里

他 「wwwwwwww」

千歌 「あはははは w w w w こんなの反則だよ w w w」

ことり 「ひっ w w w 死ん w w w 死んじやう w w w」

ダイヤ 「無防備なお腹にパンチが突き刺さりましたわね w w w w  
w」

真姫 「ビンタから腹パンに躊躇なく変更したわね w w w」

ツバサ 「絵里さん w w w 大丈夫かしら w w w 変な声出てたけ

ど w w w」

善子 「恐ろしい w w w w w」

絵里 「」

デデッン 綾瀬以外 O U T」

ことり 「ふふふ w w w まあ O U T でいいけど w w」バシーンッ

ダイヤ 「まあ、一回で済んでむしろ良かったですわね。」バシーンッ

ツバサ 「絵里さんが可哀想すぎるわね w w」バシーンッ

海未 「それでは私は行きます！ おばあさん、行きますよ？」

おばあさん 「はいよ。」

く海未&おばあさんバスから降車」

千歌 「相変わらず何でバスに乗るのかわからないね・・・。」

善子 「このバスネタいつまで続くのよ・・・。」

ことり 「本当に・・・早くバスから降りたいよお」

希 「まだバスネタは終わらんねんなく w w」

絵里 「」

つづく

## 第6話 恐怖のバスツアー PART 3

第5話の続きです。

開始から30分経過

絵里 「ひどい目にあったわ・・・。」

ツバサ 「思い切り腹パンされてたものね。」

絵里 「本当に、お腹に穴が空いたかと思っただわ。」

ことり 「・・・それにしてもいつまでバスツアー続くんだろうね?」

ダイヤ 「いい加減早く降りたいですわねえ。」

絵里 「・・・さっき腹パンくらった時、お腹に穴が空いたかと思っ

たわ。」

他 「・・・・・・・・・・。」

絵里 「・・・・・・・・。」

善子 「・・・他に誰が仕掛け人でいるのかしらね?」

真姫 「そういえばそうね。さすがにこれだけでは、ないでしょ

うね。」

絵里 「ねえねえ千歌ちゃん。私のお腹に穴空いてない??」

千歌 「・・・・・・・・ぐぶつw」

絵里 「w w w w w」

デデーン 綾瀬、高海OUT」

千歌 「もうw w しつこいですよお!! w w」バシーンツ

絵里 「ぐぶつてw w wこっちまで巻き込まれたw w」バシー

ンツ

真姫 「・・・馬鹿ね」

ことり 「・・・希ちゃん、いつ到着するの?」

希 「・・・・・・・・。」

善子 「・・・完全に無視ね。」

ことり 「・・・・・・・・ふつ。」

ププッツ プシユッ ↑バス停車

他 「・・・・・・・・。」

曜 「いや、今日は晴れてよかったね! ルビィちゃん!」

ルビイ 「うん♪ そうだね！」

♪ 曜とルビイ乗車♪

善子 （・・・やっぱりアクアもいたか）

ことり （今度はアクアの人たちだね・・・）

千歌 「・・・。」

曜 「最高のピクニック日和だね！」

ルビイ 「うん♪」

善子 「・・・このクソ暑い中ピクニックって。どうかしてるんじゃない？」

ことり 「うふっ・・・、善子ちゃんそういうツツコミはやめて。」

善子 「ヨハネよ。」

曜 「今日は、ルビイちゃんがお弁当を作ってきてくれるって言ったから、朝も抜いてきたんだく、もうお腹ぺこぺこだよ。」

ルビイ 「えっ、そうだったの？ ・・・じゃあここで少し食べる?！」

曜 「いいのっ!？」

ルビイ 「うん♪ じゃあちよつと待ってね。」ゴソゴソ

他 「・・・。」

曜 「何を作ってきたか楽しみだなく」

ルビイ 「ふふふ、今日のはちよつと自信作なんだ。はい、このお弁当だよ！」

曜 「おおっ、なかなか大きいね！ ・・・それで肝心の中身は何でありますか?！」

ルビイ 「えへへ、それはね、これだよっ!!」パカッ

♪ 弁当の中身は熱々のおでん♪

曜 「・・・え、それって・・・おでんじゃ。」↑おでんとは知らされてなかった

ことり 「ｗｗｗｗｗｗ」

千歌 「ｗｗｗｗｗｗ」

ダイヤ 「・・・ふw。」

他 「・・・。」

デデッソ 南、高海、黒澤OUT

ことり 「すごい湯気だねwww」バシーンッ

千歌 「曜ちゃん、素の反応しないでよwww」バシーンッ

ダイヤ 「ちよつと、今の私アウトですよ?? 痛いっ。」バシーンッ

真姫 「・・・普通に笑ってたわよ?」

ダイヤ 「ほ・ん・と・う・で・す・の・??」ズイツ

真姫 「wwwwww」

ツバサ 「wwwwww」

デデッソ 西木野、綺羅OUT

真姫 「もうw 急に詰めてこないでよww」バシーンッ

ツバサ 「せつかくおでんには耐えたのにww」バシーンッ

ダイヤ (wwwwww)

曜 「あの・・・ルビイちゃん?? 何でおでん??」

ルビイ 「うゆ?? おでんおいしいよ??」

曜 「いや、そうかもしれないけど・・・。」

ルビイ 「じゃあ、ルビイがあくんしてあげるね。」

曜 「え、いや自分で食べるよ?」

ルビイ 「はい、あくん」↑熱々の卵を曜にあくんするルビイ

曜 「いや、え、それ絶対熱いよね?」

ルビイ 「え・・・ルビイが作ったおでん、食べてくれないの??」ウルウル

ルウル

曜 「だって、火傷するし・・・。」

ルビイ 「・・・。。。」

デデッソ 渡辺 OUT

曜 「・・・は?」

他 「wwwwww」

デデッソ 全員 OUT

曜 「ちよつと、意味がわからないよ! 痛いっ!」バシーンッ

千歌 「きつと、曜ちゃんが中々卵を食べないからだよwww」バ

シーンッ

ダイヤ 「まさか仕掛け側にもwww」バシーンッ

ツバサ 「何が何でも卵を食べさせる気ねww」バシーンッ

ルビイ 「はい、曜ちゃん。あくん・・・w」

曜 「ちよ、ちよつと、こんなのおかしいよ！ルビイちゃん笑つてるし！」

千歌 「・・・くw、お願いだから早く食べて、曜ちゃん。」

ことり 「・・・。。。」プルプル↑必死に笑いを堪えてる

善子 「曜？ 食べない限りたぶん終わらないわよ？」

曜 「・・・そんなこと言われても。」

デデッソ 渡辺 O U T

曜 「」

千歌 「くふふふw w w」

ツバサ 「w w w」

デデッソ 高海、綺羅 O U T

曜 「こんなことって・・・」バシーンッ

千歌 「曜ちゃんw w w 気持ちはわかるけどお願いだから食べ

てw w」バシーンッ

ツバサ 「恐ろしいw w w」バシーンッ

ルビイ 「曜ちゃん♪ はい、あくん♪」

曜 「・・・あくん。」↑諦めた

くルビイの持つ箸に挟まれた卵が曜の口内に入ったその瞬間く

曜 「つつつつつ!!」ポント!!↑勢いよく射出される卵

全員 「w w w w w w」

デデッソ 全員 O U T

ことり 「あははははw w w こうなるって分かってたけどw w

w」バシーンッ

千歌 「こつちに飛んできたw w w 汚いよw w」バシーンッ

善子 「ピッコロ大魔王みたいw w w w w w」バシーンッ

ツバサ 「可哀想にw w w」バシーンッ

ルビイ 「w w w w w w」

曜 「ごほごほつ、ひゃ、ひゃけろひた・・・。」

ルビイ 「え？ なんて??」

絵里 「くw w w w w w」

真姫 「だめwww」

ことり 「wwwwww」

曜 「……………」

デデッソ 綾瀬、西木野、南 O U T

ことり 「もうwww 早く終わってよwww」バシーンッ

真姫 「聞き返し方www 仮にも上級生なのにwww」バシーンッ

絵里 「本当にwww」バシーンッ

ルビィ 「じゃあ、早くピクニックにいこっか♪」

曜 「……………」

「ルビィと曜降車」

ツバサ 「…………完全に曜さんの心が折れてたわね。」

千歌 「少なくともピクニックに行くテンションじゃなかったです。すね。」

ことり 「笑かすほうも捨て身で来るから恐ろしいね。」

真姫 「どちらかという捨て身で無理やり行かしてるって感じだけ……………」

善子 「というより、そこに転がってる卵は放っておいていいのかしら？」

絵里 「…………流石に後で回収してくれるでしょ。」

希 「よしっ、みんなもうすぐ目的地につくでっ」

ツバサ 「やっつと、目的地なのね……………」

ことり 「助かったあ」

善子 「でも、まだ1時間も経ってないのよね……………」

希 「ふふふ、その通りや、まだまだ仕掛けは続くでっ」  
つづく

## 第7話 レズ&カリスマフロント嬢登場

〜開始から40分〜

希 「よし、みんな到着やで！ 降りよか〜。」

ツバサ 「はあ、やつとバスネタが終わったわ……。」

ことり 「もう既にことりは限界……。」

千歌 「……私も〜」

希 「ほら、ぐちぐち言ってるんで、降りた降りた。」

善子 「……ここってホテルよね？」

真姫 「本当ね、というか今更だけど今日の予定何も分からない

わね。」

希 「ここはなく、結構有名なホテルやねんで〜。」

絵里 「確かに見た目は綺麗で高級そうね。」

ことり 「……ここも色々仕掛けがあるんだよね。」

ツバサ 「……ええ、間違いなく。」

希 「おっ、あつち見てみ。ちようどうちら以外の旅行者の集

団も来たようやなく、うちと一緒に綺麗なガイドさんが引き連れてるわ〜。」

梨子 「はい、皆さんこちらが本日宿泊するホテルになりますよ〜。」

〜梨子、集団旅行者のガイドとして登場〜

千歌 「つ……。 (危ない、でも何回も同じ手はくらわないよ。)」

ことり 「つw、コホッ、コホッ……。 ↑咳で笑いを誤魔化してる

ダイヤ 「……アクアの人たちは全員来ているんですかね。」

善子 「あり得る話ね。」

ツバサ 「それにしても旅行者の人いっぱいいるわね。」

絵里 「確かに……。ん？ ちよw w w w w」 ↑何かに気付いてしまった絵里

デデ〜ン 綾瀬〜OUT〜

絵里 「ちよつとw w w、何でw w w」 バシーンツ



ことり 「絵里ちゃん急にどうしたの??」

ダイヤ 「・・・梨子さんで笑ったわけでは無いですわよね?」

絵里 「いやw、あのw、集団の中にw」

ことり 「集団の中? 何か変なことでも・・・ふwww」

真姫 「もうwww」

ツバサ 「www」

デデゥン 南、綺羅、西木野、OUT

ツバサ 「これは笑ってしまうわねwww」バシーンッ

真姫 「梨子を耐えたからって油断してたわwww」バシーンッ

ことり 「亜里沙ちゃんまで仕掛け人なんだねwww」バシーンッ

亜里沙 「・・・」

↳ 集団旅行客の一人として亜里沙登場

他 「??」 ↑ 亜里沙を知らないアクア

ことり 「・・・亜里沙ちゃんには気付かなかったね。」

絵里 「ええ、金髪の子がいるな〜と思ったら妹だったわ。」

千歌 「へ〜、あの子が絵里さんの妹さんなんですわね。」

ダイヤ 「流石、えり〜ちかの妹さん! とつても可愛いですわ〜」

真姫 「絵里は亜里沙と一緒に過ごしてるんでしょ? 今日沖繩

に来るような素振りはなかったの?」

絵里 「いえ、そんなそぶりはなかったと思うけれど・・・」

ことり 「徹底してるんだね・・・」

梨子 「みなさ〜んこちらですよ。」

亜里沙 「・・・」フラフラ

↳ 体調が悪そうにフラフラしている亜里沙

絵里 「どうしたのかしら、様子がおかしいわね?」オロオロ

真姫 「そういう演出でしょ。」

亜里沙 「つ・・・」バターーンッ ↑ 倒れてしまう亜里沙

モブ 「大変だ! 女の子が倒れたぞ!」

梨子 「なんですって!! すぐに人工呼吸よ!!」ダッ

亜里沙 「え」

他 「www」

デデッソ 全員 O U T っ

真姫 「人工呼吸までの判断が早すぎるわよ W W W W」バシーンッ

善子 「どんなガイドよ W W W」

ダイヤ 「亜里沙さん普通に驚いてますわ W W W」バシーンッ

千歌 「梨子ちゃん、ブレなさすぎだよ W W W」バシーンッ

絵里 「・・・亜里沙 W W」バシーンッ

梨子 「さあ！ もう安心よ！ すぐに楽にしてあげるわ！」ハ

アハア

亜里沙 「あの、もう治りました。」

梨子 「行くわよっ!!」ムツチュッ

亜里沙 「わ、わあっ!?! お、お姉ちゃ〜ん!!」

希 「よし、じゃあ、こちらは先中に行くで。」

千歌 「え、あれ放っておいていいんですか?」

希 「ほらっ、早く。時間は限られてるねんで?」

ことり 「ふ W 亜里沙ちゃん頑張つてね。」

絵里 「亜里沙、ごめんなさい。」

くみんなから見捨てられる亜里沙く

亜里沙 「え、そ、そんな、あ、ちよ、顔を近づけないでください!!」

梨子 「ふふふ、私からは逃げられないわよ?」ハアハア

くホテルロビーく

ツバサ 「ひどい、現場だったわね。」

真姫 「さっきのはすぐに忘れたほうがいいわよ。」

千歌 「わく、中もすごく綺麗ですわ〜!」

善子 「本当ね、純粹に旅行に來ただけならすごく嬉しいんだん

けどね。」

希 「・・・ええなあ、こんなとこ泊まれて」ボソッ

ことり 「え、希ちゃん?」

希 「よし、あそこにフロントがあるから手続きだけしよか!

ここのフロント嬢はカリスマ性があるっていうので有名やねんで  
く」

絵里 「ええ、行きましょう！」

ことり 「??」

千歌 「それにしても、中は他に誰もいないね・・・。」

善子 「さっき、有名ホテルって言ったのにな。全然人気ないじゃない。」

ダイヤ 「その二人、そういうことを言っただけですわ。

早くフロントにいきますわよー！」

二人 「・・・はい。」

くホテル フロントく

??? 「ようこそ、いらっしやいませ！」

ことり 「wwwwww」

絵里 「wwwwww」

真姫 「・・・っ。」

他 「??」

雪穂 「遠路はるばるようこそいらっしやいました！」

く雪穂がホテルのフロント嬢として登場く

デデくん 南、綾瀬 O U T く

ことり 「雪穂ちゃん出ないのかなくとは思ってたけどねww」バ  
シーンッ

絵里 「まさか、このタイミングとはねww」

善子 「・・・誰？」

千歌 「・・・さあ？」

真姫 「穂乃果の妹よ、雪穂って言うの。」

ツバサ 「・・・なるほど、そう言われると似てるわね。」

ダイヤ 「色々な人が出てきますわね・・・。」

雪穂 「おやく、おやおや、綺麗な方達ですね。」

他 「「・・・。」」

雪穂 「そのあなた、お名前は？」

ツバサ 「・・・え、私ですか。綺羅ツバサと言います。」

雪穂 「そくうく、とっても可愛いおでこね！」

ことり 「・・・ふっw」

ツバサ 「・・・ありがとうございます。」

雪穂 「デコピンしてもいい??」

ツバサ 「だめですけど?」

ことり 「ふふ、もうwww」

真姫 「www」

千歌 「くww」

デデッソ 南、西木野、高海、OUT

ことり 「雪穂ちゃん、そんなキャラじゃないのにww」バシーンッ

真姫 「この台本考えたの誰よww」バシーンッ

千歌 「ツバサさんも冷静に受け答えしないでくださいよww」

バシーンッ

ツバサ 「・・・。」

雪穂 「じゃあ、そのあなた! お名前は??」

ことり 「・・・こほんっ、南ことりといいます。」

雪穂 「え? ことり? じゃあ親の名前はとりなの? だから

娘のあなたはことりってこと?」

ことり 「ふふww ちww 違いますww。」

デデッソ 南、OUT

ことり 「もうww とりっていう名前なわけないじゃんww」バ

シーンッ

善子 「この場面で相当いかれそうね・・・。」

千歌 「うん、自分の番になったらららと考えると恐ろしいね・・・。」

雪穂 「じゃあ、次のあなたは??」

ダイヤ 「はい、私は黒澤ダイヤと申します。」

雪穂 「ええ!? えええ!!?? ダ・イ・ヤああ!!??」

ダイヤ 「wwwww」

ことり 「wwwww」

千歌 「・・・ぶっww」

善子 「・・・くっww」

デデッソ 黒澤、南、高海、津島、OUT

ダイヤ 「何なんですのww」バシーンッ

ことり 「もう内容云々抜きにしてこの感じの雪穂ちゃんがつボになつちやつたww」バシーンッ

千歌 「バスを降りても地獄は続くんだねww」バシーンッ

善子 「我慢できなかつたww」バシーンッ

雪穂 「ダイヤつて・・・、その名の通りキラキラネームじゃない・・・。」

ダイヤ 「ふっ・・・まあ、私はこの名前は気に入っているの。」

雪穂 「そう・・・就職活動の時、その名前で苦労しそうだけど頑張ってるね？」

ダイヤ 「・・・はい。」

ことり (wwwwww)

ツバサ (穂乃果さんの妹さんも普段もこんな感じなのかしら・・・?)

雪穂 「じゃあ、次は・・・。」

つづく

## 第8話 カリスマフロント嬢PART2

第7話の続きです。

雪穂 「次のあなた、お名前は？」

千歌 「はい！ 高海千歌と申します。」

雪穂 「好きな食べ物は？」

千歌 「え？ 好きな食べ物？・・・みかんですかね。」

雪穂 「みかん？ バナナじゃなくてみかん??」

千歌 「・・・はい、バナナじゃなくてみかんです。」

ことり 「ふ・・・w」

雪穂 「でもバナナもおいしいわよ？」

千歌 「・・・まあ、そうですね。でも私はみかんの方が好きです。」

雪穂 「そう、でもね？ バナナってね？ とっても体にいいの

よ?。」

千歌 「ふっw・・・、まあ、はい。そうらしいですね。」

ことり 「・・・くくくw」

絵里 「・・・ww」

デデゥン 南、綾瀬、OUT

絵里 「何でそんなにバナナ推しなのww」バシーンツ

ことり 「ちよつとww 千歌ちゃんも笑ってたよww」バシー

ンツ

雪穂 「千歌さん、バナナは好き？」

千歌 「・・・ふ、まあ・・・はい好きですよ。」

雪穂 「みかんより？」

千歌 「みかんよりは下です。」

雪穂 「・・・そう。」

ことり 「ふふwwww もうだめwwww」

真姫 「ふふwwww」

絵里 「wwww」

ダイヤ 「wwww」

デデゥン 南、西木野、綾瀬、黒澤、OUT

真姫 「何なのよこのやりとりww」バシーンッ

ダイヤ 「面倒くさいからバナナ好きってことにしてくださいよw  
w」バシーンッ

絵里 「何が面白いかわからないけど面白いww」バシーンッ

ことり 「wwwww」バシーンッ

雪穂 「じゃあ次のあなた、名前は？」

真姫 「・・・西木野真姫です。」

雪穂 「あなた・・・とても可愛いわね。」ウツトリ

真姫 「つ・・・ありがとうございます。」

ことり 「・・・くくw」プルプル

千歌 「・・・ふる。」

雪穂 「とても可愛いからあなただけあだ名を付けたくなっちゃ  
たわ？」

雪穂 「・・・いいかしら？」ウツトリ

真姫 「・・・ふw、いい、ですけど、その・・・、ウツトリする  
のやめてもらってもいいですか？w」

雪穂 「・・・ええ??」ウツトリ

真姫 「ふふwwwwww」

千歌 「あははwwww もうだめwwww」

絵里 「wwwwww」

ことり 「wwwwww」

デデッソ 西木野、高海、綾瀬、南、OUT

真姫 「早くww 終わってくれないかしらww」バシーンッ

ことり 「お願いだからww 普段の雪穂ちゃんに戻ってww」バ  
シーンッ

雪穂 「西木野真姫・・・、ああ、名前も素敵ね・・・。ちなみに

趣味はあるのかしら？」

真姫 「・・・天体観測と写真が趣味です。」

雪穂 「なるほど、素敵な趣味ね。」

真姫 「・・・有難うございます。」

雪穂 「ふむ、真姫に、天体観測、写真、ね・・・決まったわ、あ

「あなたのあだ名が。」

真姫 「……。」

雪穂 「あなたのあだ名は……メストマトよ！」

他 「w w w w w w」

デデゥン 全員OUT

真姫 「イミワカンナイw w w w w w」バシーンッ

ことり 「あはははw w w 何それえw w w w w w」バシーンッ

善子 「メスw w w トマトw w w」バシーンッ

絵里 「メスつて何よw w w w w w」バシーンッ

千歌 「趣味とか全然関係ないw w w w w w」バシーンッ

雪穂 「これからもよろしくね！ メストマトちゃん！」

真姫 「ふっw……はい。」

千歌 「ぷくく……。」

雪穂 「じゃあ次のあなた、名前は？」

絵里 「はい、綾瀬絵里です。」

雪穂 「あなた金髪だけど……不良??」

絵里 「いえ……違います。」

ことり 「ぷっw……。」

雪穂 「そう、失礼したわね。じゃあスーパーサイヤ人という事

かしら？」

絵里 「……あのw ふw、祖母がロシア人でクォーターなんで

す。w」

ことり 「くくくw w」

真姫 「w w w」

デデゥン 綾瀬、南、西木野、OUT

絵里 「そんなわけないじゃないw w w」バシーンッ

真姫 「選択肢狭すぎw w w」バシーンッ

ことり 「あと二人あと二人w w w」バシーンッ

雪穂 「そうだったのね、ところであなた彼氏はいるのかしら？」

絵里 「ふっw……いえ、いません。」

雪穂 「あら、じゃあ彼女は？」



絵里 「くくww いませんw。」

千歌 「ふw」

真姫 「何が、じゃあ、なのよw」

雪穂 「そう・・・、恋愛をしてこそ女は磨かれるのよ？ これから先いっぱい恋をしなさいね？」

絵里 「ふww くww は、はいww」

千歌 「急にwww」

ことり 「wwwww」

デデッソ 綾瀬、高海、南、OUTッ

絵里 「こんなのwww 耐えられないわよww」バシーンッ

ことり 「雪穂ちゃんも恋愛経験ゼロって言ってたじゃんwww」  
バシーンッ

雪穂 「はい、それじゃあ自己紹介してもらったので手続き進めさせていただきますね。」

善子が無視ッ

善子 「・・・。」

ことり 「ふw・・・くくwww」

絵里 「ふふwww」

ダイヤ 「ぶwww」

千歌 「wwww」

ツバサ 「・・・ふw」

真姫 「ふふwww」

デデッソ 津島以外 OUTッ

千歌 「まあ、本家ネタ的にも無視なのかなーとは思ったけどww」バシーンッ

ダイヤ 「分かっているでもだめですわねwww」バシーンッ

善子 「あの・・・。」

雪穂 「はい？」

善子 「私の自己紹介がまだですけど。」

雪穂 「え？ あなた最初からいましたか？」

善子 「いました、最初から。」

ダイヤ 「ふ、くくwww」  
千歌 「もうwww」  
デデッソ 黒澤、高海OUTッ  
ダイヤ 「善子さんの扱いがwww」バシーンッ  
千歌 「シンプルに面白いwww」バシーンッ  
雪穂 「そう、でも手続き終わったからもういいわよ？」  
善子 「・・・そうですか。」  
千歌 「wwwwww」  
ダイヤ 「善子さんwww」  
ことり 「wwwwww」  
ツバサ 「wwwwww」  
デデッソ 高海、黒澤、南、綺羅、OUTッ  
千歌 「可哀想www」バシーンッ  
ツバサ 「頑張ってwww」バシーンッ  
善子 「・・・。」  
希 「よしっ、じゃあ早速うちの部屋に向かおうか！」  
千歌 「善子ちゃん、元気だしなよw」  
善子 「別に気にしてないわよ。」  
ことり 「ほら、メストマトちゃん行くよ？」  
絵里 「っw・・・ことり、それやめて本当に。」  
真姫 「・・・。」  
従業員 「大変です、カリスマ嬢!!」  
雪穂 「え?・・・なんですって!!」  
希 「ど、どうしたんですか??」  
ことり 「ふw、カリスマ嬢w。」  
千歌 「・・・ww。」  
従業員 「実はー」  
つづく

## 第9話 部屋にて・・・PART1

第8話の続きです。

雪穂 「申し訳ありませんお客様。大変申し訳ないのですが・・・。」

希 「何があつたんですか？」

雪穂 「お客様用に用意していたお部屋でトラブルがありました。お部屋にご案内できなくなったようで・・・。」

希 「そ、そんな・・・。もう部屋はないのですか？」

雪穂 「あいにくこのシーズンは予約が一杯です・・・。」

善子 「いや、他に全然お客さんいないじゃない。」

ことり 「・・・どうでもいいけど、雪穂ちゃん演技上手だねw」

希 「どんな部屋でもいいので、用意はできないのでしょうか？」

雪穂 「新人従業員の研修用の部屋なら何とか・・・。」

希 「あ、それでいいです。その部屋をお願いします。」

真姫 「何で勝手にそんなことを決めるのよ。」

千歌 「千歌たちに人権はないんだね。」

雪穂 「わかりました。では、その部屋に案内させて頂きます。」

希 「お願いします。」

他 「・・・。」

→部屋に到着→ →開始から1時間→

希 「じゃあ、みんなちよつとこの部屋で待機しといてな。」

ツバサ 「・・・完全に例の待機部屋といっしょだね。」

善子 「・・・ええ、デスクが人数分用意されてるわね。」

ダイヤ 「よく二週間でこれだけ用意できましたわね・・・。」

千歌 「これってあれですよ。例の引き出しネタがあるやつで

すよね。」

ことり 「うん・・・、シンプルに嫌だね。」

絵里 「よくわからないけど、とりあえず休憩しない？」

他 「・・・賛成。」

く一同、ようやく笑いの緊張から解放され一休みく

ことり 「まさか、こんなことになるなんてね……。」

ダイヤ 「でも、一日我慢すれば後は沖縄旅行を満喫できるわけ  
すし……。」

千歌 「そうですね……、1日我慢すれば。」

真姫 「まあまあ、そんなに息を詰めてもしようがないでしょ?」

ツバサ 「そうね、メストマトさんの言う通りね。」

ことり 「ぷっww。」

千歌 「ふふww」

真姫 「……。」

デデくん 南、高海、OUT)

ことり 「身内同士の潰しあいはやめようよww」バシーンツ

千歌 「そうですよww」バシーンツ

真姫 「……でも、私達7人もいるけれどそれぞれ、本家のどの  
人のポジションになるのかしらね?」

千歌 「さっきのフロントの時から判断すると、善子ちゃんは方  
正さんポジションだね。」

善子 「……やっぱりそうなる? あとヨハネよ。」

ダイヤ 「ということは、後半にキツイビンタが待ってるというこ  
とですわね。」

善子 「やめて、考えないようにしてるんだから。」

真姫 「あと怖いと言えば……、タイキツク、かしら。」

ことり 「今考えれば王様ゲームの時に例のタイ人の人出てたけれ  
ど、今回の伏線だったのかもね……。」

真姫 「……嫌な伏線ね。」

※王様ゲーム第6話参照

千歌 「え? タイ人の人、王様ゲームの時いたんですか?」

ことり 「うん、千歌ちゃん達が来る前にね。」

ツバサ 「すごかったわよ、あんじゅと希さんと亜里沙ちゃんがタ  
イキツクで吹っ飛んだのよ?」

千歌 「ふっw 亜里沙ちゃんてさっきの絵里さんの妹さんです

よね？ あんな可愛いらしい子にW」

ダイヤ 「・・・容赦ないですわね。」

善子 「今千歌が笑ってたように見えただけけどOUTじゃないの？」

絵里 「確かに。さつきから思ってたけど判定が甘い時があるわよね。」

千歌 「え、千歌笑ってた??」

ことり 「うん、ことりにもそう見えた。」

絵里 「もしかしたら、カメラの位置の関係で判定が甘かったりするのかもね。」

真姫 「なるほど、あり得るわね。じゃあ一回ことりが千歌ちゃん場所で笑ってみたらいいんじゃない?」

ことり 「え? なんでそこでことりが出てくるの?」

真姫 「ことりが一番笑ってるからよ。もしこれで千歌ちゃんの場所の判定が甘かったら場所を交換してもらえばいいじゃない。」

ことり 「・・・なるほど。」

千歌 「千歌も別にそれでいいですよ。」

真姫 「決まりね。じゃあことり早速実践して頂戴。」

ことり 「うくん、嫌な予感がするけど。」

くことりと千歌が一時的に場所を交換く

ことり 「じゃあ、いくよ?」

他 「……………」  
「コクン

ことり 「えへへ♡」

デデッソ 南、OUTく

ことり 「……………」

千歌 「wwwwww」

真姫 「wwwwww」

他 「……………」

デデッソ 高海、西木野、OUTく

ことり 「うん、正直わかった。痛いつ!」  
「バシーンツ

千歌 「千歌も分かってたけどww これは笑っちゃww」  
「バ

シーンッ

真姫 「www」バシーンッ

絵里 「でも、今のはことりがわざとらしく笑ったからOUTになつたんじやないかしら？ もっと自然に笑っちゃった風であればどうかしら？」

ことり 「絵里ちゃんどうしたの？ 別にどうでもいいんじゃない？ ことりは元の場所がいいから、もうこの話は終わりにしよう？」

ツバサ 「でも確かに、えへへ♡ はわざとらしかったわね。」

デデッソ 綺羅、OUTッ

ツバサ 「あ」

ことり 「www」

真姫 「ふw、くw」

ダイヤ 「ふふwww」

デデッソ 南、西木野、黒澤、OUTッ

ことり 「ツバサさん、それはいいですよwww」バシーンッ

真姫 「天然の不意打ちは恐ろしいわねwww」バシーンッ

ダイヤ 「もう、こなくだらなことでwww」バシーンッ

ツバサ 「……。」バシーンッ

善子 「そんなことより、どうする？ 引き出しあけていく？」↑

強引に話を逸らしにかかる

他 「……。」

ことり 「……別に開けなくてもいいんじゃないかな？」

ツバサ 「そうね、無理に開ける必要はないわね。」

絵里 「……私は気になるわ！」

ダイヤ 「……あの、こればかりは本当にやめておいたほうがいいですよ？」

ことり 「そうだよ、絵里ちゃんは本家を見てないからそんなことが言えるんだよ。」

絵里 「……っ！」ガラッ ↑無言で引き出しを勢いよく開ける絵里

ドツツカアアアアッ〜ン!!!

く突然のすごい爆発音く

絵里 「つつつつ!!?」ガラガラ、ガツシャン!! ↑椅子から転げ落ちる絵里

他 「つつつつ!!?!!?」

・・・シーン

絵里 「・・・・・・・・・・。」↑ 腰が抜けてる

全員 「・・・・・・・・・・。」↑ 普通にびっくりしてる

絵里 「・・・・・・・・・・。」グスツ

真姫 「・・・・・・・・ふふふww」

ことり 「こ、これはwwww」

他 「wwwwwwww」

デデーン 綾瀬以外OUTく

千歌 「ちよつとww こんな激しいの本家でも見たこと無いよつwwww」バシーンツ

ダイヤ 「精々CO2ガスが噴き出るくらいかと思いましたwwww」バシーンツ

ことり 「完全に爆発してたねwwww」バシーンツ

善子 「これ心臓止まるレベルの爆音よねww」バシーンツ

真姫 「絵里wwww 大丈夫? ww ひっくり返ってたわよww」バシーンツ

ツバサ 「勝手に開けるからよwwww」バシーンツ

絵里 「・・・死んだかと思っただわ。」グスツ

ことり 「ふww・・・、まあ凄い音だったもんね。」

善子 「これは、注意深く開けていくしかないわね。」

真姫 「絵里? 続き開けられる?」

絵里 「もう嫌よ・・・。」

千歌 「でも最初に開けておいたほうが後楽ですよ?」

ことり 「あ、もう引き出しは開けていく流れなんだね。」

絵里 「・・・じゃあ、続きいくわよ。」

つつく

## 第10話 部屋にて・・・PART 2

第9話の続きです。

絵里 「・・・い、行くわよ。」

他 「・・・。」ズザザ ↑後ずさり

絵里 「ちよつとっ！ やめてよっ！ 怖いじゃない！」

千歌 「いや、正直あれの後じやちよつと怖いし・・・。」

ことり 「ま、まあ連続でさつきみたいなの爆発音とかはないと思うし。大丈夫だと思うよっ。」

絵里 「・・・じゃあもう少しこっちに来てよ。」

ことり 「・・・それはちよつと。」

絵里 「・・・もういいわ、あなた達には頼らないわ。」

絵里 「・・・ここは逆に勢いよく行くわ。」

真姫 (・・・何だよ。)

絵里 「・・・行くわよ！」ガラッ！

引き出し 「・・・。」↑空っぽ

絵里 「・・・。」

他 「・・・。」

絵里 「・・・。」ガラッ ↑引き出しを閉めた音

絵里 「・・・最後の段も行くわ。」

絵里 「・・・えいっ！」ガラッ

ドツツカアアアア~~~~ンン!!!

〜再び爆発音〜

絵里 「ああああああああああ!!!!」ガラガラ、ガツシヤン ↑またも椅子から転げ落ちる

他 「wwwwwwwwww」

デデ〜ン 綾瀬以外OUT〜

千歌 「リアクションwww」バシーンツ

真姫 「この仕掛け考えたの誰よwww」バシーンツ

ツバサ 「一度空の引き出しで油断させる当たり悪意があるわねww」バシーンツ



絵里 「……………」ボ―

他 「つw……………」

絵里 「……………終わったわよ私の番。」ボソッ

ことり 「……………うん……………お疲れ様……………絵里ちゃんw」

ツバサ 「ふw、次は私の番かしら？」

真姫 「そうね、それでいいんじゃないかしら。」

ツバサ 「じゃあ、行くわよ。……………ゆっくり行ったほうがいいわね。」

ガララ

ボールペン ↑コロコロコロコロ……………コンッ

ツバサ 「……………ふw」

ことり 「ふふふw」

千歌 「……………つw。」

デデッン 綺羅、南、高海、OUT↓

ツバサ 「さつきとの落差がw」バシーンッ

千歌 「ええ！今のOUT↓？」バシーンッ

ことり 「これが7人分続くだなんてw」バシーンッ

善子 「仕掛け側の思惑通りに踊らされてる感じがするわ

ね……………」

ツバサ 「……………次、行くわよ。」

ツバサ 「……………」ガララ

ことりのポスター(サイン付き)

ツバサ 「w w w w」

ことり 「え？何があつたn、ふw w w w」

真姫 「ふふw w w w」

千歌 「w w w w」

デデッン 綺羅、南、西木野、高海、OUT↓

ツバサ 「いきなりこんなの見せられたら笑うわよw」バシー

ンッ

真姫 「サイン付きつてw」バシーンッ

千歌 「どこからこんな持ってきたんだろw」バシーンッ

ことり 「本当にどこからこんな持ってきたんだろw」バ

シーンッ

ツバサ 「一番下は何もないわね。」ガラッ

ツバサ 「ふう、私も終わりね、比較的平和的に終わったわ。」

善子 「これを平和って言うあたり、感覚が狂ってきてるわね。」

絵里 「王様ゲームの時から感覚はみんな狂ってるわよ……。」

千歌 「よしっ！じゃあ次は千歌の番だねっ！」

千歌 「行くよ。」ガラッ

みかんの皮×1

千歌 「……っ。」

ことり 「……ふう。」

他 「……。」

千歌 「……じゃあ次の段に行きまゝす。」ガラッ

バナナ×2本

千歌 「ふふwww」

ことり 「はっwww」

ダイヤ 「ふふwww」

デデッ 高海、南、黒澤、OUT

千歌 「バナナネタしつこいよww」バシーンッ

ことり 「フロントの時から流れだねww」バシーンッ

ダイヤ 「私このバナナネタダメですわww」バシーンッ

千歌 「……ふう。」

千歌 「じゃあ、ラスト行きますっ！」ガラッ

バナナ×4房

千歌 「もうwww」

ダイヤ 「www」

ことり 「www」

絵里 「ふふww」

デデッ 高海、黒澤、南、綾瀬、OUT

千歌 「だからっww 千歌はみかんの方が好きだってばww」

バシーンッ

ダイヤ 「ぎっしりバナナですわねww」バシーンッ

ことり 「この三段構えはズルいよwww」バシーンッ

絵里 「最後の最後で笑っちゃったわwww」バシーンッ

千歌 「とりあえず千歌はこれで終わりですね……。」

真姫 「じゃあ、次は私ね……。」

真姫 「……。」ガララ

真姫 「ん？ これは……。」

謎のボタン

ことり 「わく、もう嫌な予感しかしないね……。」

ツバサ 「確かに……。」

真姫 「……。」ポチ ↑静かにボタンを押す真姫

千歌 「ちよつとw 真姫さんw」

デデッソ 善子 OUTF

善子 「……は？」

善子 「いやいや、え？ 私笑ってないわよ？」

黒い人 「……。」タッタッタ

善子 「ちよ、私本当に笑ってない、痛いっ！」バシーンッ

ことり 「これ、ボタン押したら善子ちゃんがOUTになるん

じゃ……。」

善子 「え？」

真姫 「……。」ポチ

デデッソ 善子 OUTF

善子 「」

他 「www」

デデッソ 全員OUT

善子 「こんなの理不尽よっ!!」バシーンッ

真姫 「www」バシーンッ

千歌 「あははw、善子ちゃん頑張ってwww」バシーンッ

ことり 「もうwww お腹とお尻が痛いよwww」バシーンッ

善子 「ちよつと!! そのボタン貸して。」

真姫 「……。」

善子 「……早く。」

真姫 「……………」ポチ

デデ〜ン 善子 O U T〜

他 「w w w w w w」

デデ〜ン 全員O U T〜

善子 「ちよつとっ!! 卑怯よ!! 返してっ!! 痛いっ!」バ  
シーンッ

真姫 「w w w w w」バシーンッ

絵里 「私たちも結局笑っちゃうから全員お尻叩かれてるだけに  
なってるわよw w w」バシーンッ

ツバサ 「確かにこの流れは不毛すぎるわねw w w」バシーンッ

ダイヤ 「善子さんw w w あまりはしゃがないでくださいw w w  
余計面白くなってしまうのでw w w」バシーンッ

善子 「……………さあ、もういいでしょ? はやく返して。」

真姫 「……………」

善子 「……………ほら、早く。」ジリジリ ↑真姫に詰め寄る善子

真姫 「……………」ジリジリ ↑善子から後ずさる真姫

善子 「早く返せーっ!!」ダッ↑真姫に飛び掛かる善子

真姫 「……………」ダッ ↑善子から逃げる真姫

善子 「ちよ、逃げるなーっ!!」ダダダッ

真姫 「……………」ダダダッ……………ポチ

デデ〜ン 善子 O U T〜

善子 「ああああもおおうっ!!!」

ことり 「ふくくっw……………、真姫ちゃんが絶対有利だねw」

千歌 「善子ちゃん、今最高に輝いてるよ!w」

善子 「はあはあはあ……………西木野真姫iiiiiii!!」バシー  
ンッ

他 「w w w w w w」

デデ〜ン 善子以外O U T〜

ことり 「ひっw w w やめてw w w それ以上ことりを笑かささないで  
w w w」バシーンッ

ダイヤ 「心からの叫びですわねw w w w w」バシーンッ

千歌 「面白すぎるw w w w w」バシーンッ

真姫 「w w w w w w w」バシーンッ

善子 「・・・私西木野のこと嫌いよ。」

ツバサ 「ふw、このままだと進まないから続きの引き出しを開けたらどうかしらっ。」

真姫 「そうね、あと善子ちゃん？ 私はあなたのこと嫌いじゃないわよ？」

善子 「やかましいわっ！ あとヨハネって言え！」

ことり 「ふくくw w、もうやめて。」

真姫 「じゃあ続き開けていくわよ。」ガララ

真姫 「・・・空ね、一番下は・・・これは。」ガララ

謎のボタン2

千歌 「またボタン・・・。」

ツバサ 「お願いだから私じゃありませんように・・・。」

善子 「・・・。」

真姫 「・・・。」ポチ

デデッソ 善子 O U T

他 「w w w w w w w」

デデッソ 全員 O U T

善子 「バシーンッ

ことり 「w w w w w w w」バシーンッ

真姫 「w w w w w w w」バシーンッ

ダイヤ 「またw w w w w」バシーンッ

ツバサ 「こんなのw w w 反則よw w w」バシーンッ

善子 「それをこっちに渡しなさいっ！ 西木野おお!!」バツ

↑真姫に飛び掛かる善子

真姫 「千歌ちゃん！ パスッ！」ポイツ

千歌 「ナイスパックスッ!! そして・・・。」ポチ

デデッソ 善子 O U T

善子 「くたばれっ、西木野く!!」ギュー ↑真姫にヘッドロックをかける善子

真姫 「……っ!?」バンバンバン ↑タツプする音

善子 「くううう。」バシーンツ ↑お尻を叩かれてもヘッド  
ロツク続行

他 「w w w w w w」

デデッソ 全員OUTッ

千歌 「ボタン無視で真姫さんに仕返しするとはw w w w w w」バ  
シーンツ

ことり 「ひw w w w w wはw w w w w wはっw w w w w w」バシーンツ ↑過  
呼吸になりかけてる

絵里 「お尻叩かれても微動だにしないw w w w w w」バシーンツ

ツバサ 「喧嘩しないでw w w w w w」バシーンツ

ゝ しばらくして ゝ

絵里 「はい、ここにボタンはしまったから持ち出し厳禁ね。」

他 「は〜い」

真姫 「ひどい目にあつたわ……。善子ちゃん、ちよつとスキン  
シップ激しいわよ?」

善子 「うるさい、だまれっ! 後ヨハネって呼べ!!」

ことり 「はあ……。笑いすぎて死ぬかと思つた……。」

千歌 「二人ともすつかり仲良くなつたね。」

ダイヤ 「何を見てそう思つたんですの?」

真姫 「……最後の引き出しには何も無いわね」ガララ

ダイヤ 「では、次は私の番ですわね!!」

つづく

## 第11話 部屋にて・・・PART3

第11話の続き

ダイヤ 「では、行きますわよ・・・。」

他 「・・・。」ズザザ ↑後ずさり

ダイヤ 「・・・全員に後ずさりされると、急に孤独を感じますわね。」

絵里 「でしよう?」

ダイヤ 「覚悟を決めるしかありませんわね。」

ダイヤ 「・・・。」ガララ

ダイヤ 「これは・・・DVDですわね。」

↳謎のDVD発見↳

ツバサ 「これは、ダイヤさんがタイキックということね・・・。」

ことり 「ダイヤちゃん可哀想・・・。」

千歌 「ドンマイです。ダイヤさん。」

善子 「南無。」

ダイヤ 「いえいえいえ、まだそうと決まったわけではないでしょ!

う!

真姫 「でも本家の流れるにはそうじゃない?」

千歌 「そうだそうだっ!諦めろ。」

ツバサ 「ダイヤさん、諦めも肝心よ?」

ダイヤ 「くっ、黙ってれば好き放題言って・・・。」

ダイヤ 「いいでしょう!そこまで言うなら今すぐ再生しますっ!

!

絵里 「この部屋にDVDプレーヤーがあるのはこういう理由

だったのね。」

真姫 「わざわざ再生しなくてもいいのに・・・。」

ウィーン

↳DVD 再生↳

希 「はい、どうも、それでは早速、今から皆さんにあること

を聞いていきたいと思います!」

ことり 「・・・いきなり始まったね。」

ツバサ 「海未さんに、凜さん、それに穂乃果さんもいるわね。」

希 「はい、じゃあ早速海未さん！ このメンバーの中で一番蹴られた方がいいと思う方は誰ですか？」

海未 「ことりで。」

デデリン 南、タイキック

ことり 「……ん？」

他 「w w w w w w」

千歌 「こwこれはw w ひどいw w w」

真姫 「罰の決まり方が雑すぎるわねw w w」

絵里 「即決w w w」

ダイヤ 「展開が早すぎますわw w w w w w」

タイ人 「……。」

タイ人登場

ことり 「ん、ん、……ん？」

ツバサ 「ふふふw w w ことりさん、混乱しないでくださいw w w」

真姫 「二週間ぶりに見たわねw w w」

タイ人 「……。」ズンズン ↑ことりに詰め寄るタイ人

ことり 「……ん、って、ちよ、いやあああ！え？え？ダイヤちゃんじゃないの??」

千歌 「ようやく正気に戻ったw w w」

真姫 「ことりさん、暴れると危ないですよ？」

ツバサ 「そうよ、しつかり蹴られないと？」

ことり 「いやいやいやいやいやいや！」

タイ人 「……。」ウズウズ ↑蹴る準備は万端

千歌 「ことりさん、ほら、困ってますよ？」

ことり 「絶対嫌だよっ！ことり死んじゃうよ！」

真姫 「……ことり。」ズカズカ ↑ことりに詰め寄る真姫

ことり 「え、真姫ちゃん？」オロオロ

真姫 「……早く構えなさいっ！」バチンツ ↑突然ことりにピ  
ンタ

ことり 「……へ？」ヒリヒリ



他 「w w w w」

絵里 「真姫、どうしたの急にw w w」

千歌 「ちよいちよい真姫さんの行動が謎だw w w」

真姫 「はやくっ！」

ことり 「・・・え、え、ええ。」 ↑言われるがままに構えることり

タイ人 「・・・っ!!」 ↑タイキックを放つタイ人

ドゴツツオオンネン<sup>ネ</sup>!!!

ことり 「っっっ!!」——ドサツ！ ↑吹っ飛ばされ、そのまま倒れることり

他 「w w w w w w」

デデッソ 南以外OUT

絵里 「二週間ぶりに見たけど相変わらず凄いわねw w w」バ

シーンッ

ダイヤ 「ふふふw w wこれは予想以上に凄いですわねw w」バ

シーンッ

千歌 「吹っ飛んだw w w」バシーンッ

ことり 「」

ことり 「」

ことり 「↑倒れたまま動かないことり

真姫 「ふw、ことり、気持ちはわかるけど早く起きてくれない？」

w

千歌 「・・・っw」

希 「はい、それでは次の人に聞いていきま〜す！」

他 「!？」

ことり 「ピクッ

ツバサ 「え、まさかこれ、後穂乃果さんと凜さんにも聞いていく流れなの？」

れなの？

絵里 「嘘でしょう・・・。」

希 「じゃあ、穂乃果ちゃん！誰がいいと思う？」

穂乃果 「・・・う〜ん」

穂乃果 「私も海未ちゃんと一緒に、こと・・・やっぱり絵里ちゃん

で!!」

絵里 「なんで変えたの!!」

千歌 「ふww」

ことり 「・・・今、ことりって言いかけたよね?」ムクリ ↑起き  
たことり

真姫 「幼馴染なのにねw」

希 「あ、別に複数人選んでもいいよ?」

穂乃果 「あ、じゃあことりちゃんも追加で!」

ことり 「」

デデゥン 南、綾瀬、タイキツク

他 「wwwwww」

ダイヤ 「二連続ww」

千歌 「追加されちゃいましたねww」

タイ人 「・・・。」ズンズン ↑絵里に詰め寄るタイ人

絵里 「え、え、本当に?本当に?・・・本当に?」

真姫 「何がよww」

善子 「タイキツクくらうときってみんな混乱するものなのかしら?」

タイ人 「・・・。」スツ↑構えるタイ人

絵里 「え、え、え、え、え、え、」

タイ人 「・・・っ!!」↑タイキツクを放つタイ人

ドゴツツオオンン!!!

絵里 「だああああああああ!!!」

他 「wwwwwwww」

デデゥン 綾瀬、南以外OUT

千歌 「絵里さんwwwwさつきからリアクションがオーバーですよww」バシーンッ

善子 「こんなの笑うわよww」バシーンッ

真姫 「wwwwww」バシーンッ

ことり 「・・・。」サー

絵里 「あ、ああ、あああ、ひ、あ」↑お尻を押さえな

がらなぜか部屋中を動き回る絵里

千歌 「・・・ぷっwww」

真姫 「ちよつと絵里www」

ダイヤ 「www」

デデッソ 南、綾瀬以外OUT

千歌 「もうwwwやめてくださいよっ！」バシーンッ

真姫 「気持ちはわかるけれどwww」バシーンッ

ダイヤ 「こんなえりーちが見たくありませんわwww」バシーンッ

タイ人 「・・・。」ズンズン ↑再びことりに詰め寄るタイ人

ことり 「・・・っ！もう絶対に嫌だから、こうしちゃうもんねー」

部屋の床に仰向けに転がり徹底抗戦の構え

タイ人 「・・・。」↑どうしていいか分からない

他 「wwwwww」

デデッソ 南、綾瀬以外OUT

千歌 「お願いだから無駄な抵抗はやめてwww」バシーンッ

善子 「タイ人の人が困ってるじゃないwww」バシーンッ

真姫 「今まで抵抗して一度も成功してないくせにwww」バシーンッ

絵里 「・・・。」↑お尻が痛すぎて笑う余裕がない

ことり 「もうことりは何も罰は受けないから。後20時間ずつとこの態勢でいるからねー」

ダイヤ 「・・・ふっ、正気ですかw」

真姫 「どうにかできないかしら？」

千歌 「全員でくすぐってあげたらいいんじゃないですか？」

ことり 「千歌ちゃん？ 何でそんなこと言うの？」

真姫 「ナイスアイデアね！」

千歌 「では、早速・・・。」ワキワキ

ことり 「・・・ちよ、来ないで！絶対ことり負けないからね！」

他 「・・・。」コチョコチョコ

ことり 「あはははwwwwwwちよwwwwwwこんwwwwwwなのww

W

他 「……………」コチョコチョコチョコ

ことり 「わかwww分かったからwwwわかwwwキツクされるからwww」ゼーゼー

千歌 「10秒持たなかったですね。」

真姫 「ちよろすぎるわねw」

ツバサ 「……………」あなたがそれ言う?」

ことり 「う、うう、ひ、酷いよみんな……………」ヨロヨロ ↑何とか起き上がることり

タイ人 「……………」スツ ↑構えるタイ人

タイ人 「……………」↑タイキツクを放つタイ人

ドゴツツオオンン!!!

ことり 「……………」ドサツ ↑ノーリアクションで

倒れることり

他 「wwwwww」

デデーン 全員OUT

千歌 「あははwwwひいwww」バシーンツ

ダイヤ 「なwww何か反応してくださいよwww」バシーンツ

真姫 「死体が蹴られてるみたいだったわねwww」バシーンツ

ことり 「バシーンツ」

ツバサ 「さらにお尻を叩かれるってwww」

真姫 「くすぐられた時に笑ってからねw」

希 「では、次は……………」

全員 「ビクツ」

希 「また、後で!ということ!みんな引き続き笑ってはいけない楽しんでなくほな…」

プツン ↑DVDここで終了

千歌 「……………」とりあえず、助かった…………」のかな?」

ダイヤ 「また続きがあるみたいな言い方でしたが……………」

真姫 「凜がまだいたものね……………」

ツバサ 「でもまあ、とりあえず悪夢の時間は一時的に終わったの

よね？」

善子 「・・・一応は、ね。」 チラッ

ことり 「↑倒れてる

絵里 「うう、い、痛いわあ〜」 シクシク

真姫 「地獄絵図ね・・・。」

つづく

## 第12話 部屋にて・・・PART4

第12 部屋にてPART3の続きです。

ダイヤ 「他の引き出しには何もありませんわね。」ガララ

絵里 「よかった、他のDVDがなくて。」ホッ

ことり 「本当に・・・。」

善子 「じゃあ、次は私がいくわね。」

ことり 「・・・ことりが最後なの？」

真姫 「トリだからね。」

ことり 「・・・言うと思ったよ。」

千歌 「ふふw」

善子 「・・・本当に開けるの怖いわね。」

ツバサ 「どうでもいいけれど、引き出しの下りだけでも随分長い

わね・・・。」

真姫 「7人もいるものね。」

善子 「ゆっくり、ゆっくり・・・。」ガララ・・・

善子 「これは、封筒？」

↳ 謎の封筒発見

善子 「何かしらこれ？ってよく見たら、黒澤ダイヤ宛てって書

いてるわね。」

ダイヤ 「え？私ですの？」

善子 「うん、ほら。」

ことり 「本当だ、ダイヤちゃん宛てになってるね。」

ダイヤ 「嫌な予感しかしませんわね・・・。」

千歌 「頑張って、ダイヤさんw」

ダイヤ 「何で善子さんの引き出しなのに私の封筒が入ってるんで

すの・・・。」

真姫 「で？肝心の中身は？」

ダイヤ 「ちよつと待ってください。」

ダイヤ 「えくと、・・・命令書と書いてありますわ。」

千歌 「命令書？」

ダイヤ 「ええ、命令内容は今から10分間タメ口で喋れ、だそうです。」

ことり 「どういうことなの?」

ダイヤ 「・・・さあ?」

ピンポンパンポンツッ

全員 「!?!」

「命令開始10秒前。」↑突然アナウンスが鳴り響く

「なお、タメ口で喋らなかつた場合は笑つた時と同様の罰を受けていただきます。」

ダイヤ 「え」

千歌 「考える暇をくれないね。」

「8、7、6、5・・・」

ダイヤ 「え、ええ!?! どうすればいいんですの??」

絵里 「まあ、タメ口で喋るしかないんじゃないかしら。」

ダイヤ 「私タメ口でしゃべつたことなんてありませんわよお。」

ツバサ 「適当でいいんじゃない?」

ダイヤ 「・・・はあ。」

善子 「タメ口のダイヤ・・・想像できないわね。」

「3、2、1・・・命令開始。」

ダイヤ 「・・・。。。」

他 「・・・。。。」

ダイヤ 「・・・。。。」

千歌 「・・・ふわ」

デデッソ 高海OUT

千歌 「ダイヤさん黙るのはずるいですよっ!w」バシーンツ

真姫 「千歌ちゃんの言う通りよ。何かしゃべらないと。」

ダイヤ 「え?もう一回言つて?」

真姫 「ふわ」

千歌 「ぷっww」

ことり 「ふふふww」

デデッソ 西木野、高海、南OUT

真姫 「いきなりこられるとキツイわねww」バシーンッ  
千歌 「これは破壊力があるww」バシーンッ  
ことり 「これが10分間ww」バシーンッ  
ダイヤ 「どうしたの真姫？何か言っただけ？」  
真姫 「……。」ギュー 太ももをつねって笑いを堪える真姫

ことり 「……ぐw」

真姫 「……こほんっ、何も無いわ。」

ダイヤ 「そう？何かあったらいつでも言いなよ？」

真姫 「っ……ええ、そうさせてもらうわ。」

ダイヤ 「それより千歌、ちよつといい？」

千歌 「ふw……はい、何ですか？」

ダイヤ 「なんでも無いわ、呼んだだけよ♪」

千歌 「ふふwwww」

ことり 「もうwwww」

デデッソ 高海、南OUTッ

千歌 「絡んでこないでよww」バシーンッ

ことり 「キヤラ変わってるよダイヤちゃんww」バシーンッ

善子 「じゃあ、他の引き出しも開けていくわね。」

ダイヤ 「なんでやねんっ！」

善子 「え？」

他 「wwwwww」

デデッソ 津島、ダイヤ以外OUTッ

ツバサ 「どうしたの急にwwww」バシーンッ

千歌 「突っ込む要素何も無いのにwwww」バシーンッ

絵里 「唐突な関西弁はやめてww」バシーンッ

善子 「え？引き出しあけるわよ？」

ダイヤ 「だからなんでやねん！」

千歌 「……く。」

善子 「何かいけないこと言ってるかしら……。」

ダイヤ 「別にすぐ開ける必要ないやろ！」



ことり 「あのww、ダイヤちゃんwwタメ口で喋ることは別に攻撃していいってわけじゃないからねww」

ダイヤ 「ふふww」

ツバサ 「ふww」

デデゥン 南、黒澤、綺羅、OUT

ツバサ 「確かにことりさんの言うとおりねww」バシーンッ

ダイヤ 「わからないんですのよww」バシーンッ

ことり 「あとダイヤちゃんwwお願いだからもう関西弁はなし

ねww」

善子 「・・・あの、引き出しあけていいわよね？」

ダイヤ 「うん、いいよ。さつきはごめんね、怒鳴って。」

善子 「・・・ええ。」

千歌 (善子ちゃんよく耐えられるなww)

善子 「えくと・・・。」ガララ

ダイヤ 「ん？なにか入ってた？どれどれ？」

善子 「何も入ってないわよ・・・。」

ダイヤ 「そっか・・・。」

ことり 「・・・くふ、ふ。」

真姫 「ダイヤちゃんは何がしたいのよw。」

善子 「うん、最後の引き出しにも何もなかったわ。」

ことり 「これで、後はことりだけだね・・・。」

ダイヤ 「そうだね、頑張って！」

ことり 「ふふww」

デデゥン 南 OUT

ことり 「だめだ、慣れないよこれww」バシーンッ

ツバサ 「でも、ダイヤさん今まで本当にずっと敬語口調だったの

？」

千歌 (ツバサさん、何で余計なこと聞くな・・・。)

ダイヤ 「うん、家の躰が厳しくて・・・。」

善子 「でも、その割にルビイは別に敬語とかじゃないのよね。」

真姫 「そうね、確かこんな感じだったわよね？」

真姫 「うゆゆゆゆゆゆ w w w、おねえちゃ〜、ぴぎい w w。」

他 「w w w w w w w w」

デデ〜ン 全員 O U T〜

千歌 「ちよくちよく挟んでくる物真似やめてもらっていいですか w w w」バシーンッ

善子 「全然似てない w w w」バシーンッ

ことり 「まねの仕方に悪意しかないよ w w w」バシーンッ

真姫 「何で私まで・・・。」バシーンッ

ツバサ 「物真似しながら笑ってたじゃない w w w」バシーンッ

ダイヤ 「w w w w w w」バシーンッ

ことり 「・・・はい、もうこれ以上キリがないから、ことりもいきま〜す！」

千歌 「ようやく最後の一人ですね・・・。」

ダイヤ 「そうだね！」

つづく

第13話 部屋にて・・・PART5 引き出しネ  
夕終了

第12話 部屋にて・・・PART4の続きです。

ことり 「・・・はあ、開けたくないなあ。」

ツバサ 「まあまあ、もうこれで終わりじゃない。」

千歌 「そうですよ、パツパツといきましよう！」

ことり 「うん、じゃあいくね？」

他 「・・・。」ズザザザザ・・・ ↑全員後ずさり

ことり 「・・・みんなことりの時だけ下がりがりすぎじゃない？」

千歌 「だって、正直ことりさんの引き出しに何が入ってるか想像できないし。」

真姫 「ええ、海未あたりが入っていても不思議じゃないわ。」

ことり 「・・・ふw」

絵里 「・・・w」

デデゥン 南、綾瀬、OUT

ことり 「海未ちゃんが入ってるってどういう状況w w w」バシーンッ

絵里 「笑ってしまったわ、不覚w w」バシーンッ

ダイヤ 「ことり、はやく開けてよ。」

ことり 「つ・・・ふう、ダイヤちゃん、お願いだから引き出しを開ける時だけでもしやべりかけないでw」

ことり 「じゃあ・・・あけまゝす。」ガララ・・・

鶏の唐揚げ 「・・・。」

ことり 「・・・。」

他 「w w w w w w」

デデゥン 南以外OUT

千歌 「あはははははw w w w w」バシーンッ

真姫 「本当に誰よw w w w w仕掛け考えてるのw w w」バシーンッ

ツバサ 「唐揚げw w w」バシーンッ

ことり 「……これどういうこと?」

他 「……っ」

真姫 「まあ、……あれじゃない? w ことりっていう名前だから、鶏の唐揚げっていうw」

ことり 「ことりがこれ食べたら共食いになるってこと?」

真姫 「ふふwww そうはww言っていないけれどwww」

千歌 「くふうwww」

デデッソ 西木野、高海、OUT

真姫 「ことりwww無表情で問い詰めに来るのやめてくれない? www」

千歌 「だめwwwこういう中学生みたいなイジリ、大好きww」

絵里 「ねえ、ことり。お腹が減ったからその唐揚げもらっていない?」

ことり 「……別にいいけど。」

真姫 「絵里凄いわね。」

絵里 「え、何が?」

真姫 「いえ、気にしないで……。」

絵里 「そう?じゃあもうわね。……待ってこれ……微妙に温かいわ。」

千歌 「ふふwww」

真姫 「ぶふww」

デデッソ 高海、西木野OUT

千歌 「その情報いららないですよwww」

真姫 「そうよww黙って食べなさいよww」

絵里 「もぐもぐ……ごくんっ。うん普通に美味しいわ。」

ツバサ 「よかったわね……。」

ことり 「……はあく。」

ことり 「よしっ!気持ち切り替えて二段目いくね!」

ガララッ

チキン南蛮 「……。」

ことり 「……ふw」

他 「wwww」

デデッン 全員アウトッ

ことり 「もうwwwこのイジリやめてよww」バシーンッ

真姫 「ことりの扱いがww」バシーンッ

千歌 「三段目の引き出しが気になるねww」バシーンッ

ことり 「……ふう、はい絵里ちゃん。これもあげる。」

絵里 「え？もういらないけれど。」

ことり 「じゃあ三段目もいくね？」

絵里 「ちよつと。」

千歌 「……ふw」

ことり 「いきまゝす。」

ことり 「……。」ガララ……

ことり 「これは……封筒だね。」

ツバサ 「また封筒？」

ことり 「うん、これは千歌ちゃん宛だね。」

千歌 「ええ、私？」

ことり 「うん、はい。」

千歌 「見たくない……。」

ダイヤ 「気持ちわかる。」

千歌 「……だいぶダイヤさんのタメ口にも慣れてきた。」

千歌 「えくと……10分間、黒澤ダイヤの口調を真似る、だつ

て。」

ことり 「あ、もうだめだ、絶対笑っちゃうやつだ。」

絵里 「絶対面白いわねw」

ピンポンパンポンッ♪

「命令開始10秒前。」↑突然アウンスが鳴り響く

「なお、黒澤ダイヤ口調で喋らなかつた場合は笑った時と同様の罰を受けていただきます。」

千歌 「ダイヤさんって、どんな口調だったっけ？」

善子 「お嬢様っぽい口調を適当に言つとけばいいのよ。」

ダイヤ 「馬鹿にしてる？」

千歌 「まあ、頑張ってみるけど……。」

「3、2、1……命令開始。」

千歌 「あーら、あらあら、ご機嫌うるわしゅう？ W W W」

ことり 「W W W W W」

真姫 「誰よ W W W」

ダイヤ 「W W W W W」

デデッソ 高海、南、西木野、黒澤、OUT

ことり 「千歌ちゃんふざけすぎだよ W W W」

千歌 「急に真似してって言われてもわかんない W W W」バシ

ンッ

ダイヤ 「そんなこといつ言ったのよ W W W」バシ

真姫 「凜と同レベルよ？ W W W」バシ

ことり 「千歌ちゃん、落ち着いて。ダイヤちゃんのしやべり方を

思い出すんだよ。」

ダイヤ 「そうそう、よく思い出してみて？」

ことり 「うん、今はちよつとダイヤちゃん黙っててね？」

千歌 「うーん、そんなこと言われても……。」

デデッソ 高海 OUT

千歌 「え？ あ、真似してなかった……。」バシ

ことり 「ふっ……。」

真姫 「さあ、千歌ちゃん。ダイヤちゃんを思い出すのよ。」

千歌 「ええ、そんなこと言われてもですのよですわあ……」

W W W

ツバサ 「W W W W W」

ダイヤ 「W W W W W」

ことり 「W W W W W」

真姫 「W W W W W」

デデッソ 高海、綺羅、黒澤、南、OUT

千歌 「途中で何喋ってるかわからなくなっちゃった W W W」バ

シ

ツバサ 「落ち着いてw w w」バシーンッ

ことり 「本当に凜ちやんと同レベルだねw w w」バシーンッ

「黒澤ダイヤ、タメ口終了まで10秒前。」↑アナウンス

ことり 「あ、ダイヤちゃんがよく終了だね。」

「3、2、1、終了。」

ダイヤ 「ふふ、やっと終わりましたわ・・・。」

真姫 「結構楽しんでるように見えたけど。」

千歌 「ノリノリですわあ。」

ことり 「ふw」

くその後く

「高海千歌、ダイヤ口調終了まで10秒前。」↑アナウンス

千歌 「やっと、終わりですわよ。」

「3、2、1、終了。」

千歌 「疲れた・・・。」

ことり 「うん、引き出しネタようやく全部終わったね。」

ダイヤ 「大分いかれましたわね・・・。」

ツバサ 「ようやくこれで少しゆっくりできるわね・・・。」

つづく

## 第14話 海未「まだまだこれからです！」

第13話の続きです。

くモニタールームく

凜 「やつと引き出しネタ終わったにや〜」

海未 「さて、ここまではウォーミングアップだったということ  
を教えてくださいませんか。」

希 「で、何すんの？」

理亜 「ちよつとその前にいいかしら！」

海未 「？ なんですか？」

理亜 「状況がわからないのよ！」

希 「何の状況がわからないの？」

理亜 「普通の人は、沖繩に着くなりいきなり台本渡されて、その  
通りやれって言われても訳が分からないわよ！」

ルビィ 「でも、理亜ちゃんのバスでの演技面白かったよww」

希 「それなww」

理亜 「やかましいわっ！ 大体あれも台本と全然違う内容だった  
し！ 何が子供たちに説教するだけよ！ 全然違うじゃない！」

曜 「でも、本当にどういう状況？ まさか、熱々卵食べさせれ  
るとは思わなかったよ……。」

果南 「まあまあ二人とも、面白そうだからいいじゃんw」

海未 「そうです、要はあの7人を笑わせればいいのですよ。」

理亜 「……結局全然わからないままなんだけど。」

希 「で、海未ちゃん、具体的に何すんの？」

海未 「まず、私がお尻を叩く役をします。」

凜 「ふww可哀そうww」

果南 「あ、それ私もやりたい！」

海未 「わかりました、とにかく全力で叩いてください。」

果南 「了解ww」

凜 「これは見ものにやww」

くことり達の部屋く



開始から3時間経過

ダイヤ 「・・・もう何もやる気おこらないですわ。」

ことり 「うん・・・。」

千歌 「・・・帰りたい。」

絵里 「みんな、お尻は大丈夫？特にことり。」

ことり 「ううん。もう駄目、無理。」

真姫 「ことり、笑いまくってるものね。」

ことり 「しょうがないよ、だって面白いんだもん。」

千歌 「確かに結構本気で笑いを取りに来てますもんねえ。」

真姫 「本当、馬鹿らしいこと考えるわね。どうせリリホワあたりが考えたんでしょ。」

デデゥン 西木野OUT〜

真姫 「・・・え？」

千歌 「ふふww 悪口言ったからですよw」

ことり 「今のは真姫ちゃんが悪いねw」

黒い人(中身は海未) 「・・・。」タタタ

真姫 「理不尽すぎるでしょ。」スツ↑お尻を叩かれるため構える

真姫

海未 「・・・。」スツ↑お尻を叩くため構える海未

海未 「・・・っ！」バチコーンッ！

真姫 「ヴェエエっ!!」

海未 「・・・っ！」ゲシツ↑真姫に追撃の蹴り

真姫 「つつっ?!?!」ガガタンツ↑崩れ落ちる真姫

海未 「・・・。」タタタ

他 「wwwwww」

デデゥン 真姫以外OUT〜

ことり 「何あれwww」

千歌 「大丈夫ですか真姫さん？ww」

真姫 「すごく痛い・・・。」

海未 「・・・。」タタタ

果南 「・・・。」タタタ

絵里 「ちよ、また来たわよ。しかも一人増えてるし。」  
ダイヤ 「あのシルエット、もしかして果南さんでは？」  
善子 「ちよ、普通に今までと同じようにお尻叩いてよ!!」  
海未 「・・・っ！」バチコーンッ!  
善子 「いつつたああ!!」  
海未 「・・・っ！」バチコーンッ! ↑二発目  
善子 「がっつ!な、なんで・・・。」  
ことり 「ちよつとwww何が起こってるのww」  
千歌 「さあwww」  
ダイヤ 「ちよつと、あなた果南さんでしょ??こんな理不尽ですわよ!」  
果南 「・・・っ！」バチコーンッ!  
ダイヤ 「ああああ!!」  
果南 「っ!!」ドゴッ! ↑追撃の突進  
ダイヤ 「ぶっ!?!」  
絵里 「いつたああ!!」バチコーンッ  
ツバサ 「あぁっ!!?!」バチコーンッ  
ことり 「あははwww」  
千歌 「wwwww」  
海未 「・・・。」クルツ↑ことりの方に向き直る海未  
果南 「・・・。」クルツ↑千歌の方に向き直る海未  
ことり 「」  
千歌 「」  
くしばらくしてく  
ことり 「何だったのあれ・・・。」  
真姫 「・・・お尻のダメージが一気に蓄積されたわ。」  
ダイヤ 「引き出しネタが終わったと思つたら、これですわ・・・。」  
千歌 「あの二人力強すぎ・・・。」  
絵里 「はやく休みたいわ。」  
ツバサ 「本当に休みが全然ないわね。」  
ダイヤ 「でもとりあえずは落ち着いたんじゃないんですか?」

善子 「・・・私、お手洗いに行こつと。」

ことり 「あ、ことりも行く。」

真姫 「私も行っておこうかしら。」

千歌 「はあ、千歌はバナナでも食べてよつと・・・。」

ことり 「ふｗｗ・・・。」

くモニタールーム室く

海未 「うまくいきましたねｗｗｗｗ」

果南 「スツキリしたよｗｗ」

凜 「二人とも手加減しなさすぎｗｗｗｗ」

理亜 「ふｗｗ」

くトイレまでの道中く

ことり 「これってトイレにも仕掛けとかあるのかな？」

真姫 「あるんじゃない？そこまで甘くないでしょ。」

善子 「でも仕掛けがあるって分かってれば大丈夫でしょ。構え

てればいいだけだし。」

真姫 「そのとおりね、善子ちゃん。流石私の善子ちゃんね。」

善子 「うるさいっ！誰がいつあんたの善子ちゃんになったのよ

！後、ヨハネよっ！」

ことり 「ふたりとも、仲良くなったね」

善子 「どこがよ・・・。」

真姫 「トイレに着いたけど、やっぱり誰かがいる気配があるわ

ね。」

ことり 「うん、でも来るって分かっていたら何とか耐えられ・・・。」

亜里沙 「・・・。」トボトボ ↑顔中キスマークだらけ

ことり 「ないｗｗｗｗｗｗ」

真姫 「ふふふｗｗｗｗｗｗ」

善子 「ぐっ・・・」

デデくん 南、西木野、津島、OUTく

ことり 「こんなの笑うよｗｗｗｗ」バシーンッ

善子 「結局梨子にやられたのねｗｗｗｗ」バシーンッ

真姫 「亜里沙、大丈夫？ｗｗ」バシーンッ

亜里沙 「……………」ゲッソリ

↳部屋サイド↳

千歌 「モグモグ……やっぱり何か仕掛けあったんだね。」↑バナナ食べてる

ダイヤ 「本当に休息の場はないんですのね。」

ツバサ 「モグモグ……。」↑千歌にもらったバナナ食べてる

絵里 「はあ、次は何があるのかしら……。」  
つづく

## 第15話 恋バナ

第15話 恋バナ

ことり 「ただいま・・・。」

千歌 「アウトになってましたね。」

絵里 「何があったの?」

真姫 「トイレでキスマークだらけの亜里沙に会ったのよ。」

千歌 「つ・・・それは確かに笑っちゃいますね。」

ダイヤ 「結局梨子さんの餌食になってしまったんですねw」

絵里 「亜里沙・・・。」

ことり 「はあ、どこにも休憩場所はないね・・・。」  
〜15分後〜

ツバサ 「・・・急に暇になったわね」

善子 「本当に・・・。」

ことり 「さっきまでとの差が激しいね。」

真姫 「何かお話でもしましょうよ。」

千歌 「・・・何の話をするんですか?」

絵里 「恋バナしましよ!恋バナ!」

千歌 「いいですね!恋バナ!」

真姫 「恋バナって・・・二人は今まで付き合ったことあるの?」

絵里 「・・・ないわ。」

千歌 「・・・ないです。」

ことり 「ふふwww」

ツバサ 「www」

デデゥン 南、綺羅OUT

ことり 「恋バナ終わっちゃったww」バシーンッ

ツバサ 「急に盛り上がりすぎて急に盛り下がらないでちょうだいw

w」バシーンッ

千歌 「むく、馬鹿にしてるけど二人は今まで付き合ったことあるんですか?」

ツバサ 「いえ、ないけど・・・。」

ことり 「・・・ことりもない。」

善子 「どうか仮にもアイドルなんだから付き合ってたらず  
イでしょ。」

千歌 「そうなんだけどさ、恋バナって憧れなんだよね。」

絵里 「そう、そうなのよ！女子高生と言ったら恋バナって感じ  
がするのよ！」

真姫 「まあ、分からなくはないけど。」

ことり 「あ、じゃあ好きな人のタイプの人を言っていくというのは  
どう？」

絵里 「それよ！さすがことりね！」

ことり 「えへへ、それでも／＼」

デデッソ 南OUT

ことり 「え・・・あ、つい・・・。」

他 「wwwwww」

デデッソ 全員OUT

ダイヤ 「もうことりさん！油断しないでくださいよ！」バシー  
ンツ

千歌 「ちよくちよくこのパターンありますねw」バシーンツ

ことり 「・・・すみません。」バシーンツ

真姫 「あふれんばかりの笑顔だったわね。」

ことり 「ふw・・・反省してますw」

絵里 「それで、みんなはどんなタイプの人が好きなの？」

ことり 「ことりは、サイドテールで、茶髪で」

真姫 「ことりはいいわ、知ってるから。次。」

ことり 「え」

千歌 「ふw・・・でもいきなり好きなタイプって言われてもな  
ら。」

真姫 「まあ、そうよね。じゃあ善子ちゃんはどんな人が好きな  
の？」

善子 「何でその流れで私に聞くのよ！」

真姫 「いえ、純粹に気になって。」

千歌 「確かに気になる・・・善子ちゃんの好きなタイプ。」

ダイヤ 「確かに興味はありますわね・・・。」

善子 「な、なんでみんなそんなに興味もってるのよ。」

ことり 「まあまあ、善子ちゃん。恋バナだよ？恋バナ？」

善子 「う・・・。」↑ちよつと興味ある

千歌 「ほらほら、善子ちゃん、言っちゃいなよ！」

ダイヤ 「そうですねよ！善子さん！」

善子 「・・・わ、私は・・・や、優しい人がいいかしら・・・／

／ 家事とか手伝ってくれる人みたいな・・・／／

他 「・・・。」

善子 「・・・な、なによ／／何で黙ってるのよ？」

他 「・・・。」ニヤニヤ

善子 「なっ!? ちよつと、やめてよその顔／／ 何ニヤニヤしてるのよ!!というかその表情アウトじゃないの??完全に笑ってるじゃない!!」

くモニタールーム室く

海未 「面白そうですから今はアウトなしで。」

凜 「御意」

ルビィ 「www」

く部屋内く

千歌 「・・・わ、私は／／」

真姫 「・・・や、優しい人が、いいかしら／／」

千歌 「・・・家事とか／／」

真姫 「・・・手伝ってくれる人みたいな／／」

他 「wwwwww」

善子 「・・・っ／／／」カアツ

ことり 「あはははwww二人ともやめなよwww」

ダイヤ 「善子さん、私は好きですわよ、そういうのwww」

ツバサ 「思ったよりピュアなのねww」

真姫 「www」

千歌 (笑ってるのにアウトにならないってことはモニター

△室の人たちも面白がってるんだろうなww)

善子 「もう私、あんた達と一生喋らない・・・。」

真姫 「善子ちゃんww益々あなたのことが好きになったわww」

善子 「・・・しゃべりかけないで。」

ことり 「善子ちゃんにはきつといい人が見つかるよww」

ダイヤ 「間違いないですわww」

善子 「うるさいっ／＼」

凜 「はくい、皆、笑ってもいいのはそこまでにや！」

ことり 「あ、凜ちゃん。」

ダイヤ 「・・・今度は何ですか。」

凜 「今は善子ちゃんの可愛さに免じて笑ってもセーフにしてたけど、今からまた笑ってはいけない再開にや。」

ことり 「ふw了解です。」

善子 「」

千歌 「それで、今度は何ですか？」

凜 「今から皆さんには昼食を賭けてある勝負してもらいます！」

ことり 「そういえば・・・今何時なんだろう？ お昼なのかな？」

ダイヤ 「時計がないから分からないですわね。」

ツバサ 「でも言われてみると、結構お腹すいてるわ。」

真姫 「ことりはチキン南蛮があるから別に昼食いらないんじゃないの？」

ことり 「真姫ちゃんうるさい。」

千歌 「ふw・・・」

ダイヤ 「それで、どんな勝負をするんですの？」

凜 「ズバリ・・・即興お料理替え歌で勝負にや！」

ことり 「・・・本家でもあるやつだね。」

凜 「そうにや、一応ルール説明しとくと、今から皆にはある曲の替え歌を歌ってもらうにや。歌詞については、凜が一人一人に食べ物指定するから、その食べ物について、褒めるような内容にする



にや。凜が納得したら、1ポイントということ。ポイントが一番多かった人から順に美味しい昼食にありつけるにや。」

真姫 「これ、結構難しいわよね。」

ことり 「確かに・・・歌詞なんてパット思いつくのかな？」

凜 「まあ、やってみたら案外できるもんにや、早速やってみるにや。」

凜 「最初の曲は・・・スノーハレーションにや!!」  
つづく

## 第16話 昼食争奪戦 ～替え歌選手権～ その1

第16話 昼食争奪戦 ～替え歌選手権～ その1

ツバサ 「ラブライブ予選の時に歌ってた曲ね！私あれ好きよ！」

ことり 「私も好き♪」

ダイヤ 「・・・その曲が今から滅茶苦茶になろうとしてますけどね。」

善子 「・・・私その曲知らないんだけど。」

千歌 「うくん、動画では見たことあるけど歌えるかな？」

凛 「安心してにや、今から見本として原曲を流すにや、ミュージック、スタート！」

♪♪♪♪♪ ↑イントロ

「と〜どけて〜♪ せ〜つなさ〜には〜♪ な〜まえを〜♪ つけよ  
う〜か〜♪

スノ〜ハレ〜シヨン♪」↑にこのソロバージョン

ことり 「なんでにこちゃんのソロバージョンwww」

真姫 「wwwwww」

デデ〜ン 南、西木野OUT〜

ことり 「もうwww痛いつ！」バシーンッ

真姫 「にこちゃんwww」バシーンッ

凛 「凛が食べ物を指定するから、今聞いてもらった曲のメロ  
ディーに合わせて、褒めるようにオリジナルの歌詞で歌ってもらうだ  
けだにや。」

千歌 「うくん、結構難しそう。」

善子 「ていうか、その曲まったく知らない私不利じゃないの？」

凛 「はい、じゃあ早速いくよ？最初は、千歌ちゃんからにや  
！」

千歌 「ええ!?いきなり??」

善子 「・・・無視」

凛 「ミュ〜ジックスタート!!」

♪♪♪♪♪ ↑イントロ

凜 「食べ物は・・・バナナにや！」

千歌 「ふwwwそれは卑怯www」

他 「wwwwww」

デデッソ 全員OUT

千歌 「笑って歌えなかった・・・いたっ！」バシーンッ

ことり 「普通に可愛そうwww」バシーンッ

ツバサ 「千歌さん、完全にバナナキャラねwww」バシーンッ

凜 「はい、千歌ちゃん歌えなかったから0点にや。」

千歌 「納得できない・・・。」ムスー

善子 「まあまあ、諦めなさいw」

千歌 「む・・・あっ！」↑何かを思いつく千歌

凜 「じゃあ次は、ツバサさんにや！」

ツバサ 「この曲はソラで歌えるほど聞きこんでるから、替え歌だ

ろうと余裕よー！」

ことり 「ツバサさん、私たちの歌大好きですねw」

凜 「ミュ〜ジックスタート!!」

♪♪♪♪♪ ↑イントロ

凜 「食べ物は・・・グラタンにや！」

ツバサ 「・・・ぐ、ぐらたん♪・・・とろとろには♪な

くまえを♪ つけよう♪か♪・・・ぐらたれ♪しよんwww

w

他 「wwwwww」

デデッソ 全員OUT

ことり 「ひっwwwwww」バシーンッ

千歌 「ぐらたれ♪しよんwww」バシーンッ

善子 「ネーミングセンスwww」バシーンッ

ツバサ 「・・・違うのよw 替え歌難しいわよ？ 急に歌詞とか思

いつかないのよ?」

真姫 「かといって、ぐらたれ♪しよんはね。」

ツバサ 「・・・っw。」

善子 「そんな名前をつけられるグラタンが可哀想ね。」

ことり 「善子ちゃん、正確にはグラタンのとろとろ部分の名前がぐらくたれくしよんだよ?」

真姫 「イミワカンナイ!」

ツバサ 「ふふふww」

デデーン 綺羅OUT

ツバサ 「もう勘弁してもらってもいいかしらww」バシーンツ

凛 「普通に意味が分からないから0点にやw」

ことり 「ふつw・・・」

ツバサ 「・・・w」

凛 「じゃあ次いくにや!次は絵里ちゃんにや!」

絵里 「む、私ね。いつでも来なさい!」

♪♪♪♪ ↑イントロ

凛 「食べ物は・・・ハンバーグにや!」

絵里 「とどけて♪ ひるきにくくには♪ なくまえを♪

♪ つけよう♪か♪

・・・すのはれくしよんww」

凛 「アウトにやww」

他 「wwwwww」

デデーン 全員OUT

ことり 「酷いよww」バシーンツ

善子 「何の料理かわからないww」バシーンツ

真姫 「すのはれくしよんって言ってるしww」バシーンツ

千歌 「歌詞が意味が分からなさすぎるww」バシーンツ

絵里 「違うのよww」バシーンツ

絵里 「ふ・・・聞いて、違うのよ?」

真姫 「何が違うのよ?」

絵里 「ツバサさんの言う通り難しいわよこれ。」

千歌 「どの辺が難しいんですか?」

絵里 「・・・やればわかるわ。急に歌詞なんて思いつかないのよ。」

ツバサ 「ええ、やればわかるわ。」

ことり 「とはいえ、あまりにも歌詞が無茶苦茶だったけどw」

真姫 「とくどけて♪ ひくきにくくにはwww」

他 「wwwwww」

デデッソ 全員OUTッ

千歌 「真姫さん！急に歌わないでくださいwww」バシーンッ

善子 「でも本当に、ひき肉に何をとどけるのよwww」バシー

ンッ

ことり 「ひき肉にすのうはれくしょんっていう名前を届けたんだよねwww」バシーンッ

絵里 「本当に何も思いつかなかったのよwww」バシーンッ

真姫 「wwwwww」バシーンッ

凜 「はい、じゃあ次いくよ？ 次はダイヤちゃん！」

ダイヤ 「とうとう私ですわね！どこからでも来なさい！」

♪♪♪♪ ↑イントロ

凜 「食べ物は・・・カレーライスにや！」

ダイヤ 「とくどけて♪ しろごはくんにはく♪ カレくを♪

かけようか♪

からさく控えめで・・・w」

ことり 「・・・ぶつww」

善子 「ふww」

デデッソ 黒澤、南、津島OUTッ

ダイヤ 「・・・本当に難しいですわこれw いつっ！」バシーンッ

ことり 「うく笑つちやったw」バシーンッ

善子 「最後の無理やり言った感がww」バシーンッ

真姫 「・・・まあ、今までの中では比較的マシだけど。」

千歌 「歌詞の意味は分かりますけど、全然褒めてはいなかったですねw」

真姫 「ね、辛くしないでって言うてるだけの歌よね？」

千歌 「確かにそうですね。そもそもカレーって辛いものですよね?。」

真姫 「ええ。」

千歌 「アウトですね、完全に。」

真姫 「間違いないわね。」

ダイヤ 「ふふwwそこまで言わなくてもwww」

デデリン 黒澤OUT」

ダイヤ 「このゲーム、上手に歌える自信ないですわw」バシーンッ

凜 「うくん、確かに褒めてはなかったけど意味は分かったか

ら1点あげるにゃ。」

ダイヤ 「え？本当ですか？やりましたわ！」

絵里 「ちよつと！」

凜 「なんにゃ？」

絵里 「意味が分かるだけで、一点なんて聞いてないわよ！」

凜 「意味がわかる歌を歌ってから物申すにゃ。じゃあ次いく

よ。」

絵里 「……。」

ことり 「ふふw」

凜 「じゃあ次は……真姫ちゃん！」

真姫 「とうとう、私の番ね！このマツキーの実力思い知るがい

いわ！」

つづく

第17話 昼食争奪戦 ～替え歌選手権～ その2

凜 「じゃあ、いくよ〜!」

真姫 「いつでも来なさい! 準備万端よ!」

凜 「あ、ちなみに、歌は今から恋になりたいアクアリウムになるから。」

真姫 「え」

千歌 「いきなりw」

善子 「さつきまでは知らない曲だったから、私は助かるけどね。」

真姫 「私は知らないわよ、その曲。」

凜 「まあまあ、ちゃんと原曲流すから。」

凜 「はい、ミュ〜ジックスタート!」

♪♪♪♪♪ ↑イントロ

凜 「アクア〜リウムで〜♪ ふたりが〜♪ 出会うファンタ

ジ〜♪

ふいに〜ときめ〜くの〜♪ それは〜恋の魔法〜♪」↑急

に歌いだす凜

全員 「w w w w w」

全員 O U T〜

ことり 「凜ちゃんが歌うんだねw w w」バシーンツ

絵里 「予想外w w w」バシーンツ

千歌 「振付まで完璧w w w」バシーンツ

凜 「はい、これでもう完璧でしょ?」

絵里 「そんな無茶なw」

凜 「いくよ、真姫ちゃん!」

真姫 「やってやろうじゃない! いつでも来なさい!」

千歌 「よし、この曲なら…行けるっ! 後は協力者を…。」

チラリ

千歌 「あの、絵里さん。」ボソツ

絵里 「え、どうしたの？」ボソツ

千歌 「この後ですが——。」ボソツ

絵里 「・・・悪い子ねw でも、了解よw」ボソツ

♪♪♪♪ ↑イントロ

凛 「食べ物は・・・オムライスにや！」

真姫 「・・・ツ、ケチャップソックスで♪(く、きついけど何とか・・・)」

千歌&絵里 「いえええええええいいいい!!!」↑合いの手

真姫 「ぶはつwwwwww」

他 「wwwwwwwww」

デデスン 高海、綾瀬以外OUT

ことり 「どうしたの急にwww」バシーンツ

善子 「そんな激しい合いの手じゃないでしょwww」バシーンツ

真姫 「ちよつと!!ジヤマシナイデ！」

千歌 「え〜？ 私たちは、合いの手を入れただけですよね〜？」

絵里 「そうよ？ 合いの手を入れただけよ？」

真姫 「明らかに邪魔してたでじゃない!!」

千歌 「凜様、ご判決を。」

凛 「合いの手・・・認めます！」

千歌&絵里 「・・・。」グツ ↑静かに握手

ことり (ひどいwww)

真姫 「戦争ね。」

↳その後

凛 「・・・え〜、結果が、ダイヤちゃんが1点で、それ以外が0点・・・と。」

真姫 「あなた達が、ずっと邪魔し続けるからでしょ!!」

千歌 「真姫さんだって至近距离でいきなり踊ってきたりしたじゃないですか!!しかも無表情で！」

ことり 「個人的には、真姫ちゃんか喘ぎ声っぽく、合いの手を入れてたのが一番きつかったけどね。」



ツバサ 「ことりさん、一生笑ってたものね。」

善子 「全部酷かったわよ……。」

絵里 「あれから、誰もまともに歌えなくなったものね……。」

ダイヤ 「まさかの一位ですか……。」

凜 「え、この結果は流石に予想外にや。」

ことり 「どうなるの、この場合？」

凜 「え、まあ、まず、一位の最高級うな重弁当は、ダイヤちゃんに決定にや。」

千歌 「あ、いいなあ、羨ましい……。」

善子 「本当に……。」

ダイヤ 「なんだか、申し訳ないですわね。」

凜 「問題はそれ以外にや。」

凜 「もう面倒くさいから、みんなで話し合って勝手に決められにや。」

凜 「じゃあ、凜はこれでいくから。」

ことり 「あ、帰っちゃった。」

千歌 「それで、2位以降の食べ物は何ですか？」

ことり 「えっとね……。」

2位 幕の内弁当

3位 ほっともつとく唐揚げ弁当

4位 コンビニのあんぱん

5位 おにぎり

6位 きゅうり

7位 うまい棒

ツバサ 「とりあえず、6、7位だけは、嫌ね。」

千歌 「間違いないですね……。」

絵里 「どうやって分ける？」

ことり 「じゃんけんとかで決める？」

真姫 「ことりは共食いになるから唐揚げ弁当は選んじやだめね。」

ことり 「真姫ちゃん、一応上級生だよ？」

絵里 「こらっ、ことり。ミュージズ内でそういうのは禁止よ？」

真姫 「そうよ！」

ことり 「ことりが悪いの!？」

千歌 「ふw」

真姫 「というわけでことりは、唐揚げ弁当以外ね。」

ことり 「待って待って待って、おかしい、明らかにおかしい。」

真姫 「??？」

ことり 「うん、可愛くおどけた感じを出しても無駄だよ？」

絵里 「面倒だし、ことりの言う通りじゃんけんでいいんじゃないかな  
い?」

他 「……………」

く結果く

ダイヤ 「はあく、最高ですわく。」 ↑1位 うな重

ツバサ 「うくん、この幕の内弁当、なかなかおいしいわね。」 ↑2

位 幕の内弁当

ことり 「自分から言っといてなんだけど、本当にこれを食べると  
は……………」 ↑3位 唐揚げ弁当

善子 「……………なんで沖繩に来てこんな食事なのよ……………」 ↑4

位 あんぱん

真姫 「……………本当に。」 ↑5位 おにぎり

千歌 「……………やつぱり悪いことしちゃだめだね。」 ↑6位 きゅ  
うり

絵里 「……………」 ↑7位 うまい棒

くお昼後く

千歌 「はあ……………急に暇になりましたね……………モグ」

絵里 「……………千歌ちゃん、私にもバナナ頂戴?」

千歌 「どうぞ、まだいっぱいあるんで。」

ことり 「ふw よかったね、バナナがいっぱいあって。」

千歌 「本当に、きゅうりだけじゃ死んじゃいますよ。」

希 「はいはい、みんな聞いてく！」 ガラツ

ことり 「あ、やっとな来た。」

善子 「今度は何？」

希 「えくまず先に言っておきますが、今から行ってもらうことは、自由参加です。」

千歌 「え、自由参加？」

希 「そうです、ちなみにやってももらうことは鬼ごっこです。」

ツバサ 「鬼ごっこって・・・あの？」

希 「はい、あの鬼ごっこです。」

ことり 「いやいや、そんなの参加しないよ。」

真姫 「そうよね？ 参加するわけじゃない？」

希 「その鬼ごっこをクリアしたとき、一番活躍した人には豪華賞品があると言ったら？」

絵里 「商品なんてあるの？」

ことり 「本家にはそんなのないよね？」

希 「本家のやつをそのまましても面白くないからなく。」

千歌 「そ、それで、その商品は？」ゴクリ

希 「梨子ちゃんのキス。」

真姫 「私、お手洗いに行ってくるわ。」

ツバサ 「あ、私も行こうかしら。」

ことり 「ことりは、もうちよつと休憩しよつと。」

絵里 「私もバナナもう少し食べたいし・・・。」

希 「まあまあみんな、最後まで話聞きーや。」

千歌 「聞く必要性を感じられない・・・。」

希 「この鬼ごっこの参加者、実は一人だけ既にいるんよ。」

真姫 「誰よ、そのモノ好きは？」

希 「穂乃果ちゃん。」

ことり 「ちよつと待って、どういうこと？」

希 「ん？ そのまんまやで？ 商品のこと言ったら、穂乃果ちゃんがしたいって。」

ことり 「ん？ん？ん？ どういうこと？ 状況が分からない。」

絵里 （そういえば、ことりと海未は穂乃果が梨子ちゃんのこと好きになつてること知らないんだっけ。）

※王様ゲームで梨子にキスされた影響で穂乃果は梨子に惚れている状況にあります。

海未とことりは、その事実にはショックをうけ、倒れ、その時の記憶がない状態になります。

希 「まあ簡単に言うと、このまま参加者がいなければ不戦敗ということ、自動的に梨子ちゃんと穂乃果ちゃんがキスすることになります。」

ことり 「やります。ことりも鬼ごっこやる。」

希 「お！これで二人やな！」

絵里 「ていうか、この7人以外でも参加OKなの？」

希 「なんでもありや。」

ドドドドド

海未 「ちよつと!!!!ということですか！希!!聞いてませんよ！ガラッ

希 「いや、だから言った通りやん。そりや、言ってるないし。」

海未 「私も参加します。そのふざけた鬼ごっこに!!」

千歌 「はえ、じゃあ今からミューズの二年生、3人の勝負だ。」

希 「あ、ちなみに副賞として、バナナ一か月分もあります。」

千歌 「いや、そんな副賞いらないでしょ。」

ダイヤ 「じゃあ、千歌さんも参加ですね。」

善子 「間違いないわね。」

千歌 「んん？ どういうこと？」

ダイヤ 「だって、ね？バナナと言えば……。」

善子 「うん。」

千歌 「いや、全然わからないのだ。」

希 「はい、じゃあ、千歌ちゃん、海未ちゃん、ことりちゃん、

穂乃果ちゃんの4人で鬼ごっこをしてもらいます！」

千歌 「」

希 「でも、後一人ぐらい欲しいので……ツバサさんお願いします。ます。」

ツバサ 「は？」

希 「はい、じゃあ、今言った五人は、グラウンドに集合ね、あ、隣の部屋に運動用の着替えあるから、それに着替えてな！じゃ！」

ツバサ 「」

千歌 「・・・ツバサさん、諦めましょう。」

ことり （全然状況が分からないけど、死ぬ気でやるしかないね。）

海未 （・・・絶対負けません。）

↳別室↳

穂乃果 「・・・よしっ、やるぞ!!」

↳さらに別室↳

梨子 （私は、誰が勝ってもいいのだけどね♪）  
つづく

## 第18話 鬼ごっこ開始

くグラウンド場に集まった4人く

ことり 「うう、寒いようく。」

海未 「なぜ、穂乃果がこんな鬼ごっこに……。」

千歌 「うう、最悪だあ……。」

ツバサ 「本当にね……。」

穂乃果 「あ、みんな、久しぶりだね。」

ことり 「あ、穂乃果ちゃん!!」

どうして、この鬼ごっこに参加したの!？」

海未 「そうですよ!!頭でも打ったのですか??」

穂乃果 「え、ええと、秘密かな／＼」

ことり 「穂乃果ちゃんにいつたい何が。」ガタガタ

海未 「状況がまったくわかりませんが、何としても阻止しなければ。」

ツバサ 「……。」↑興味なし

千歌 「……。」↑同じく興味なし

希 「じゃあ、みんなには、例の鬼ごっこをしてもらいます。ルールは知ってると思いますが、一応説明しときます。鬼ごっこ中は、笑ってもいいですけど、鬼に捕まったら、その鬼の体に書いてある罰をその場で受けてもらいます。以上。」

千歌 「はあ、これってビンタとかろいろキツイんだよね?」

ツバサ 「ええ、死ぬ気で走るしかないわね。」

海未 「走るのには自信があります、絶対一番活躍して見せます!」

ことり (一番活躍したら、梨子ちゃんとキスだけどね。というか、よく考えたら海未ちゃんに任せとけば大丈夫な気がしてきた……。)

穂乃果 「負けないよう。」

希 「じゃあいくでく、鬼ごっこスタート!!」

く鬼ごっこスタートく

プシユク ↑煙とともに現れる鬼3人

ことり 「え、ええと、罰はビンタに一本背負いにタイキック……、

鬼畜だね。」

ツバサ 「ちよつと!?!こつちに来た、しかもタイキックが!!」

海未 「ふ、私に来るとは、いいでしょう!逃げ切って見せます!」ダダダ

穂乃果 「わくん、穂乃果のところにビンタがきたよ!!」ダダダ

千歌 「・・・よかった、他の三人のところに行ってくれた。」

ツバサ 「ハア、ハア・・・嫌よ、タイキックだけは!」

ガシツ ↑全力で逃げるも捕まってしまう

ツバサ 「・・・はあはあ、え、嘘でしょう?? いや、いやあああ

!!」ドゴオオン↑思い切り蹴られるツバサ

ツバサ 「↑痛さのあまりその場に崩れ落ちる

千歌 「ぶつwwww痛そうwww」↑遠くから見学する千歌

穂乃果 「ふう、何とか逃げ切れた。」↑何とか鬼を撒いた

海未 「これなら余裕ですね。」↑余裕で逃げ切れた

ことり 「これって逃げ切れるもんなんだね・・・。まあ毎日、正気か疑うくらい走ってるもんね。」

くモニター室く

凜 「希ちゃん、ミューズの三人が走るのが早すぎてゲームにならないよ?特に海未ちゃんとか捕まる気配全くないよ?」

希 「確かにこのままやと、千歌ちゃんとツバサさんの罰ゲームになってしまふな・・・。」

よし、鬼もう10人くらい追加しようか。」

凜 「ふww了解。結局千歌ちゃんとツバサさんが地獄になりそうだけどww」

希 「そこは頑張ってもらおうww」

希 「え〜鬼10人追加します。」↑アナウンス機器にて放送

千歌 「早くないっ!」

まだ、開始から5分くらいだよ??

すでにビンタとタイキックくらって、死にそうなんですけど

??

ツバサ 「はあはあはあ・・・うう、私ももつとランニングしておけ

ばよかった。

「というか一本背負い受けてから、腰から変な音が聞こえるんだけど……。」

ことり 「何としても私達に罰を与えたいみたいだね……。」↑未だ無傷

海未 「望むところですよ!!」↑未だ無傷

穂乃果 「ファイトだよっ!」↑未だ無傷

千歌 「はあはあ、やだやだやだああ!!」ガシツ↑捕まってしまう

千歌 「はあはあはあ、え、何? 鼻フツク??」

痛たたたたっ、痛い、痛いよおおお!!??」

ことり 「はあはあっ! 3人で追いかけるのはずるいよお!」ガシツ↑捕まる

ことり 「はあはあはあ、張り手にケツバットにパイ投げ……。」

え、え、え? ていがか何?? 全部の罰受けるの???

海未 「ふうふう、流石に余裕はないですが逃げ切つて見せます!」↑5人に追いかけている。

穂乃果 「いたああああい!!」↑タイキツクをくらった

く 観客室く

絵里 「……えぐいわね、これ。」

善子 「これ乗り越えた先にあるのがキスつていうのも救いようがないわね。」

真姫 「というより、海未凄すぎない??」

く 開始から30分く

一度全員集まる五人

海未 「くっ、まさか捕まってしまうなんて……。」

ことり 「8人くらいで挟み撃ちされてたもんねww」

千歌 「もう帰りたい、旅行もいいから。」

ツバサ 「同感よ。」

ことり 「千歌ちゃん、一回ガチ泣きでもうやめたって訴えてたけどどうだったの?」



千歌 「だめって言われて、突き返されました……。」

ことり 「ふwwまあ頑張ろうよ千歌ちゃんww」

千歌 「……はい。」

穂乃果 「というより、これって何をしたら、クリアなの？」

4人 「……さあ?」

千歌 「……え？」

もう、どうすればいいの! 私たちは!!」

ことり 「ふふww落ち着いて千歌ちゃっ!」 ↑鬼が近づいてくるのに気づくことり

ことり 「……。」

海未 「どうしたのですか、ことり?」

ことり 「……いや、どうしたらクリアできるのか考えてたの。」 ↑鬼のことは黙っている

ツバサ (ことりさん、あなたとんだクズね、私もだけど……) ↑

ことり同様鬼に気付いているツバサ

海未 「ふむ、そうですね何をすればクリアなのか……。」

千歌 「うう、早くクリアしたいよおお。」

ことり&ツバサ (……今だっ!!) ダッ↑一斉に駆ける二人

千歌 「え?」 ガシッ ↑何かに捕まれる千歌

千歌 「え?」 クルッ ↑振り返る千歌

鬼 「……。」

千歌 「え?裏切られた……?」

もうミュージズのファンやめよう……。

ていうか、罰のジングルベルがとまらないって何……。」

海未 「まったく、あの二人も裏切るとは、お仕置が必要ですね。」

ん? 何ですかね、このやかましいベルの音は?」

千歌 「海未さああん、助けてください。」 ↑大量のベルを体中に巻き付けられた

海未 「ふふふww、大変ですねwと、音を聞きつけた鬼がこちらに向かってきてますよ!」

千歌 「うわああああ、もうやだああああ!!」リンリンリンリンッ  
!!↑ベルの音

ことり 「千歌ちゃん、ごめんだけど凄く面白いwww」↑陰から高  
みの見物

ツバサ 「本当にwww」↑陰から高みの見物  
さらに15分後

希 「え、ツバサさんと千歌ちゃんがマジでやばそうなので、  
後10分くらいで終了にします。というわけで、鬼10人追加しま  
す。」↑アナウンス機器にて放送

千歌 「・・・あと10分。」

ツバサ 「・・・人生で一番長い10分になりそうね。」

穂乃果 「このままじゃ、多分海未ちゃんが一番逃げてそうだから、  
負ける・・・。」

穂乃果 （何とかして、勝たないと・・・。）  
つづく